取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

VOXY

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....12
検索のしかた.....13
イラスト目次.....14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....28
安全なドライブのために.....29
シートベルト.....31
SRS エアバッグ.....36
排気ガスに対する注意.....42

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....43
チャイルドシート.....44

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 60

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....62
計器類（4.2 インチディスプレイ）66
計器類（7 インチディスプレイ）..69
マルチインフォメーションディスプレイ.....73
ヘッドアップディスプレイ.....80
燃費画面.....85

3 運転する前に

3-1. キー
キー.....88
デジタルキー.....91

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア.....94
スライドドア.....97
バックドア.....109
スマートエントリー＆スタートシステム.....121

3-3. シートの調整
フロントシート.....126
セカンドシート.....127
サードシート.....132
ヘッドレスト.....133
シートアレンジ.....136

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....141
インナーミラー.....142
デジタルインナーミラー.....143
ドアミラー.....152
補助確認装置.....153

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....155

3-6. お好み設定
マイセッティング.....158

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....161
荷物を積むときの注意.....167

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ.....169
オートマチックトランスミッション.....173
方向指示レバー.....177
パーキングブレーキ.....177
ブレーキホールド.....180

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 183
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 187
AHB（オートマチックハイビーム）..... 190
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 193
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）194

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 197

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブ装着車）..... 199
Toyota Safety Sense 201
ドライバーモニター 209
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 210
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 219
LCA（レーンチェンジアシスト）224
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 227
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 232
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 237
発進遅れ告知機能 239
RSA（ロードサインアシスト）.. 240
レーダークルーズコントロール . 243
クルーズコントロール 251
ドライバー異常時対応システム . 254
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）..... 257
ITS Connect 262
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 269
安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）..... 274
クリアランスソナー 280
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 288
RCD（リヤカメラディテクション）..... 293
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 296
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 301
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 303
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 304
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）..... 307
トヨタチームメイト アドバンストパーク 309
運転を補助する装置 333
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 338

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 343

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン 348
リヤオートエアコン 357
リヤクーラー 360
ステアリングヒーター／シートヒーター 361

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 363

5-3. 収納装備

収納装備一覧 365
ラゲージルーム内装備 370

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 372

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 382
内装の手入れ..... 385

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 388
ガレージジャッキ..... 389
ウォッシャー液の補充 390
タイヤについて..... 391
タイヤ空気圧について 394
エアコンフィルターの交換..... 395
キーの電池交換..... 397
ヒューズの点検・交換..... 399
電球（バルブ）の交換 401

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 404
非常点滅灯（ハザードランプ）... 405
発炎筒 405
車両を緊急停止するには..... 406
水没・冠水したときは 407
車中泊が必要なときは 408

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 409
フューエルポンプシャットオフシステム 414
警告灯がついたときは 415
警告メッセージが表示されたときは 422
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 427
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 436
エンジンがかからないときは..... 443
キーをなくしたときは 445
電子キーが正常に働かないときは 445
バッテリーがあがったときは..... 448
オーバーヒートしたときは 451
スタックしたときは 453

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 456

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 461

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 472

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）474
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....477
アルファベット順さくいん.....480
五十音順さくいん.....482

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

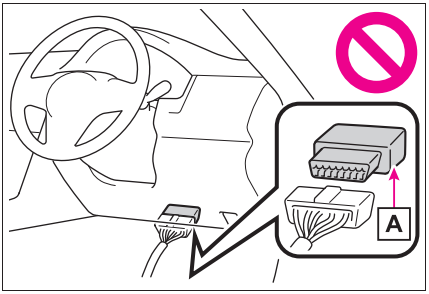
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※1

※1 グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合

● エンジン始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

● 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

● トヨタ自動車が訴訟で使用する場合

・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。

● 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

● 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合

● トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止す

ることも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよ

ぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.338）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売

店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

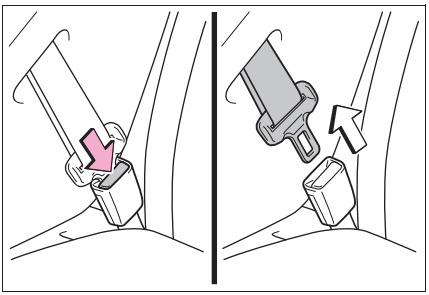
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

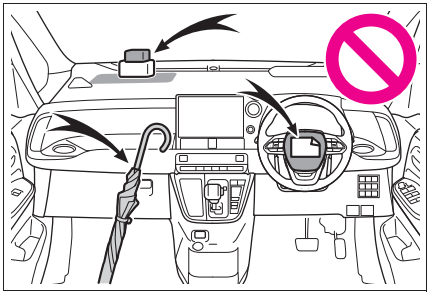
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



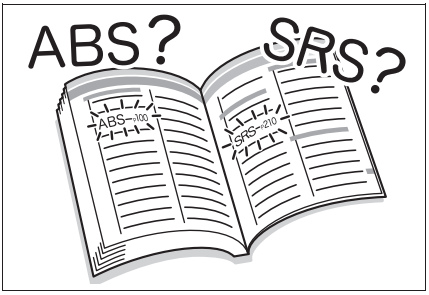
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

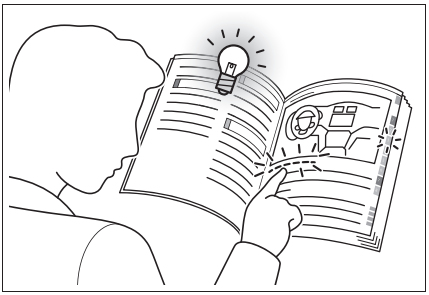
●五十音順さくいん：→P.482

●アルファベット順さくいん：→P.480



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14



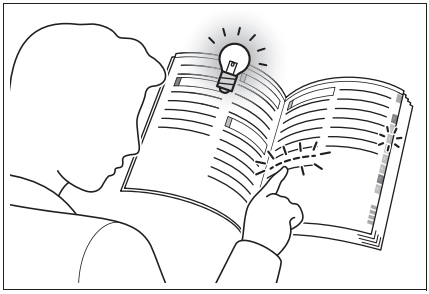
■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.474

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.477

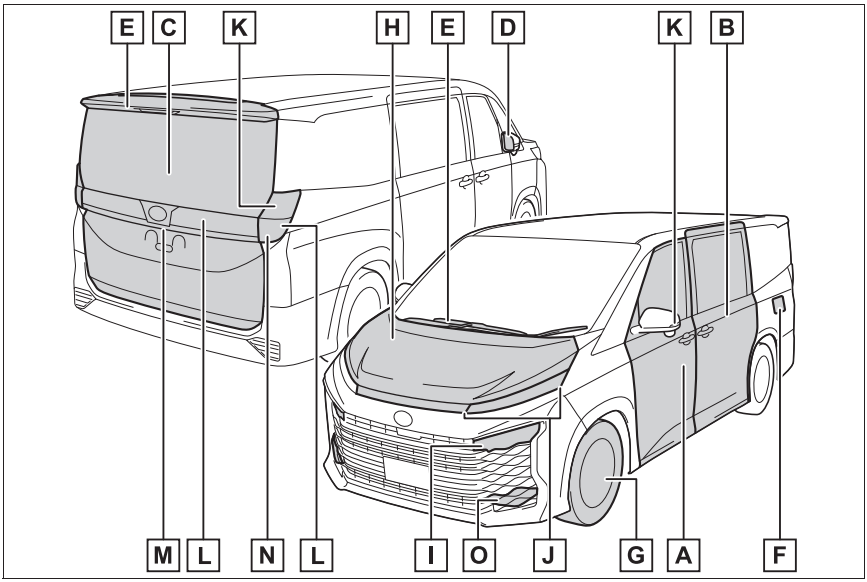
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A フロントドア P.94

施錠／解錠 P.94, 96

ドアガラスの開閉 P.155

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.445

警告メッセージ P.96

B スライドドア P.97

施錠／解錠 P.98

スライドドアの開閉 P.107

パワースライドドア P.99

ドアガラスの開閉 P.155

警告メッセージ P.96

C バックドア P.109

施錠／解錠 P.111

バックドアの開閉 P.111

パワーバックドア★ P.113

警告メッセージ P.96

D ドアミラー P.152

鏡面の角度調整 P.152

ミラーの格納 P.153

曇りを取る（ミラーヒーター）★ P.352

E ワイパー P.193, 194

冬季の注意 P.343

凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.352

F 給油口 P.197

給油方法 P.197

燃料の種類・燃料タンク容量 P.456

G タイヤ P.391

サイズ・空気圧 P.459

冬用タイヤ・タイヤチェーン P.343

点検・ローテーション P.391

パンク時の対処 P.436

H ボンネット P.388

開け方 P.388

エンジンオイル P.456

オーバーヒート時の対処 P.451

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.401, ワット数：P.460）

I ヘッドランプ P.183

J 車幅灯・デイライト★・方向指示灯 P.177, 183

K 方向指示灯 P.177

L 尾灯 P.183

M 番号灯 P.183

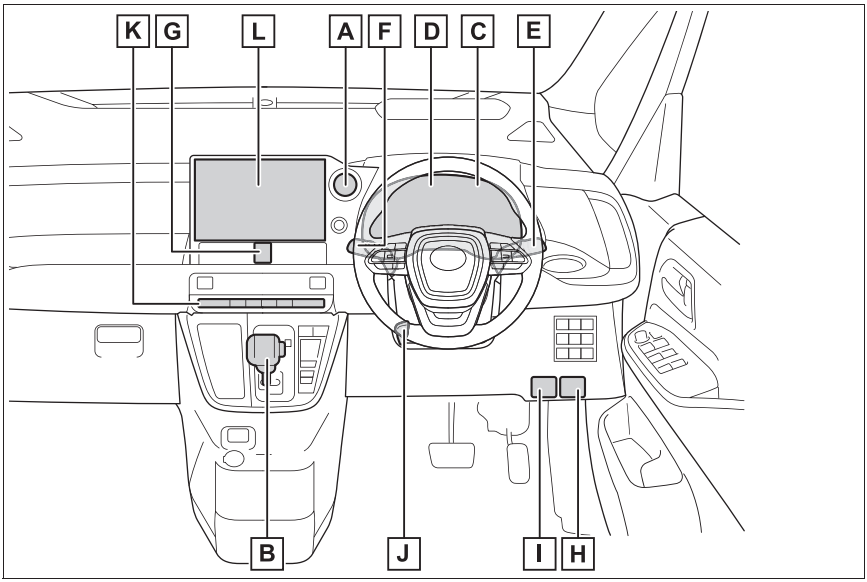
N 後退灯

シフトポジションをRにする..... P.173

O 薄暮灯★ P.183

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.169

エンジンの始動・モード切りかえ P.171

エンジンの緊急停止 P.406

エンジンが始動できないときの対処 P.443

警告メッセージ P.422

B シフトレバー P.173

シフトポジションの切りかえ P.174

けん引時の注意 P.409

シフトレバーが動かないときの対処 P.175

C メーター P.66, 69

見方・明るさの調整 P.66, 69

警告灯／表示灯 P.62

警告灯点灯時の対処 P.415

D マルチインフォメーションディスプレイ P.73

表示内容 P.73

警告メッセージ表示時の対処 P.422

E 方向指示レバー P.177

ランプスイッチ P.183

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・デイライト★・薄暮灯★ P.183

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.193, 194

使い方 P.193, 194

ウォッシャー液の補充 P.390

G 非常点滅灯スイッチ P.405

H 給油扉オープナー P.198

I ボンネット解除レバー P.388

J ハンドル位置調整レバー P.141

調整方法 P.141

K フロントオートエアコン P.348

操作方法 P.348

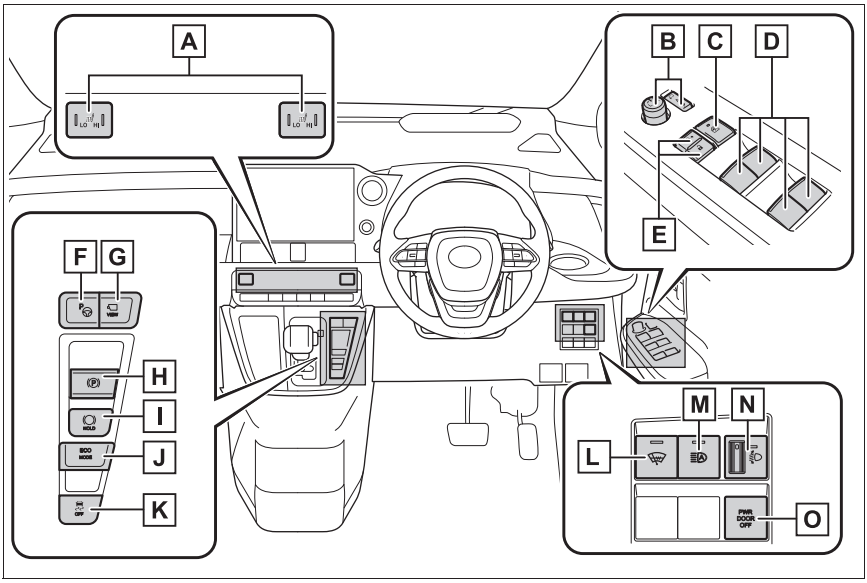
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） .. P.352

L オーディオ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



A シートヒータースイッチ★ P.362

B ドアミラースイッチ P.152

C ウインドウロックスイッチ P.157

D パワーウインドウスイッチ P.155

E ドアロックスイッチ P.96

F アドバンストパークメインスイッチ★ P.309

G カメラスイッチ ※★

H パーキングブレーキスイッチ P.177

かける・解除する P.177

冬季の注意 P.344

警告ブザー・警告メッセージ P.179, 415

I ブレーキホールドスイッチ P.180

J エコモードスイッチ P.175

K VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.334

L フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.352

M アダプティブハイビームシステムスイッチ★ P.187

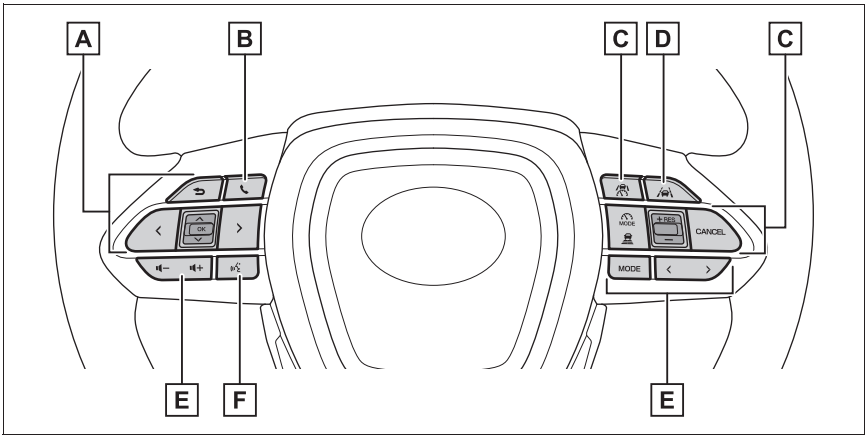
オートマチックハイビームスイッチ★ P.190

N 手動光軸調整ダイヤル★ P.186

O パワードアオフスイッチ P.108, 121

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A メーター操作スイッチ P.74

B 電話スイッチ ※

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.243

クルーズコントロール P.251

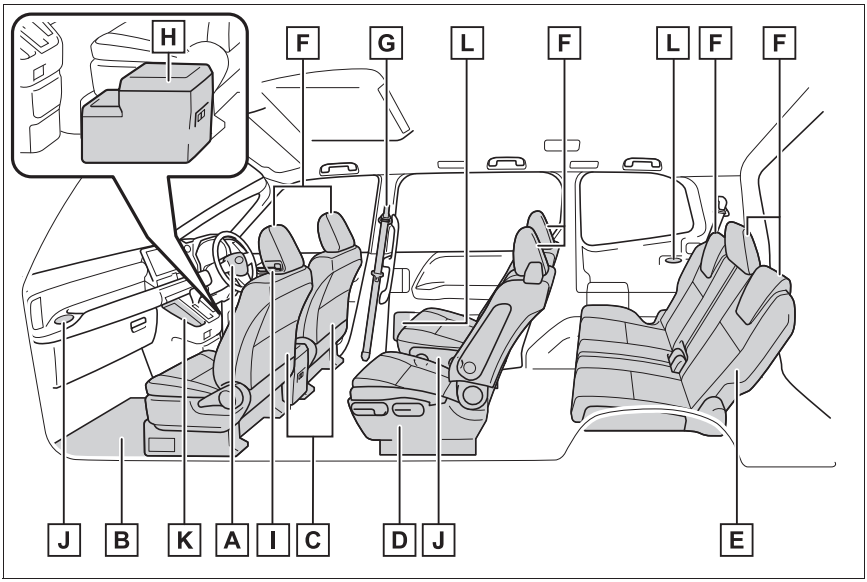
D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.219

E オーディオスイッチ ※

F トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.36

B フロアマット P.28

C フロントシート P.126

D セカンドシート P.127

E サードシート P.132

F ヘッドレスト P.133

G シートベルト P.31

H コンソールボックス★ P.366

I ロックレバー P.96

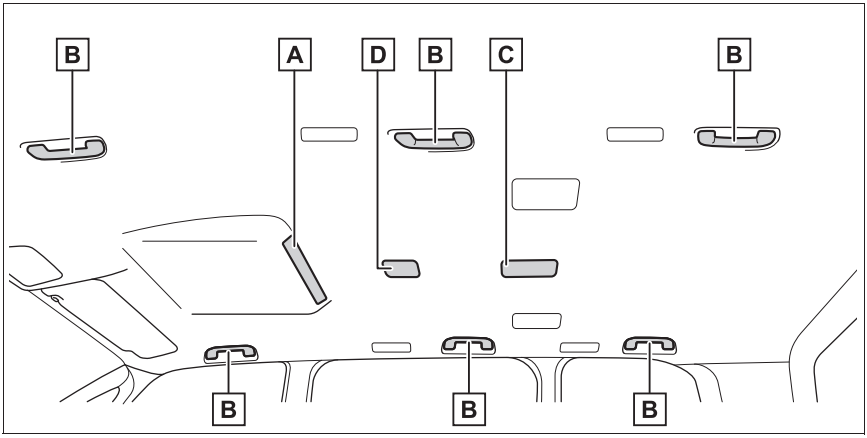
J カップホルダー P.367

K 小物入れ P.369

L ボトルホルダー P.368

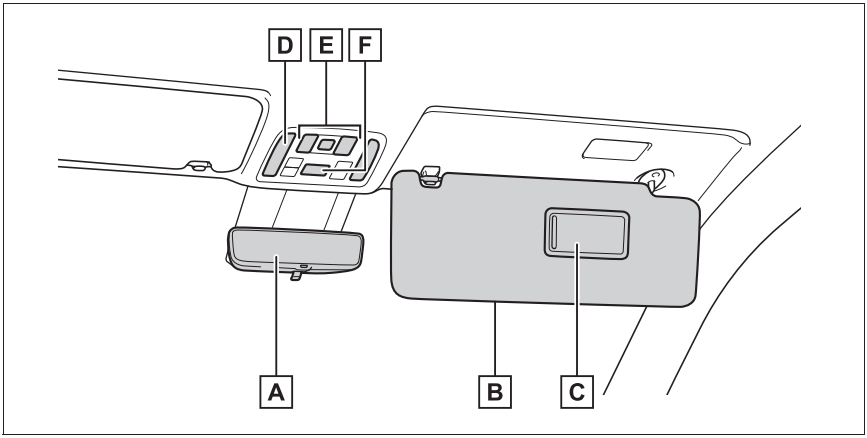
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井



A リヤオートエアコン★ P.357
リヤクーラー★ P.360
B アシストグリップ P.378
C リヤインテリアランプ P.364
D シートテーブルダウンライト★ P.363

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A インナーミラー★ P.142

デジタルインナーミラー★ P.143

B サンバイザー ※1 ..... P.372

C バニティミラー P.372

D フロントインテリアランプ・パーソナルランプ P.364

E パワースライドドアスイッチ P.99

パワーバックドアスイッチ★ P.113

F ヘルプネットボタン ※2

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.46）

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 28

安全なドライブのために 29

シートベルト 31

SRS エアバッグ 36

排気ガスに対する注意 42

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 43

チャイルドシート 44

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム 60

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

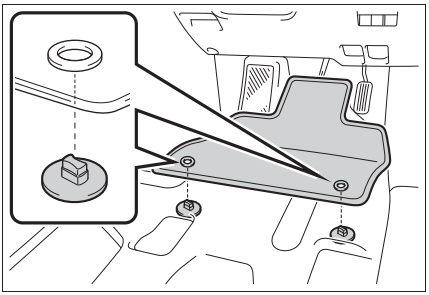
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

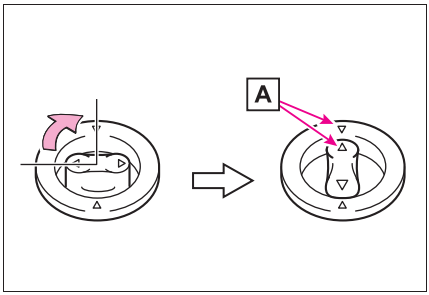
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

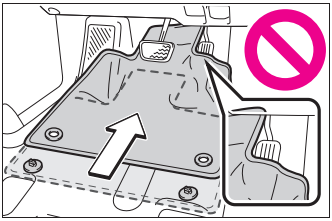
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

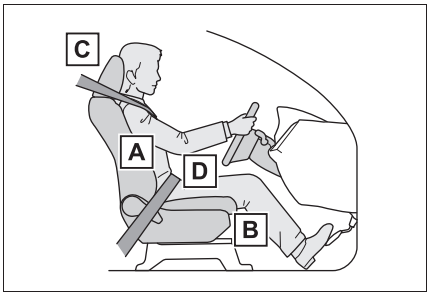


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.126）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.126, 141）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.133）

D シートベルトを正しく着用する（→P.32）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.32）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.44）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.142, 143, 152）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる

●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.32)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.55

■シートベルトの損傷・故障について

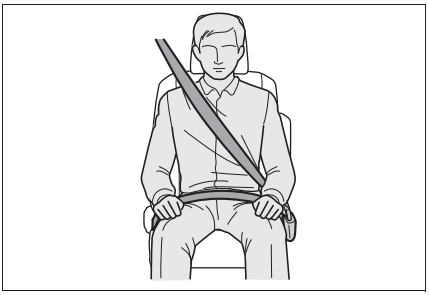
●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

知識

■お子さまのシートベルトの使い方

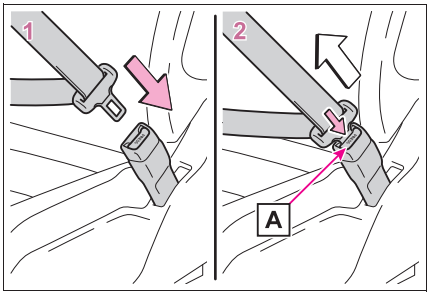
この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P.44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P.31）

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

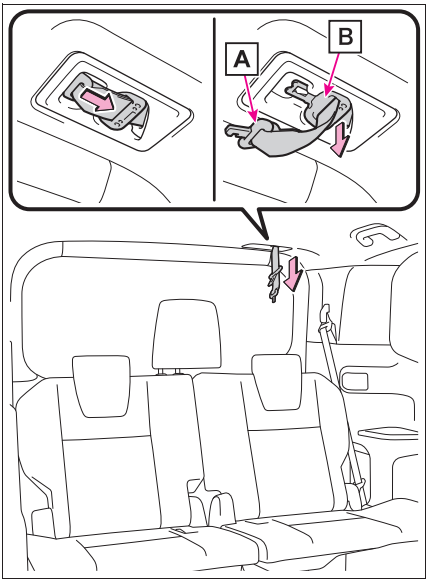


1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

着け方（サードシート中央席）

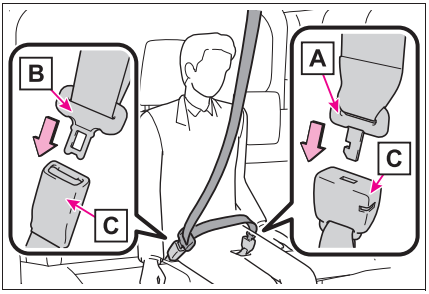
1 プレートを取り出す



A プレート A

B プレート B

2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に “カチッ” と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

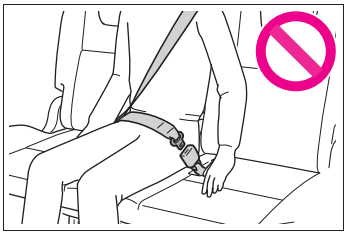
B プレート B

C バックル

警告

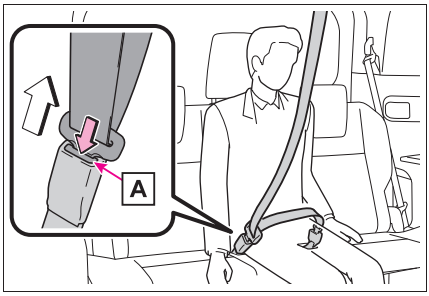
■サードシート中央席シートベルトについて

サードシート中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。（→P.33）結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



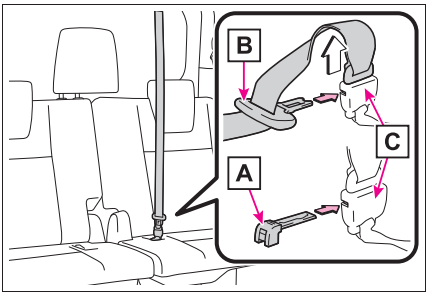
はずし方・格納のしかた（サードシート中央席）

1 バックルの解除ボタン A を押して、ベルトを解除する



2 メカニカルキー（→P.88）、またはプレート B をバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



A メカニカルキー

B プレート B

C バックル

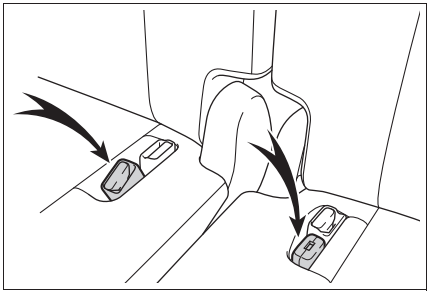
3 プレート B、プレート A の順にホルダーに格納する

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。

A プレート A

B プレート B

4 シートベルトのバックルをポケットに格納する

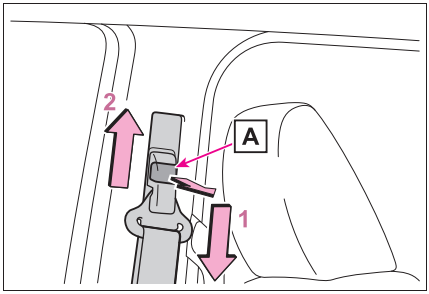


知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタンAを引きながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

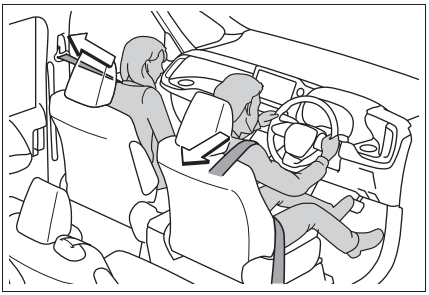
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・セカンド席）

▶ フロント席のみ

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

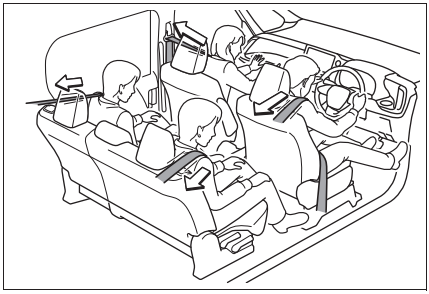


▶ フロント席・セカンド席※（キャプテン仕様車除く）

※ チップアップ仕様車は、外側席のみ装備されています。
7 人乗りユーティリティ仕様車は、右側席のみ装備されています。

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

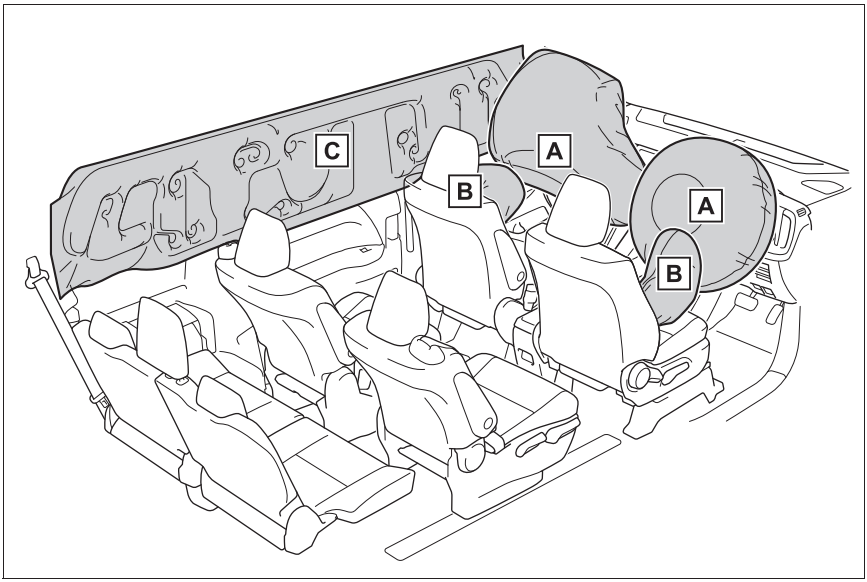
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

B SRS サイドエアバッグ

（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

C SRS カーテンシールドエアバッグ

（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.333）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.363）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.405）

●燃料供給を停止します。（→P.414）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

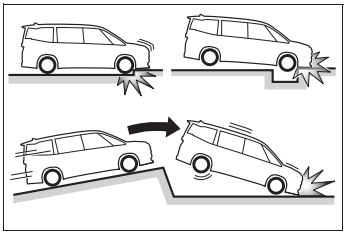
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



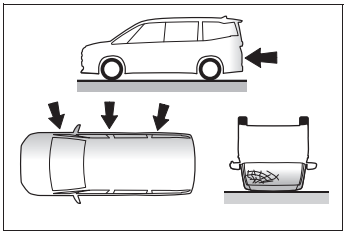
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

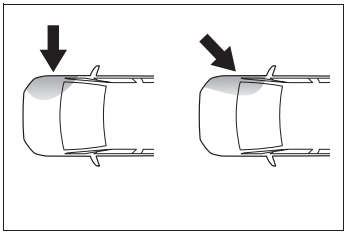


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

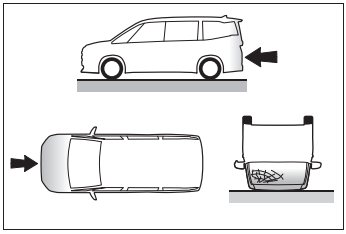


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

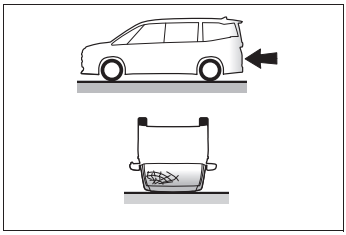
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

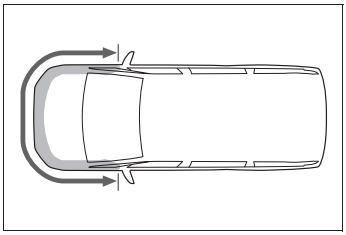


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

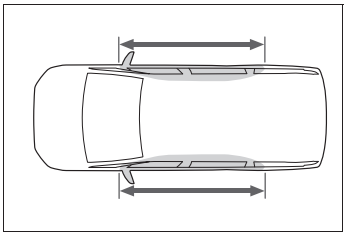
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

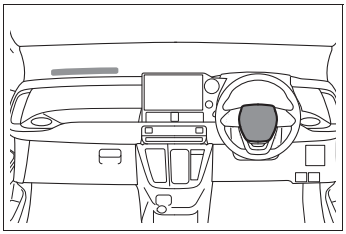
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



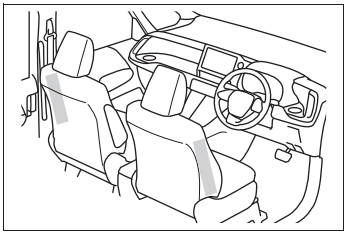
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



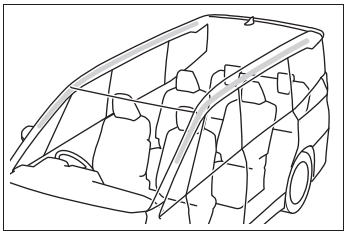
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

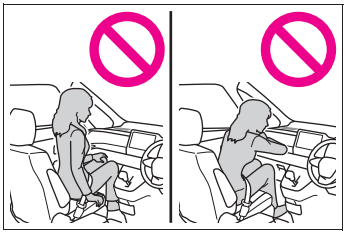
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

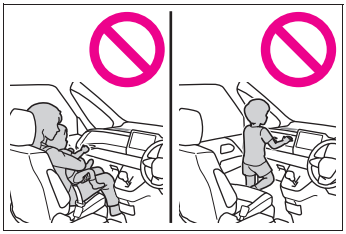
警告

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.44)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

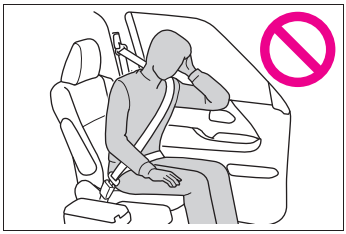


●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

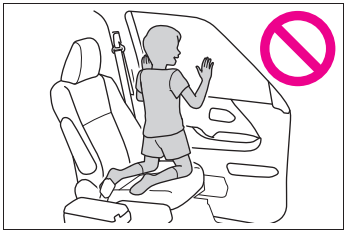


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

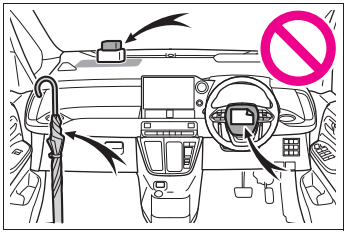
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

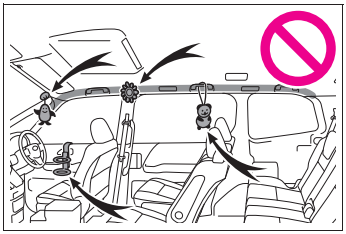


●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.430）



●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなど周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.108）・ウインドウロックスイッチ（→P.157）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.44）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
  トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.44

チャイルドシートを使用するときは：P.45

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.48

チャイルドシートの取り付け方法：P.53

・ シートベルトで固定する：P.54

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.56

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.57

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  （→P.48）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.48）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

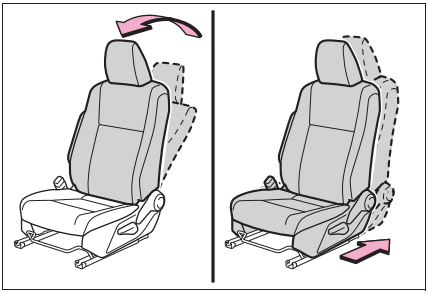
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



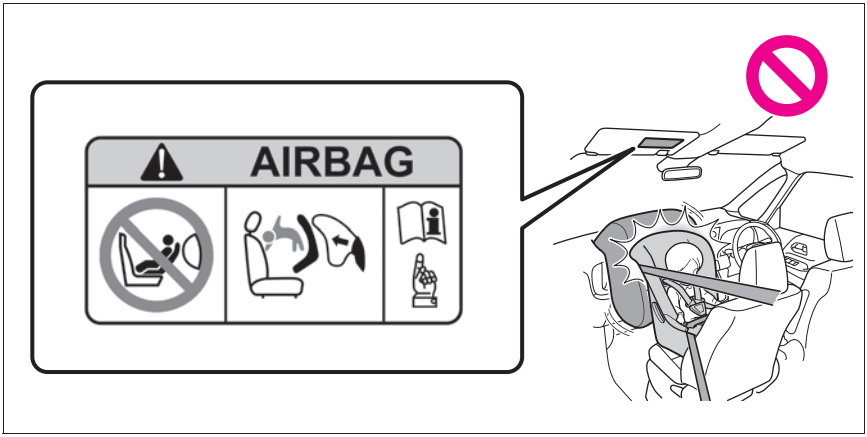
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

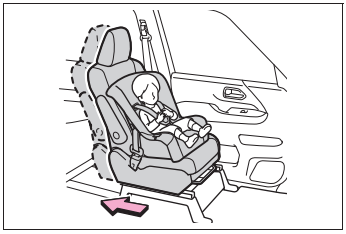
● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



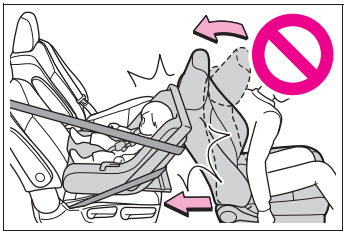
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

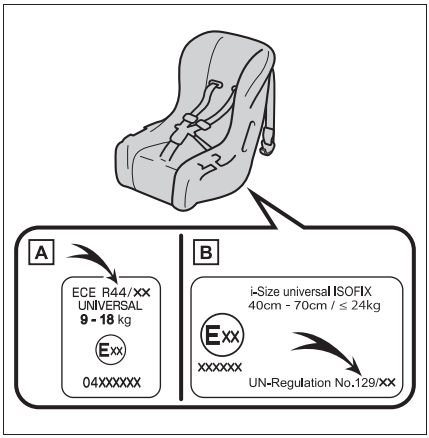
■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.49）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.53）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

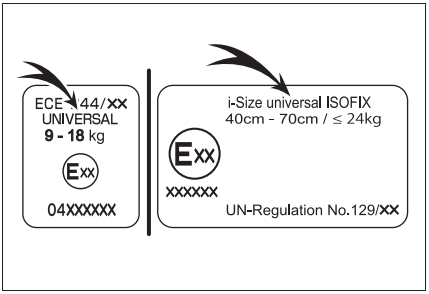
B UN（ECE）R129 認可マーク※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載

されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

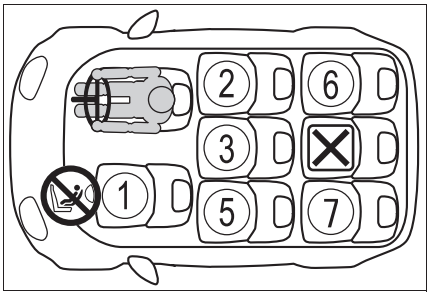


※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

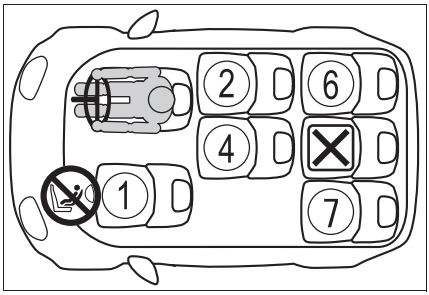
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

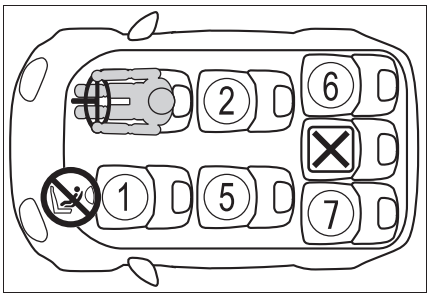
▶ セカンドシート（チップアップ仕様車）



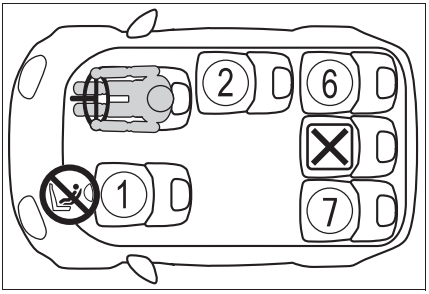
▶ セカンドシート（7 人乗りユーティリティ仕様車）



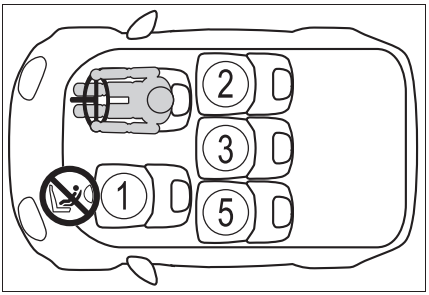
▶ セカンドシート（キャプテン仕様車［両側席］／サイドリフトアップチルト仕様車）



▶ セカンドシート（キャプテン仕様車［右側席のみ］）



▶ サードシート装着なし車



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3, 5	U L
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3, 5	U L
⑤ ※2, 3, 5	U L
⑥ ※2, 3	U
⑦ ※2, 3	U

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.53）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

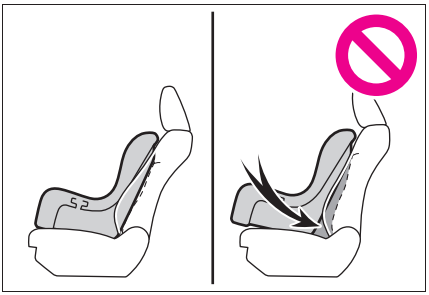
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※5ISOFIX チャイルドシートを取り付ける場合には、背もたれを後方に倒してからチャイルドシートを取り付け、チャイルドシートが安定する位置まで背もたれをもどしてください。チャイルドシートのレッグがサイドリフトアップチルトシートのレッグカバーに干渉するときは、サイドリフトアップチルトシートを前方にスライドさせ、フロアに接地させてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置							
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3	×	×

着座位置							
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	×	B2, B3	B2, B3	×	×

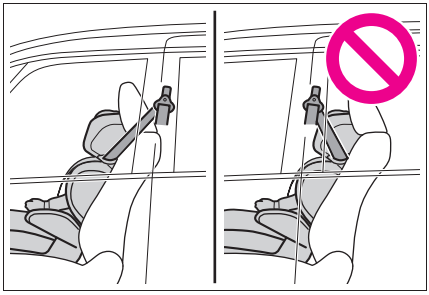
ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm（体重：～13kg）	後向き	×	○	×	○	○	×	×
	月齢15か月以上かつ、身長：76～100cm（体重：～18kg）	前向き	×	○	×	○	○	×	×
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm（体重：15～36kg）	前向きのみ	×	○	×	○	○	×	×

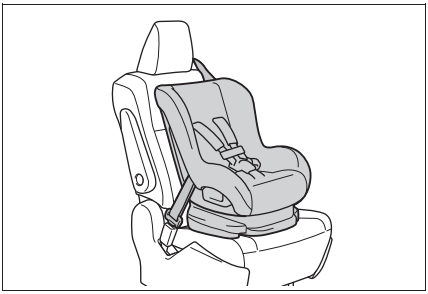
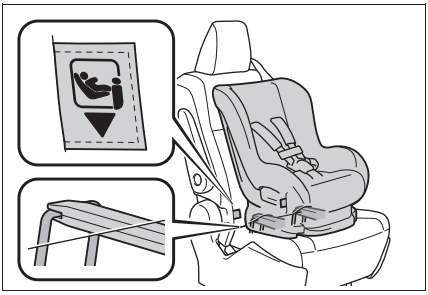
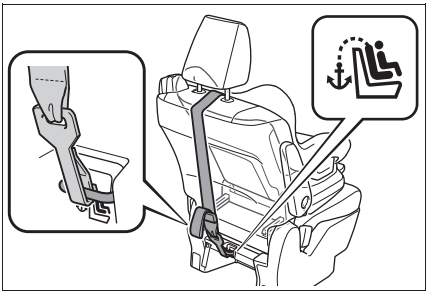
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.54
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.56
テザーベルトを固定する		P.57

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.48, 49）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.45）

2 背もたれを可能な限り起こす

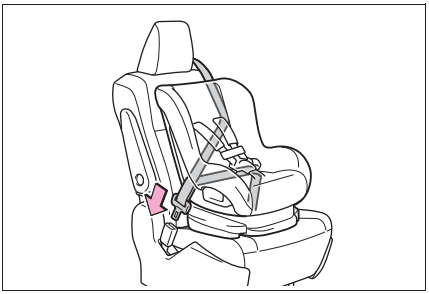
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの

あいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.133）

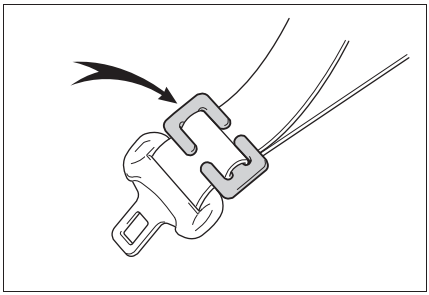
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.56）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

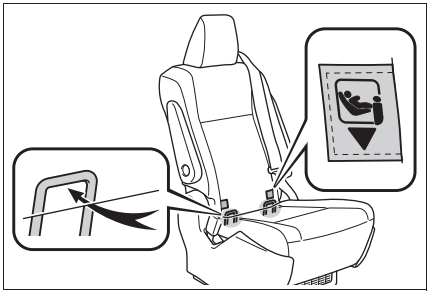
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

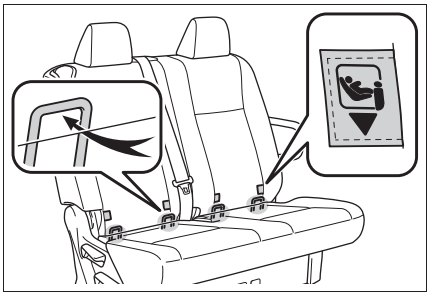
■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車は中央席を除くセカンドシートに ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

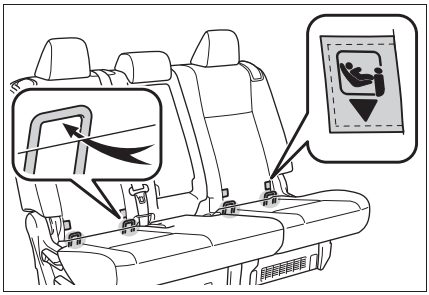
▶ キャプテン仕様車／サイドリフトアップチルト仕様車



▶ 7 人乗りユーティリティ仕様車



▶ チップアップ仕様車



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシート

メーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.48, 49）

1 背もたれを後方に倒してからチャイルドシートを取り付け、チャイルドシートが安定するまで背もたれをもどす

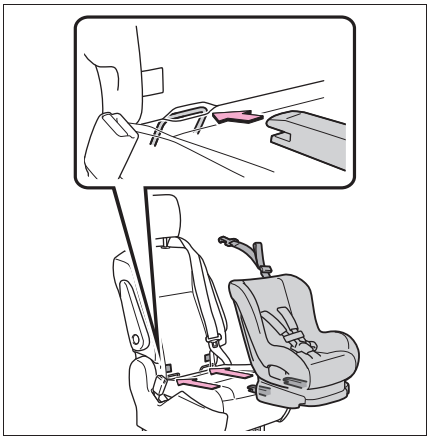
サイドリフトアップチルト仕様車以外：
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

サイドリフトアップチルト仕様車：
チャイルドシートのレッグがサイドリフトアップチルトシートのレッグカバーに干渉するときは、サイドリフトアップチルトシートを前方にスライドさせフロアに接地させる

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.133）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.56）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

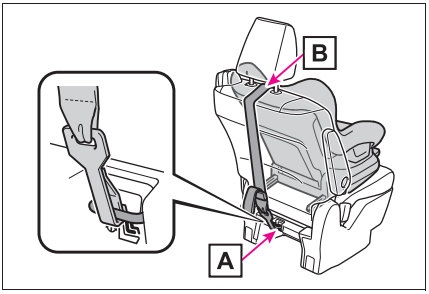
■ トップテザーアンカレッジについて

この車は中央席を除くセカンド

シートにトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

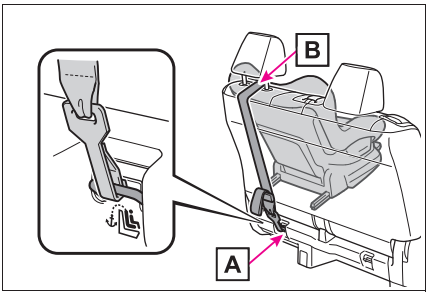
▶ キャプテン仕様車／サイドリフトアップチルト仕様車



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

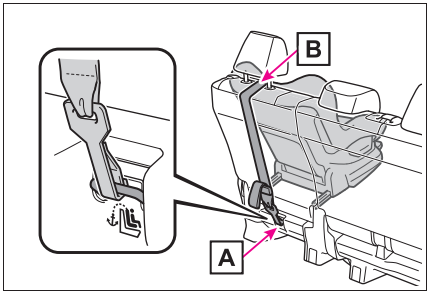
▶ 7人乗りユーティリティ仕様車



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

▶ チップアップ仕様車



A トップテザーアンカレッジ

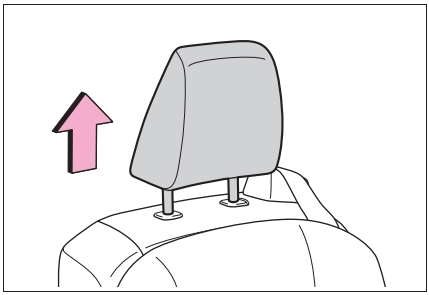
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

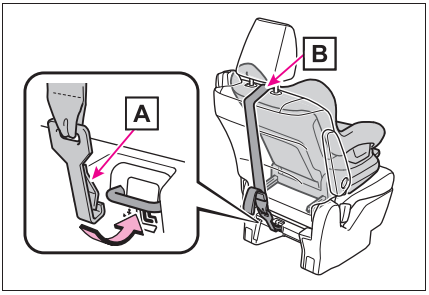
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.134）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.56）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジにかけてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

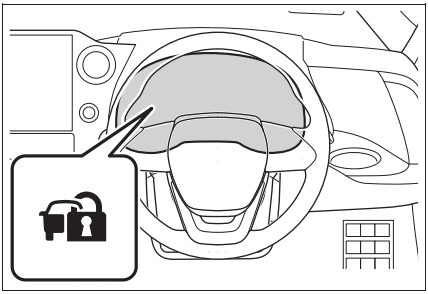
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 62
計器類（4.2 インチディスプレイ）
..... 66
計器類（7 インチディスプレイ）69
マルチインフォメーションディスプレイ 73
ヘッドアップディスプレイ 80
燃費画面 85

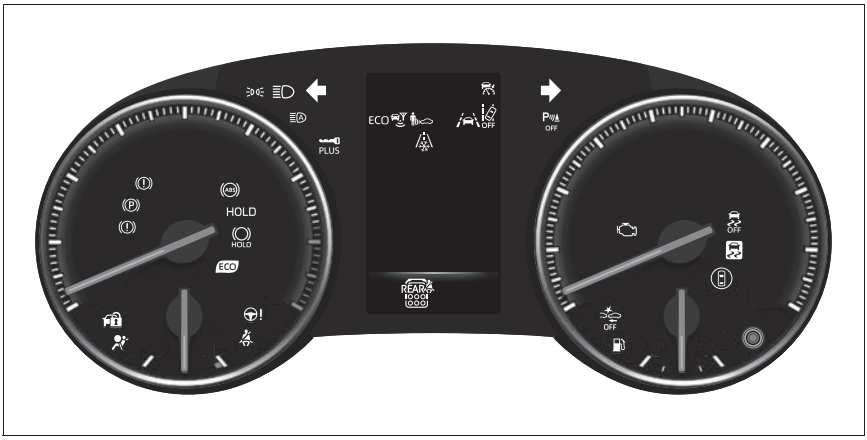
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

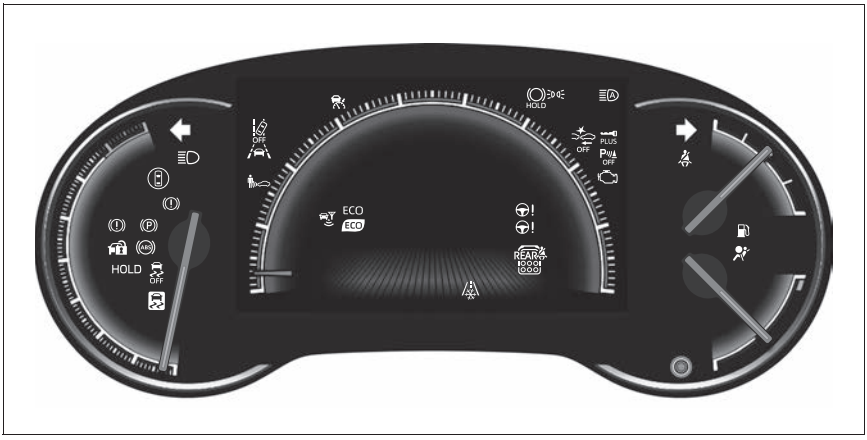
メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

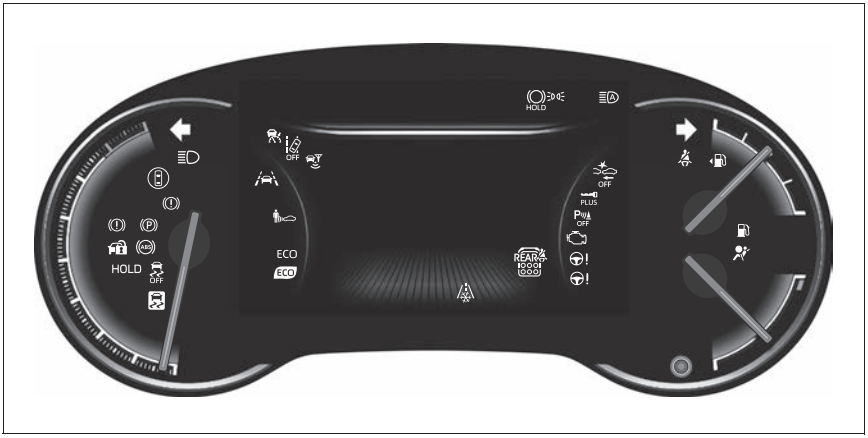
▶ 4.2 インチディスプレイ



▶ 7 インチディスプレイ（アナログスピードメーター選択時）



▶ 7 インチディスプレイ（デジタルスピードメーター選択時）



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.415）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.415）

高水温警告灯 ※2（→P.415）

充電警告灯 ※2（→P.415）

油圧警告灯 ※2（→P.416）

エンジン警告灯 ※1, 4（→P.416）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.416）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.416）

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 ※2（→P.417）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1, 4（→P.417）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1, 4（→P.417）

燃料残量警告灯（→P.417）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.417）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※3（→P.418）

（橙色）
LDA 表示灯 ※3（→P.418）

（橙色）
LTA 表示灯 ※3（→P.418）

（橙色）
PDA 表示灯 ※3（→P.418）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.419）

（点滅）
クリアランスソナー OFF 表示灯 ※4（→P.419）

（橙色）
クルーズコントロール表示灯 ※3（→P.419）

（橙色）
レーダークルーズコントロール表示灯 ※3（→P.420）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1, 4（→P.420）

スリップ表示灯 ※1（→P.420）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.420）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.420）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.177）

尾灯表示灯 ※1（→P.183）

ハイビーム表示灯（→P.185）

オートマチックハイビーム表示灯★ ※1（→P.190）
アダプティブハイビームシステム表示灯★ ※1（→P.188）

PCS 警告灯 ※2, 3（→P.218）

（※5）
クルーズコントロール表示灯 ※4（→P.252）

（※5）
レーダークルーズコントロール表示灯 ※4（→P.246）

（※5）
LDA 表示灯 ※4（→P.231）

LDA OFF 表示灯 ※3, 4（→P.231）

（※5）
LTA 表示灯 ※4（→P.223）

BSM ドアミラーインジケーター★ ※2, 6（→P.270）

PDA 表示灯 ※4（→P.235）

運転支援情報表示灯 ※2, 3（→P.271, 277, 289, 293, 297）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2, 3（→P.280）

クリアランスソナー検知表示灯 ※2, 7（→P.419）

スリップ表示灯 ※2（→P.334）
（点滅）

VSC OFF 表示灯 ※2, 3（→P.334）

スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※8（→P.169）

パーキングブレーキ表示灯（→P.177）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1, 2（→P.180）

ブレーキホールド作動表示灯 ※2（→P.180）

エコドライブインジケーターランプ ※1, 2（→P.75）

セキュリティ表示灯（→P.60）

エコモード表示灯 ※4（→P.175）

ITS Connect アイコン表示灯★（→P.264）

ITS Connect アイコン表示灯★（→P.264）

ITS Connect アイコン表示灯★（→P.264）

低温表示灯 ※4, 9（→P.67, 71）

プラスサポート表示灯★ ※1（→P.338）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します

※6 ドアミラーに表示されます。

※7 マルチメディア画面またはリヤカメラ非装着車

※8 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※9 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

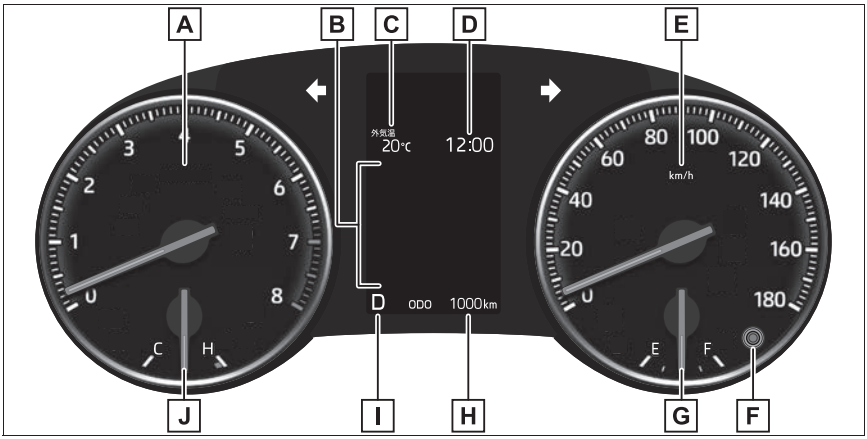
マルチメディア画面またはリヤカメラ非装着車は、ON/OFF の状態にかかわらずシフトポジションを R にすると消灯します。

計器類（4.2 インチディスプレイ）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.73）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.422）

C 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

D 時計（→P.68）

E スピードメーター

車両の走行速度を示します。

F 表示切りかえボタン（→P.68）

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき

・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.68）

I シフトポジション・変速段表示（→P.173）

選択されているシフトポジションまたは変速段を表示します。

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” or “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.74

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.78）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

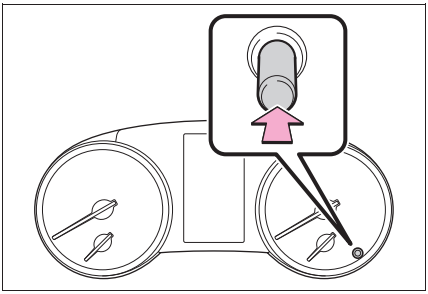
●水温計の表示がＨのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.451）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーターＡ／トリップメーターＢ

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップＡ・トリップＢの２種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーター照度調整

メーター照度調整の表示中にスイッチを押し続けると、メーター照明の明るさを調整できます。

知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

時計の調整をするには

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に“時計：00”が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

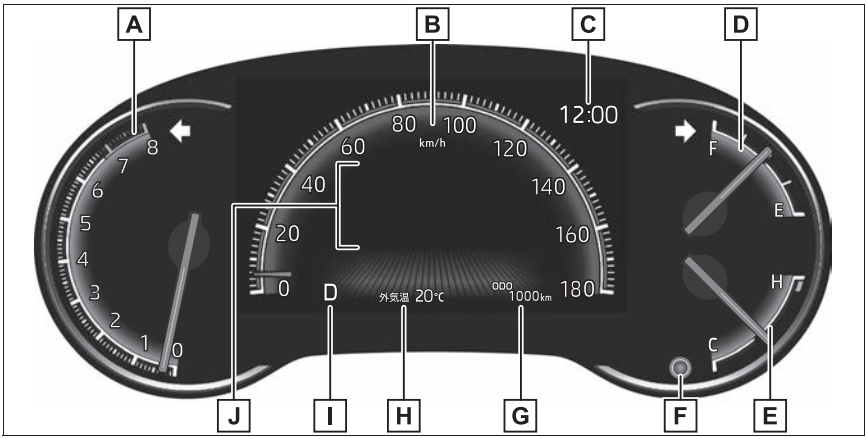
計器類（7 インチディスプレイ）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

スピードメーターの表示は、アナログまたはデジタルの 2 種類から選択することができます。（→P.78）

■ アナログスピードメーター選択時



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

車両の走行速度を示します。

C 時計（→P.72）

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 表示切りかえボタン（→P.72）

G オドメーター／トリップメーター（→P.72）

H 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

I シフトポジション・変速段表示

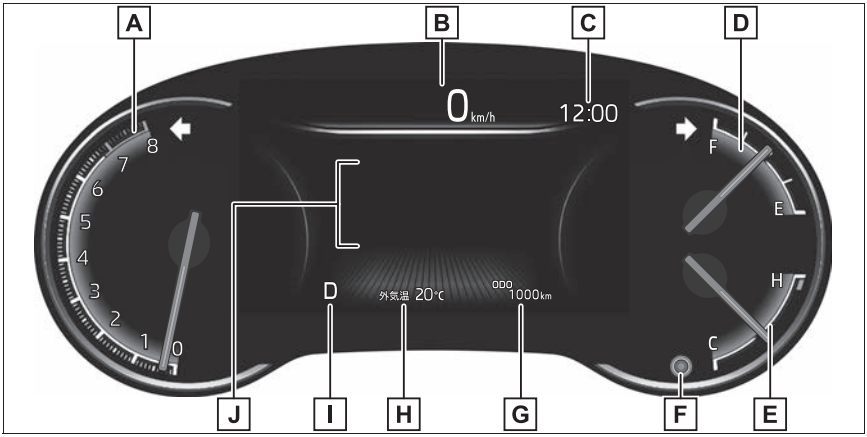
選択されているシフトポジションまたは変速段を表示します。（→P.173）

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.73）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.422）

■ デジタルスピードメーター選択時



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

車両の走行速度を示します。

C 時計（→P.72）

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 表示切りかえボタン（→P.72）

G オドメーター／トリップメーター（→P.72）

H 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

I シフトポジション・変速段表示

選択されているシフトポジションまたは変速段を表示します。（→P.173）

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.73）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.422）

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

● 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に ❄ が点滅し、そのあと点灯します。

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” or “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.74

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.78）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

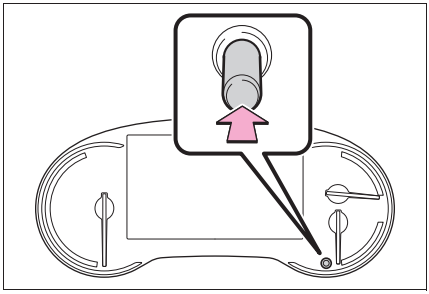
●水温計の針がＨのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.451）

オドメーター／トリップメーター

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーターＡ／トリップメーターＢ

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップＡ・トリップＢの２種類で使い分けることができます。リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーター照度調整

メーター照度調整の表示中にスイッチを押し続けると、メーター照明の明るさを調整できます。

知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

時計の調整をするには

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してくださ

い。

知識

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に “時計：00” が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

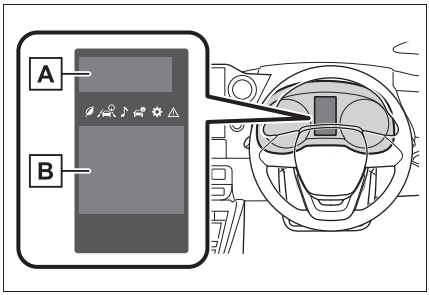
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更するともできます。

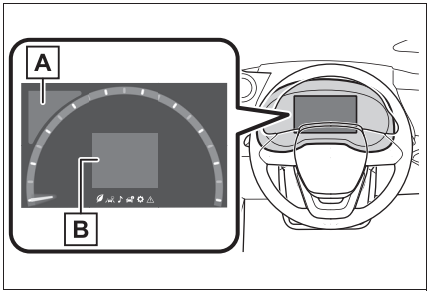
ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ 4.2 インチディスプレイ



▶ 7 インチディスプレイ



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動している

と、システムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.219）
・LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.227）
・レーダークルーズコントロール（→P.243）
・RSA（ロードサインアシスト）（→P.240）
・PDA(プロアクティブドライビングアシスト）（→P.232）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押すとメニューアイコンが表示されます。

走行情報表示（→P.75）

運転支援機能情報表示（→P.76）

オーディオシステム連携表示（→P.77）

車両情報表示（→P.77）

設定（→P.78）

警告メッセージ（→P.422）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

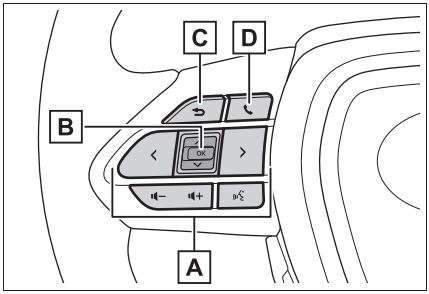
●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.72, 74

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜／＞：メニューの切りかえ

∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表

示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

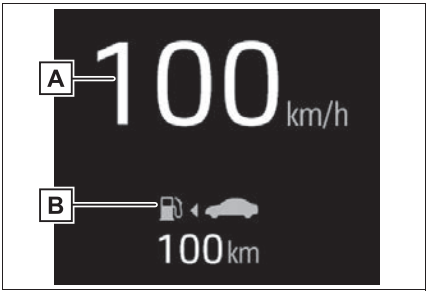
ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

- デジタル車速表示／航続可能距離（4.2 インチディスプレイのみ）
- 燃費グラフ
- エコドライブインジケータ／航続可能距離

■ デジタル車速表示／航続可能距離（4.2 インチディスプレイのみ）



A 車速表示

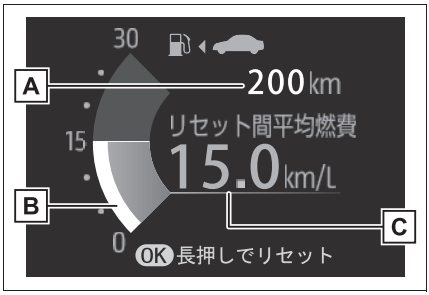
現在の車速を表示します。

B 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C リセット間平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

- 始動後平均燃費

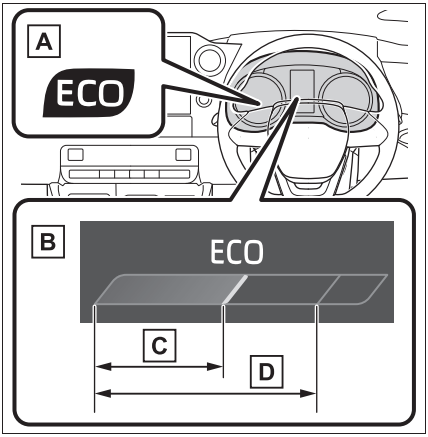
エンジン始動後の平均燃費を表示します。

- 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

■ エコドライブインジケーター／航続可能距離

- エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

知識

■航続可能距離について

●使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの設定など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。

●次の場合に、航続可能距離が “---km” と表示されます。

・燃料残量を計算しているとき（短時間）
・燃料残量計が “E” まで到達したとき・航続可能距離が計算できない異常が発生したとき

■エコドライブインジケーターについて

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

●シフトポジションが D 以外にあるとき

●車速が約 130km/h 以上のとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● クルーズコントロール（→P.251）

● レーダークルーズコントロール（→P.243）

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.219）

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.227）

● LCA（レーンチェンジアシスト）★（→P.224）

● RSA （ロードサインアシスト）

（→P.240）

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.232）

● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.210）

● ITS Connect★（→P.262）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● 4WD 作動状態表示 (4WD 車のみ)

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.78）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後※

・平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示

・走行距離：エンジン始動後の走行距離を表示

・走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示

※ エンジンを停止するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間※

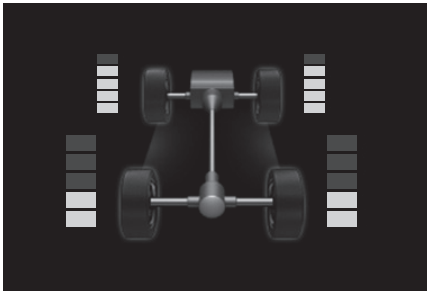
・平均車速：リセット後の平均車速を表示

・走行距離：リセット後の走行距離を表示

・走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ 4WD 作動状態表示 (4WD 車のみ)



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様

により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：
0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メータータイプ（7インチディスプレイのみ）

スピードメーターの表示方法を変更することができます。

● エコドライブインジケーター

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

● 🍃

・表示コンテンツ

次の設定を変更することができます。

デジタル車速（4.2インチディスプレイのみ）：
デジタル車速（→P.75）の表示・非表示を変更することができます。

・燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→P.75）

● ♪

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

● 🚗ⓘ

・表示コンテンツ（4WD車のみ）

次の設定を変更することができます。

4WD：
4WD作動状態表示（→P.77）の表示・非表示を変更することができます。

・ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ドライブインフォ項目

1行目と2行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには∧／∨／＜／＞／OK／⮌のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.461

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停

車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ点灯提案

周囲が暗いとき、車速 5km/h 以上でランプスイッチが消灯または≡D◯≡のまましばらく走行すると、ヘッドランプの点灯を提案するメッセージを表示します。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき “はい” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき “はい” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ウインドウロック解除提案

ウインドウロックスイッチ（→P.157）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで運転席以外のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

知識

■カスタマイズ機能

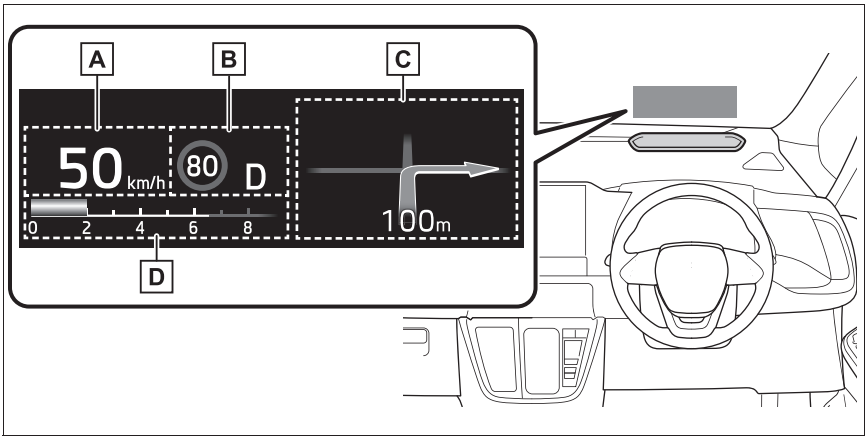
提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 車速表示

B シフトポジション・変速段表示／ RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.173, 240）

C 運転支援システム表示エリア／ナビゲーションシステム連携表示エリア★（→P.82）

D タコメーター／エコドライブインジケーター／外気温表示エリア（→P.83）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

●ヘッドアップディスプレイの表示が見づらい場合は、次の方法で調整してください。

・ヘッドアップディスプレイの上下調整（→P.81）
・シートの上下調整（→P.126）

●サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

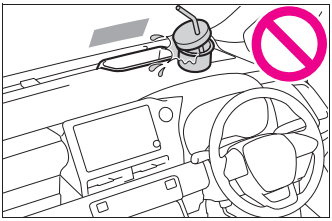
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。

ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。

装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から “HUD” を選択します。（→P.463）

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

・表示なし

・エコドライブインジケーター表示
・タコメーター表示

● 次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・ルート案内★
・運転支援
・オーディオ表示

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

■ 運転支援システム状況表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.219）
● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.227）
● LCA（レーンチェンジアシスト）★（→P.224）
● レーダークルーズコントロール（→P.243）
● 発進遅れ告知機能（→P.239）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示エリア★

ナビゲーションシステムと連携してルート案内を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■交差点名表示について★

地図データに情報がない場合など、状況

によっては交差点名称が表示されない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.210）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★（→P.237）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.227）
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.219）
- 発進遅れ告知機能（→P.239）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.232）
- ドライバー異常時対応システム（→P.254）
- ITS Connect★（→P.262）
- パーキングサポートブレーキ（静止物）（→P.301）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.162）
- ドライブスタートコントロール（→P.166）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ⚠ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.422）

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

■ オーディオ表示

オーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの使用中に表示されます。

知識

■割り込み表示について

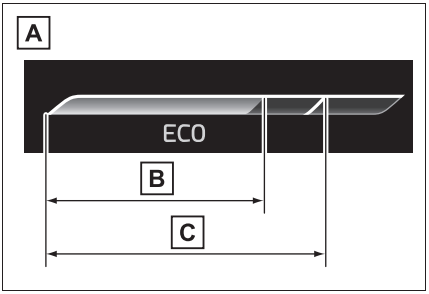
割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

タコメーター／エコドライブインジケーター／外気温表示

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.75 を参照してください。

■ 外気温表示

エンジンスイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

■外気温表示について

●外気温が約 3 ℃以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。

外気温が約 5 ℃以上になると再度外気温が表示されます。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

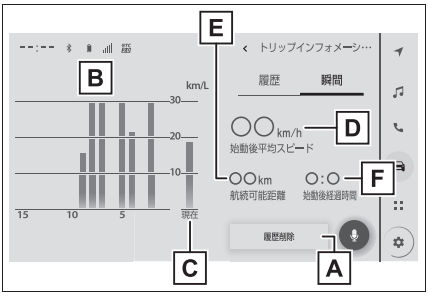
燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

燃費画面の表示のしかた

メインメニューの をタッチし、“トリップインフォメーション” を選択する

■ 瞬間燃費画面



A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

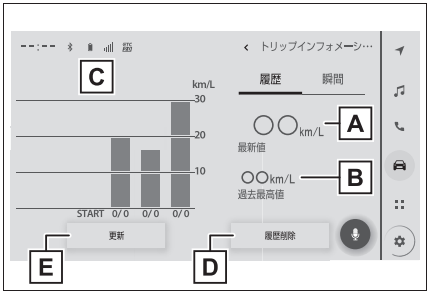
D エンジン始動後平均車速

E 航続可能距離

F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴削除” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 88

デジタルキー 91

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア 94

スライドドア 97

バックドア 109

スマートエントリー＆スタートシステム 121

3-3. シートの調整

フロントシート 126

セカンドシート 127

サードシート 132

ヘッドレスト 133

シートアレンジ 136

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 141

インナーミラー 142

デジタルインナーミラー 143

ドアミラー 152

補助確認装置 153

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 155

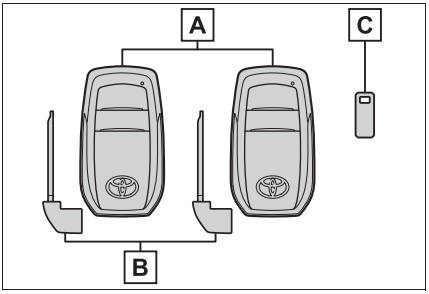
3-6. お好み設定

マイセッティング 158

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.121）
・ワイヤレス機能の作動（→P.89）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.123）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.397）
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.397）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください ” が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→P.397）

■電池の交換方法

→P.397

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

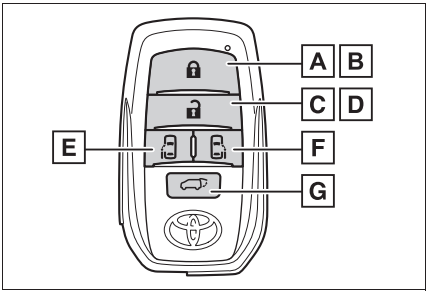
→P.445

■電子キーを紛失したとき

→P.445

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



A 全ドアを施錠する（→P.94）

B ドアガラスを閉める※（→P.94）

C 全ドアを解錠する（→P.94）

D ドアガラスを開く※（→P.94）

E 助手席側パワースライドドアを開閉する（→P.99）

F 運転席側パワースライドドアを開閉する★（→P.99）

G パワーバックドアを開閉する★（→P.113）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

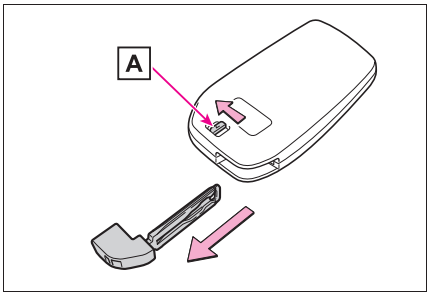
→P.123

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーAをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.445）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.445

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

知識

■QR コード

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

■デジタルキーの取り扱い

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・スマートフォンが故障した場合
・スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● デジタルキーでは、ドアハンドルにふれたり握ったりしてドアを施錠／解錠することはできません。（ワイヤレスで施錠／解錠することはできます）

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
  デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、パワーバックドアのクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

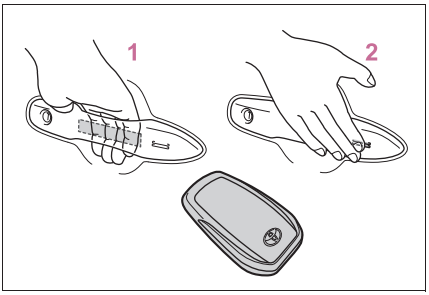
フロントドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する

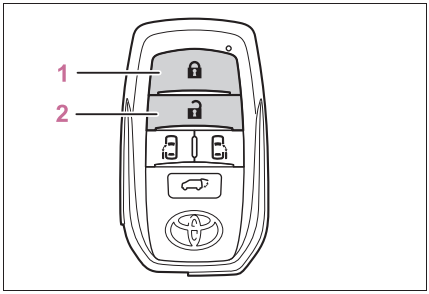
ドアハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■作動の合図

スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

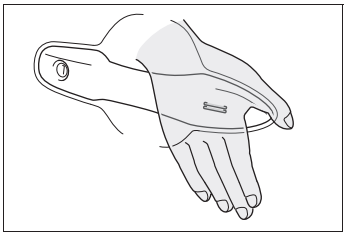
スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でスマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.123

■スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.445）

●キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.397）

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.445）

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・スライドドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
・エンジンが始動している状態でスライドドアを開閉した

ただし、スライドドアを開けてから約 2 秒以内にスライドドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、スライドドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能作動時に施錠すると、施錠の合図（→P.94）に加えて、非常点滅灯が 3 回点滅し、ブザーが 8 回吹鳴します。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→P.461）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

警告

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

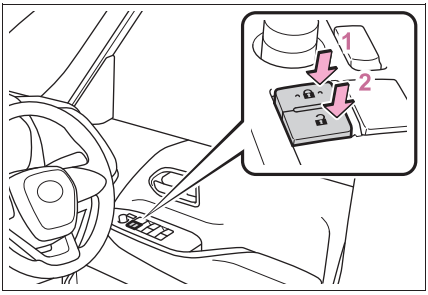
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンまたはキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

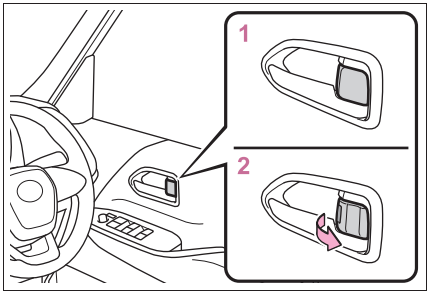
車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

知識

■キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P.108）を使用して車内からドアが開かないようにする

■スライドドアの操作にあたって

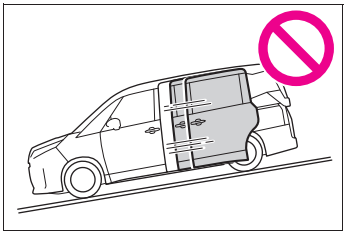
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

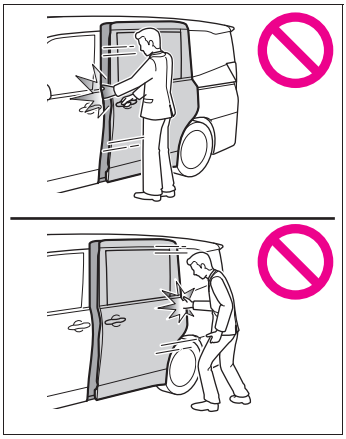
警告

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

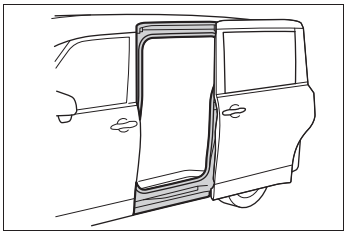


●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

→P.94

■ ワイヤレス機能を使用する

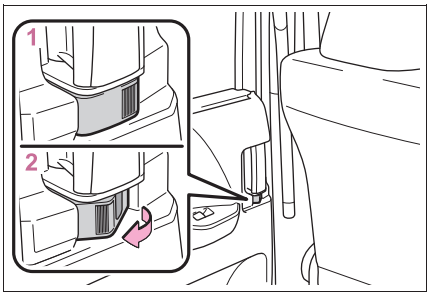
→P.94

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.96

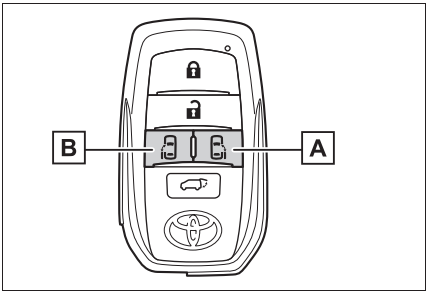
■ ロックレバーを使用する



1 施錠
2 解錠

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

■ ワイヤレス機能を使用する



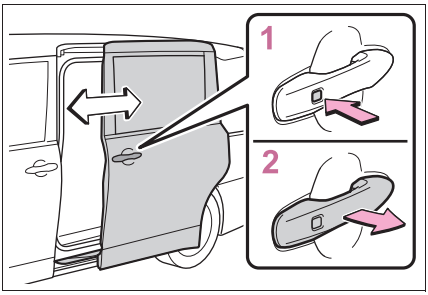
A 運転席側パワースライドドアを開閉する★（押し続ける）

B 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アウトサイドドアハンドルを使用する



1 スイッチを押して開閉する

ドアが施錠されているとき：電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。

電子キーが検知エリア内（→P.122）にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。

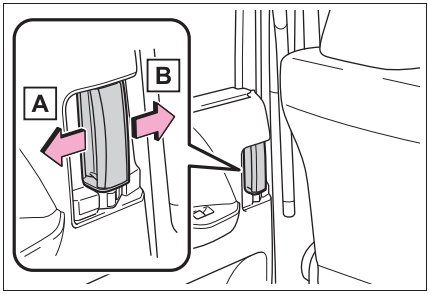
2 ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、作動を停止します。再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、反転作動します。

■ インサイドドアハンドルを使用する

インサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

A 開ける

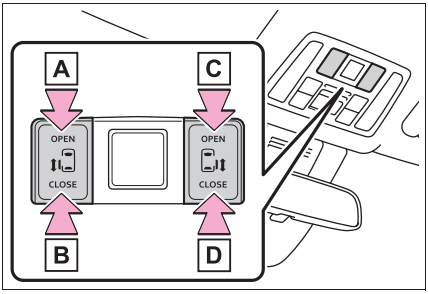
スライドドアを解錠してから操作してください。

B 閉める

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用する

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。



A 助手席側パワースライドドアを開ける

B 助手席側パワースライドドアを閉じる

C 運転席側パワースライドドアを開ける★

D 運転席側パワースライドドアを閉じる★

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

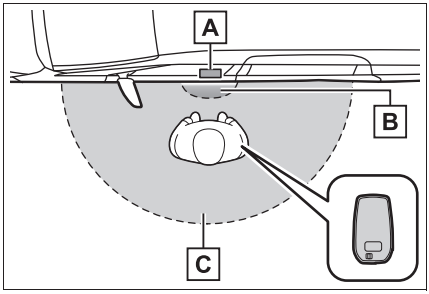
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワースライドドア）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントドア後端のロッカーモール下部に足を近付けて離す動作をすることで、スライドドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使用して開閉するときは、フロントドア（開けるスライドドアと同じ側）が閉じている、キックセンサーの作動が ON、かつ電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯しスマートエントリー & スタートシステムの作動範囲内でロッカーモールから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワースライドドア作動検知エリア

C スマートエントリー & スタートシステム作動検知エリア

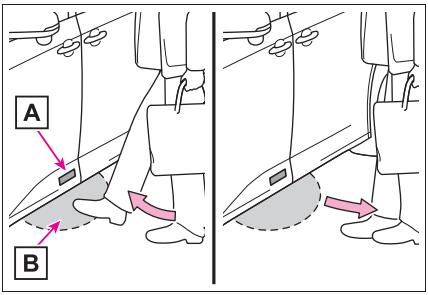
2 足をロッカーモールから約 10cm の距離になるまで近づけて引く

足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

足先をロッカーモールの下に入れたままでは作動しません。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し

長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワースライドドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後スライドドアが自動で全開・全閉します。

スライドドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

作動が停止した状態から再度操作をすると、スライドドアは反転作動します。

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

●エンジンスイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。

●アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。

●スライドドアイージークローザーが作動中でもアウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作してドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワードアオフスイッチが OFF のとき

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

●シフトレバーの位置が P のとき

●パーキングブレーキがかかっているとき

●ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワードアオフスイッチが ON のときは、手動でのみ開閉できます。

●パワーバックドア★の車外スイッチ（→P.113）を操作しているときはパワースライドドアは全開にならずに途中で停止します。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します

逆方向に動く：

・アウトサイドドアハンドルを操作する

開方向に動く：

・インサイドドアハンドルを開方向に操作するまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す

閉方向に動く：

・インサイドドアハンドルを閉方向に操作するまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ハンズフリーパワースライドドア★の作動条件

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●キックセンサーの作動が ON のとき（→P.461）

●フロントドア（開けるスライドと同じ側）が閉まっているとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.122）

●足をロッカーモールに近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■ハンズフリーパワースライドドア★が正常に作動しない状況

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をロッカーモールの下に入れたままのとき

●ロッカーモールに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

ロッカーモールにふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がロッカーモールに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.123）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでロッカーモールに大量の水がかかっているとき

●ロッカーモールの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●ロッカーモールに草木など動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●ロッカーモールにアクセサリー用品を付けたとき

アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワースライドドア★の誤動作を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動を OFF にしてください。（→P.461）

●洗車や大雨などでロッカーモールに大量の水がかかっているとき

●ロッカーモールの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがロッカーモールの下を横切ったとき

●ロッカーモールの下のものを取る動作をしたとき

●ロッカーモールに腰かけて、足を動かしたとき

●ロッカーモールに足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●ロッカーモールの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●ロッカーモールの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●ロッカーモールの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業をしたとき

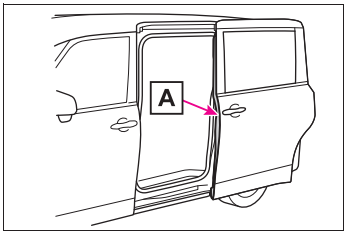
●けん引されるとき

■バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサー A が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.94, 111）
またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.94）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行

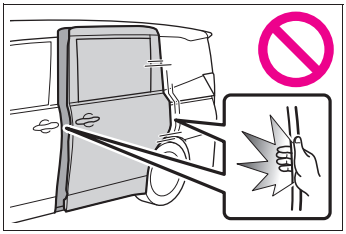
われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

警告

■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。（→P.101）



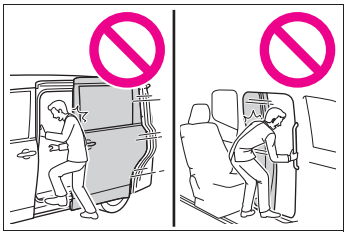
●スライドドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチが ON であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

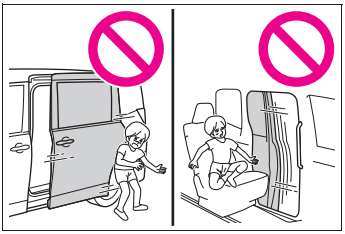


●アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワードアオフスイッチを ON にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアオフスイッチを ON にしてください。

●タイヤ交換時や洗浄機を使用する際は、パワードアオフスイッチを ON にしてください。ON にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワードアオフスイッチ OFF 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

警告

■ハンズフリーパワースライドドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる場合があります。

●周囲の安全を確かめ障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●電子キーを作動範囲内に放置しないでください。

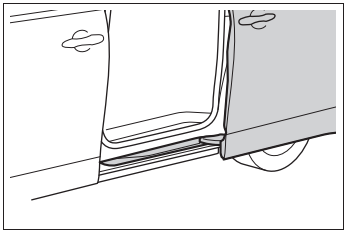
注意

■スライドドアについて

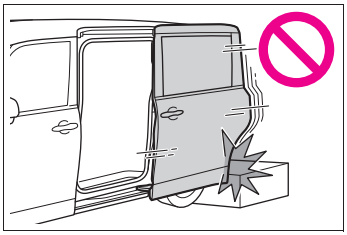
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→P.368）に収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

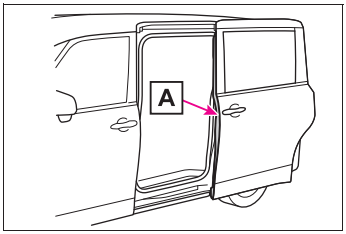
●ドアの開閉を短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー A を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。

⚠注意

センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



■ハンズフリーパワースライドドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キックセンサーはロッカーモールの内側に設置されています。ハンズフリーパワースライドドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●ロッカーモールは常にきれいにしておく

ロッカーモールに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認してください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●ロッカーモールに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●ロッカーモールに草木など動くものを近づけない

ロッカーモールに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●ロッカーモールへの強い衝撃を避ける

ロッカーモールが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・ロッカーモールに傷や破損がある

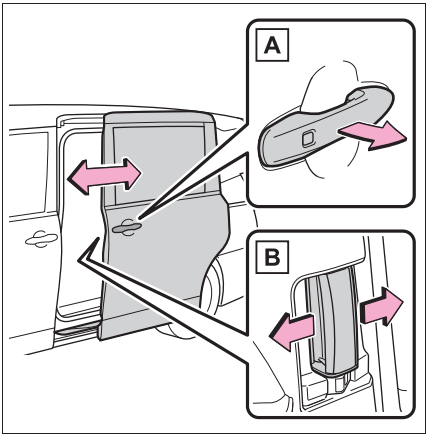
●ロッカーモールを分解しない

●ロッカーモールにステッカー貼らない

●ロッカーモールを塗装しない

スライドドアの手動開閉

パワードアオフスイッチ（→P.108）がONのとき、アウトサイドドアハンドル、またはインサイドドアハンドルを操作します。

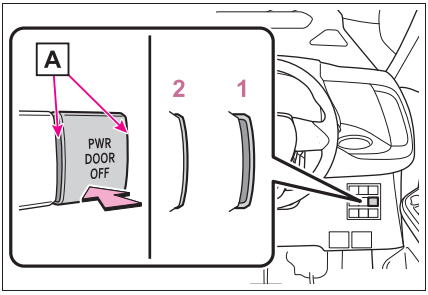


A アウトサイドドアハンドル

B インサイドドアハンドル

パワースライドドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチを ON にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 OFF※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／アウトサイドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドア開閉スイッチの操作により、自動で開閉できます。

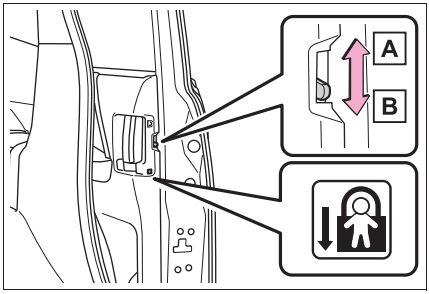
2 ON

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

※ OFF にすると、スイッチ左右部にオレンジ色 A のマークが表れます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。



A 解錠

B 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

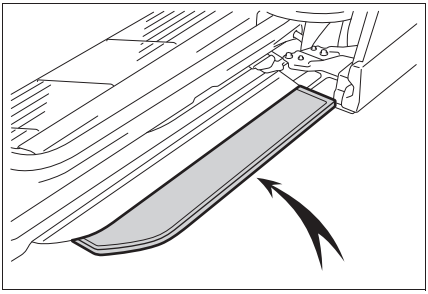
■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠してアウトサイドドアハンドルを操作すると開きます。

ユニバーサルステップ（格納式ステップ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

助手席側スライドドアの開閉と連動して、ステップが展開・格納されます。



知識

■ユニバーサルステップ（格納式ステップ）を非作動にするには

ユニバーサルステップは非作動にすることができます。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ユニバーサルステップ（格納式ステップ）について

ステップが濡れていたり、凍結したりしている場合は、ステップで足を滑らせないように注意してください。転倒し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージスペースでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージスペースには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

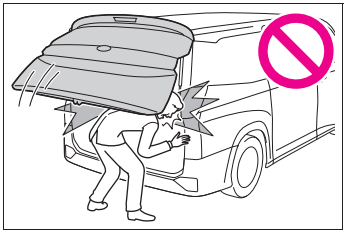
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

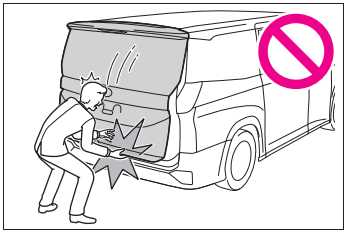
●強風時の開閉、中間保持には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。



●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●パワーバックドア非装着車：バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

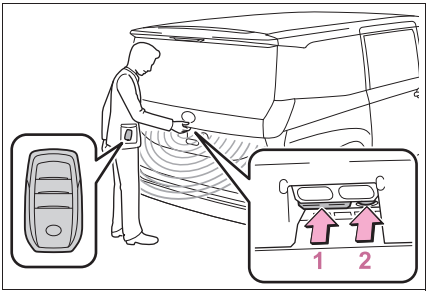
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.113）、またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.117）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.89

知識

■作動の合図

→P.94

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.94

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

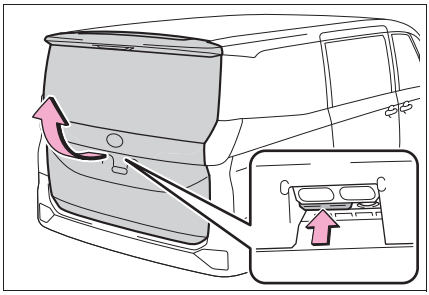
→P.96

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

■ 開ける

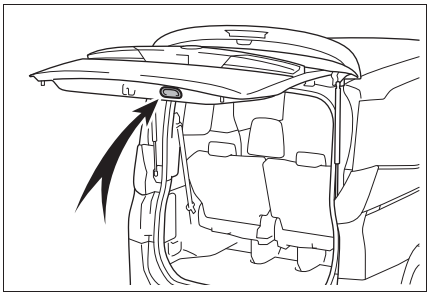
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■バックドアイージークローザー★

★：グレード、オプションなどにより装備の有無があります。

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- バックドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、バックドアハンドルを操作してバックドアを開けることができます。

■半ドア走行時警告ブザー

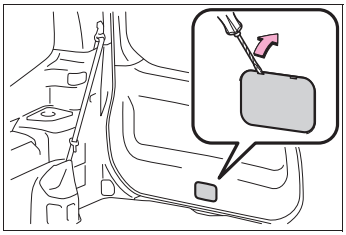
→P.96

■バックドアが開かないとき

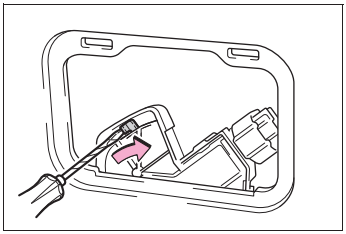
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1　カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



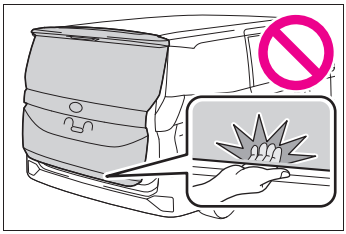
2　レバーを押す



警告

■バックドアイージークローザーについて

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

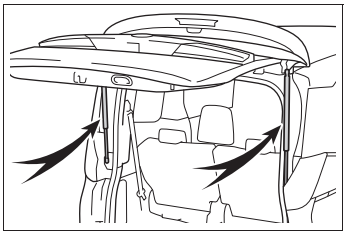
バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

パワーバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

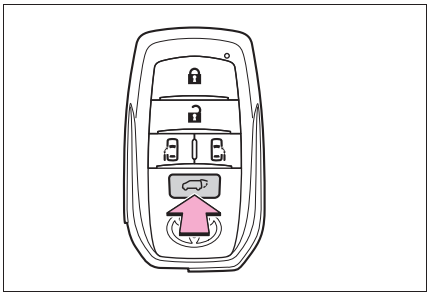
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。※

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



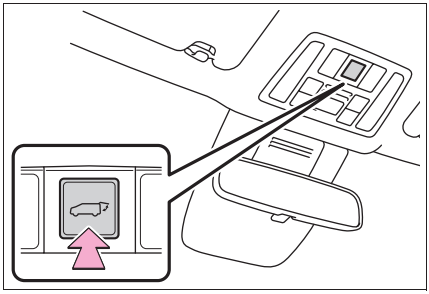
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

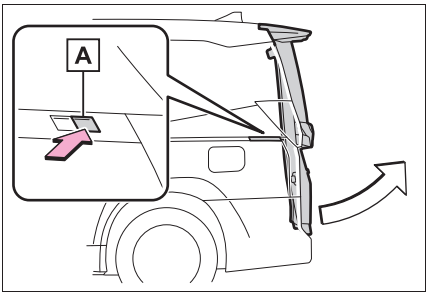
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でバックドアのスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度バックドアオープンスイッチを押すと自動で開き、バックドアクローズスイッチを押すと自動で閉じます。



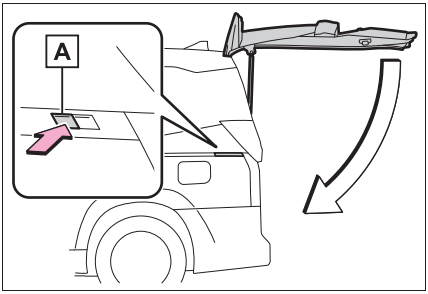
A バックドアオープンスイッチ

● 閉じる

バックドアクローズスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でバックドアのスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度バックドアオープンスイッチを押すと自動で開き、バックドアクローズスイッチを押すと自動で閉じます。



A バックドアクローズスイッチ

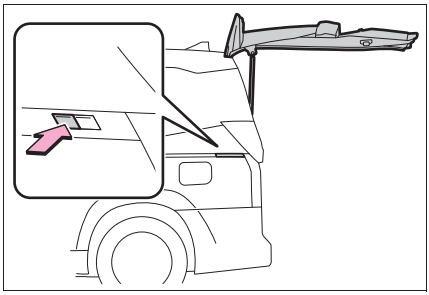
● 閉じると同時に全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）

1 バックドアクローズスイッチをブザーが鳴るまで押す

2 ブザー音が鳴ったら、すぐにもう一度バックドアクローズスイッチを押す

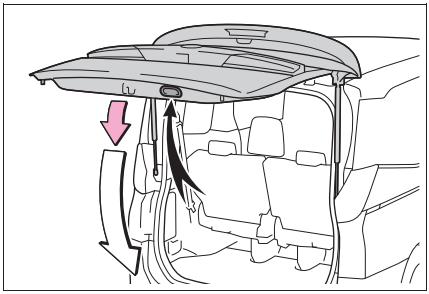
パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。



■ **バックドアハンドルを使用して閉じる**

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



知識

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワードアオフスイッチが OFF のとき（→P.121）

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.113）

●エンジンスイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満でシフトレバーが P の位置にある必要があります。

■パワーバックドアの作動について

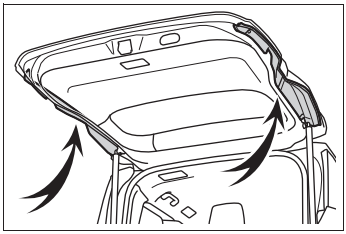
●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワードアオフスイッチが ON のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.94）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.94）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でクローズ＆ロック機能の操作をしたとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままクローズ＆ロック機能の操作をしたとき

●車両側面のバックドアクローズスイッチから離れた位置からクローズ＆ロック機能の操作をしたとき

■バッテリーを再接続したとき

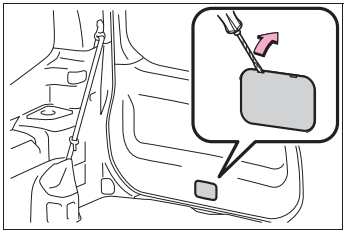
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

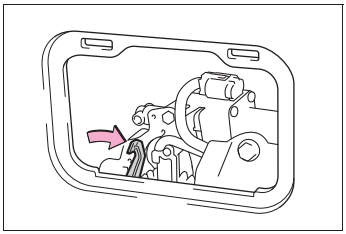
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1　カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2　レバーを押す



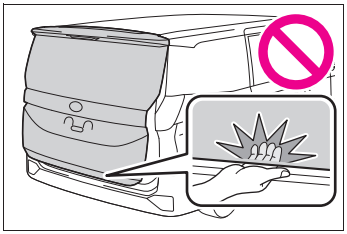
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

警告

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.115）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

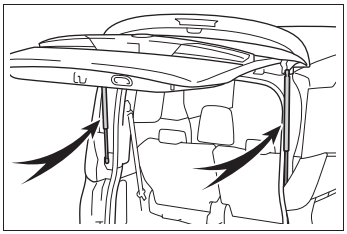
●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

→P.112

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.115）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

フリーストップバックドア（開度調整機構）★

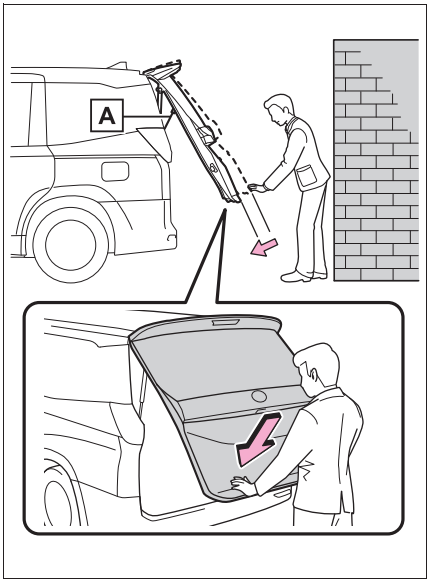
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを保持したい位置で、外からバックドアを１０ｃｍ程度押し、手を離すとバックドアが途中で保持されます。

バックドアが静止していることを確認して使用してください。

中間保持状態からはバックドアを開かないでください。保持した後は、閉じる方向にのみ動かすことができます。

中間保持状態を解除するときは、バックドアを１度閉めてから、再度バックドアを開けてください。



A 開度調整機構

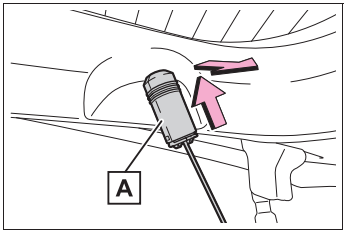
知識

■フリーストップバックドアを非作動にするには

開度調整機構のソケットを取り外してフリーストップバックドアを非作動にすることができます。

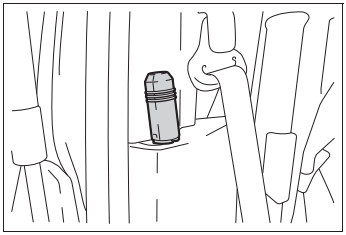
1 バックドアを全開にする。

2 ソケットを手でしっかりと持ち、ソケットを持ち上げてバックドアから外す。



A ソケット

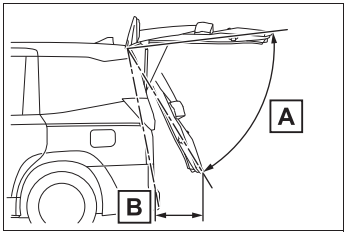
3 最後まで手を添えて、ソケットをトリムに格納する。



取り付けるときは、取り外したときと逆の手順でソケットを取り付けます。

■バックドアを保持できる範囲について

フリーストップバックドアは、バックドア全閉付近では保持することができません。



A 保持できる範囲

B 保持できない範囲（約 50cm）

使用環境（気温、路面の傾斜）によって保持できる範囲は変わることがあります。

■内部保護機能

バックドアが中間保持状態でバックドアが開く方向に大きな荷重が加わると、内部保護機能が作動し、大きな音とともにバックドアが少し開きます。ただし、思わぬ故障につながるおそれがあるため、故意に作動させないでください。

警告

■フリーストップバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●開度調整機構のケーブルをバックドアの開度調整以外の目的で使用しないでください。

●バックドアが中間保持状態でバックドアにもたれかからないでください。バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。

●バックドアを中間保持状態で長時間放置しないでください。バックドアが意図せず閉まるおそれがあります。

注意

■フリーストップバックドアについて

開度調整機能のケーブルを無理に引き出したり、使用中に力を加えたりしないでください。損傷や作動不良になるおそれがあります。

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.461）

パワーバックドアの設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

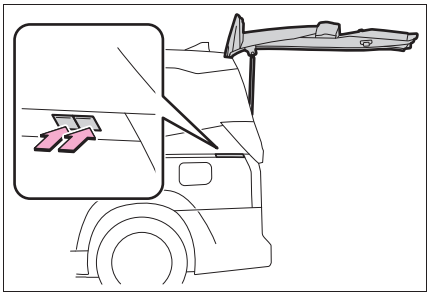
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.113）

2 バックドアオープンスイッチとバックドアクローズスイッチを同時に約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

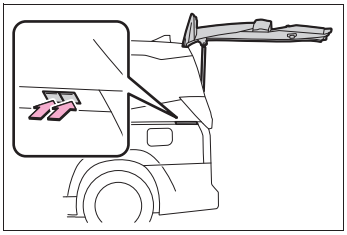


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドアオープンスイッチとバックドアクローズスイッチを同時に約 6 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



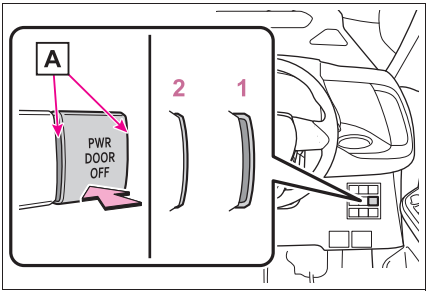
■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.461）

車両側面のパワーバックドア開閉スイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

パワーバックドアの機能を停止するには（パワーバックドア装着車）

パワードアオフスイッチを ON にしてパワーバックドアの機能を停止します。



1 OFF※

パワーバックドアを開閉スイッチなどの操作により、自動で開閉できます。

2 ON

バックドアを手動でのみ開閉できます。

※ OFF にすると、スイッチ左右部にオレンジ色 A のマークが表れます。

スマートエントリー&スタートシステム

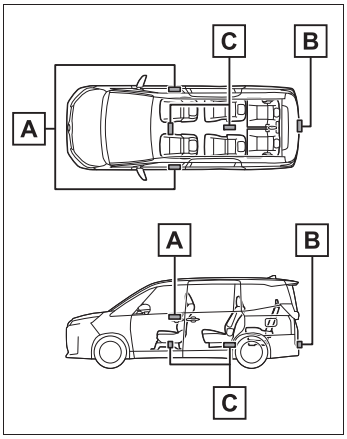
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.94）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.111）
- エンジンを始動する（→P.169）

知識

■アンテナの位置

▶ パワーバックドア非装着車

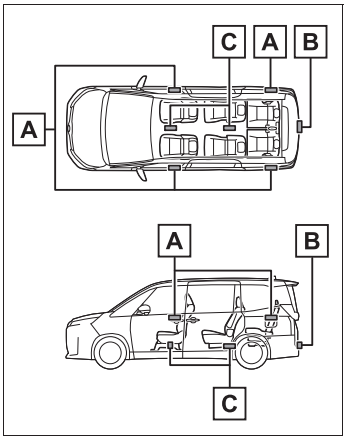


A 車外アンテナ

B 車外アンテナ（バックドア）

C 車室内アンテナ（車内）

▶パワーバックドア装着車



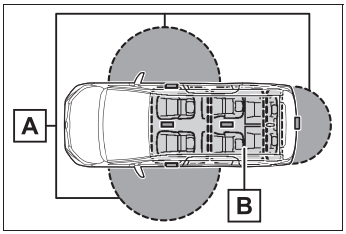
A 車外アンテナ

B 車外アンテナ（バックドア）

C 車室内アンテナ（車内）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

▶パワーバックドア非装着車



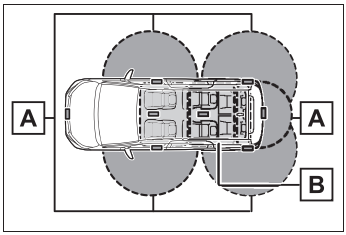
A ドアの施錠・解錠時

フロント席のドアハンドル・バックドアロック／アンロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します

▶パワーバックドア装着車



A ドアの施錠・解錠時

フロント席のドアハンドル・車両側面のバックドアスイッチ・バックドアロック／アンロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と5秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

●車内から “ ポーン、ポーン ” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを ACC にした（エンジンスイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 車室内にキーがあります ” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の周辺に一定時間電子キーを放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

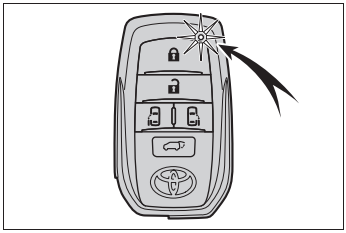
■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、

🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.445）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしている

とき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.123）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディス

プレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.461）

●電子キーの電池消耗を抑えることができます。（→P.123）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠（→P.445）

●エンジンの始動（→P.446）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.94, 445）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.446

●エンジンの停止：→P.171

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.121）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

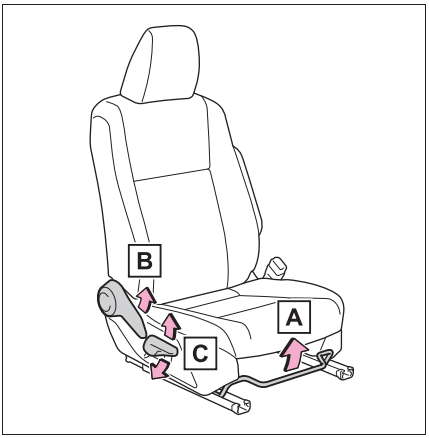
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**（→P.29）**

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C シート全体の上下調整（運転席のみ）

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シート調整について

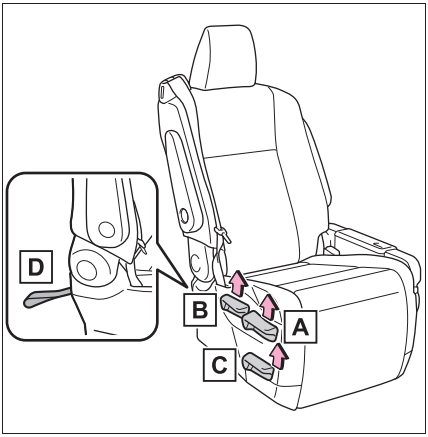
●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

セカンドシート

調整するには

▶ キャプテン仕様車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

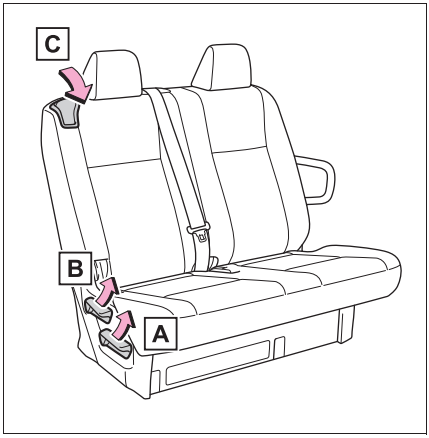
C オットマン角度調整／格納★

D ストラップ※

※ サードシートへ乗り降りするときに使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 7人乗りユーティリティ仕様車

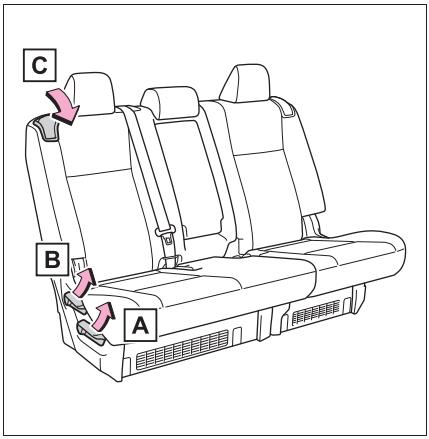


A 前後位置調整

B リクライニング調整

C リクライニング調整

▶ チップアップ仕様車



A 前後位置調整

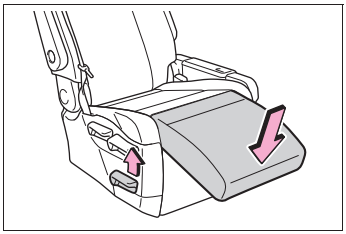
B リクライニング調整

C リクライニング調整

知識

■オットマン★を格納するときは

オットマン調整レバーをひいたままオットマンを下側に押します



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシートへの乗り降り

▶ セカンドシート（キャプテン仕様車）

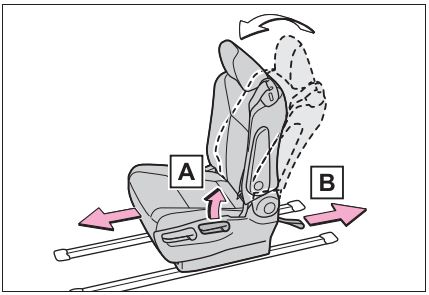
1 オットマン★を格納する（→P.128）

2 アームレストを格納する（→P.375）

3 サイドテーブルを格納する（→P.376）

4 レバーAを引く、またはストラップBを引く

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

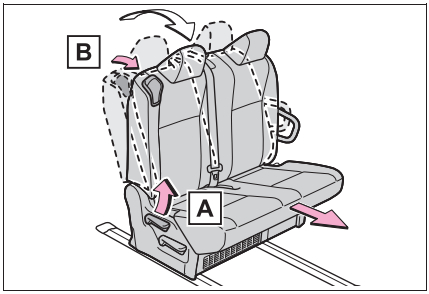
▶ セカンドシート（7 人乗りユーティリティ仕様車）

運転席側からのみ：

1 シートバックテーブル★を格納する（→P.376）

2 レバーAまたはBを引く

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

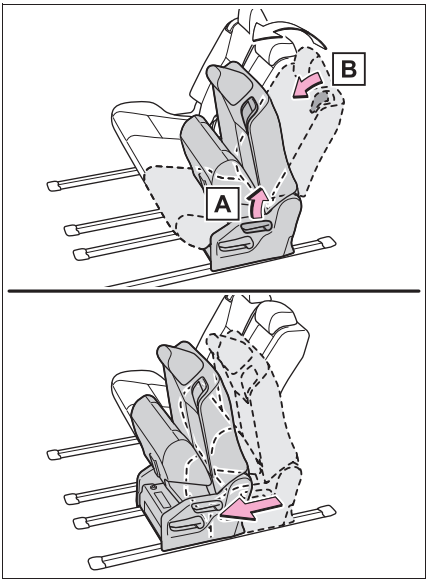
▶ セカンドシート（チップアップ仕様車）

助手席側から：

1 シートバックテーブル★を格納する（→P.376）

2 レバーAまたはBを引く

背もたれが前に倒れきるとシートクッションがはね上がり、シートを前方に移動させることができます。



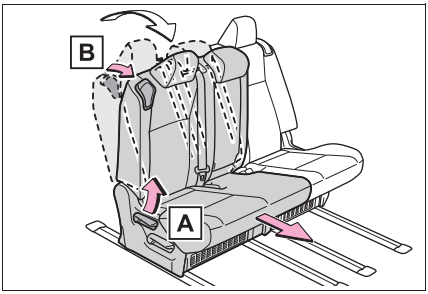
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席側から：

1 シートバックテーブル★を格納する（→P.376）

2 レバーAまたはBを引く

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシートをチップアップする（7人乗りユーティリティ仕様車／チップアップ仕様車）

▶ 助手席側（チップアップ仕様車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

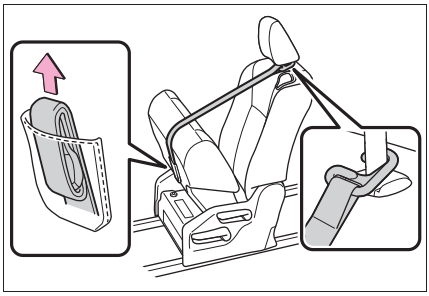
2 リクライニングレバーを引き、背もたれを前方に倒す（→P.127）

背もたれが前に倒れきるとシートクッションがはね上がり、シートを前方に移動させることができます。

3 シートを希望の位置までスライドさせ、背もたれをもとにもどしてシートスライドを固定する

4 シートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出し、ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートクッションを固定する

シートを軽く揺さぶり、確実に固定されていることを確認してください。

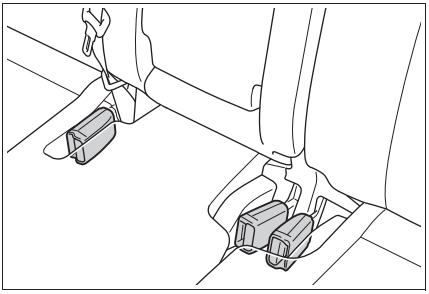


シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

▶ 運転席側（7人乗りユーティリティ仕様車／チップアップ仕様車）

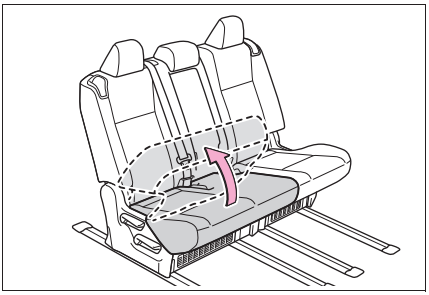
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 シートベルトのバックルを格納する



3 チップアップ仕様車：セカンドシートの格納式センターボックスを収納する (→P.369)

4 シートクッションを起こす



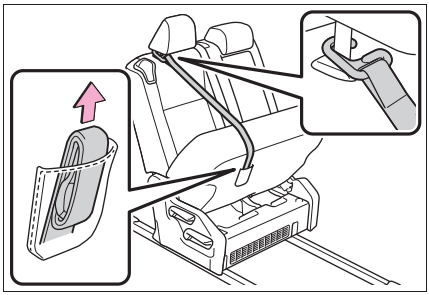
5 リクライニングレバーを引く (→P.127)

背もたれが前に倒れて、シートを前後にスライドさせることができます。

6 シートを希望の位置までスライドさせ、背もたれをもとにもどしてシートスライドを固定する

7 シートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出し、ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートクッションを固定する

シートを軽く揺さぶり、確実に固定されていることを確認してください。



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

警告

■シート調整について

- 同乗者や荷物などにシートがあたらないよう、ご注意ください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートへの移動について

走行中はサードシートへ移動しないでください。

■サードシートに乗り降りするとき

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- セカンドシートに乗員がいるときは、サードシートから操作を行わないでください。セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

警告

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●アームレスト装着車：アームレストを格納してから操作してください。

●チップアップ仕様車：助手席側のセカンドシートは、リクライニングレバーを引き、シートバックが倒れきるとシートクッションが自動的にはね上がりますので注意してください。

■前後調整やオットマン★の操作をするとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オットマン★を使用するとき

●走行中は角度調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車に乗り降りする際、オットマンを上げているときは格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■オットマン★の故障を防ぐために

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

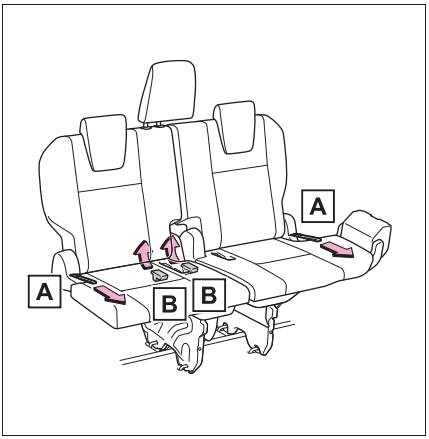
●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシート

調整するには



A リクライニング調整

B スペースアップレバー

サードシートへの乗り降り

→P.128

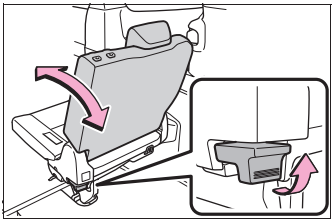
サードシートを格納する

→P.138

知識

■バックドア側からリクライニング角度を調整する

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。



警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

●中央席に座るときは、リクライニング角度を左右のシートで同じにしてください。
お守りいただかないと、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

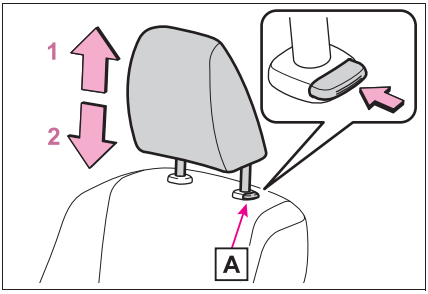
●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

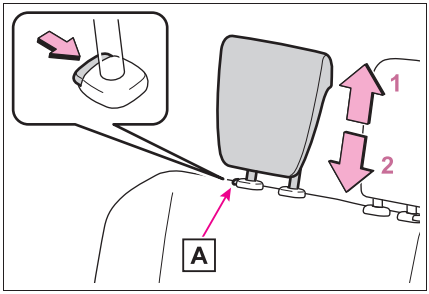
■ フロントシート・セカンドシート



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ サードシート外側席



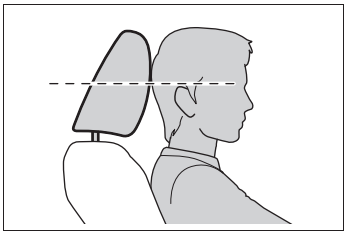
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート・セカンドシート［キャプテン仕様車］）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



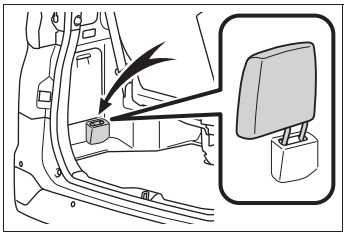
■セカンドシート（7 人乗りユーティリティ仕様車／チップアップ仕様車）・サードシート外側席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの格納使用について

ヘッドレストを取りはずしたときは、ラゲージルームの図の位置に格納してくだ

さい。

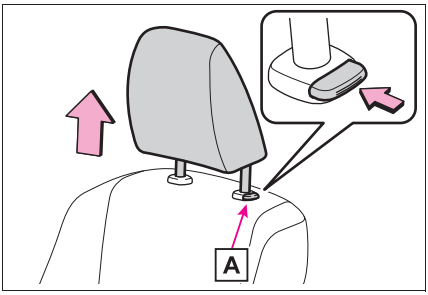


ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート・セカンドシート

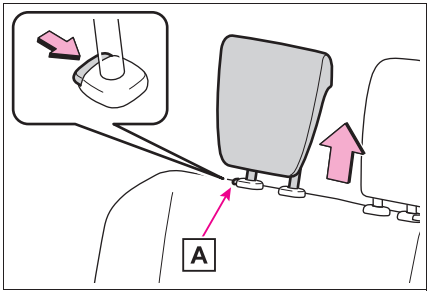
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さ（運転席のみ）や角度をかえてください。（→P.126）



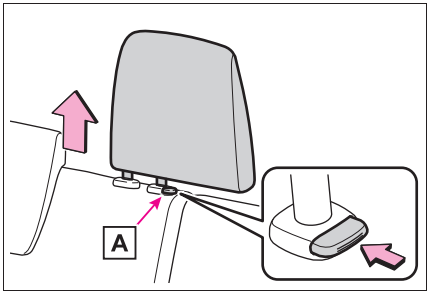
■ サードシート外側席

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ サードシート中央席

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



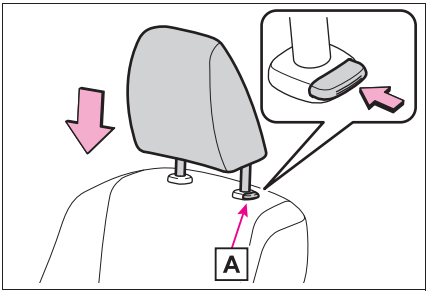
ヘッドレストを取り付けるには

■ フロントシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

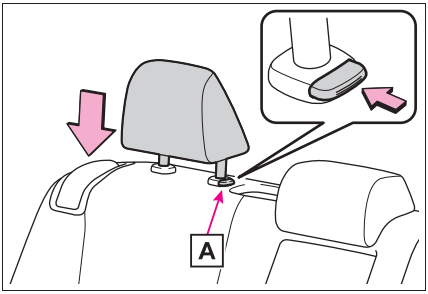
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



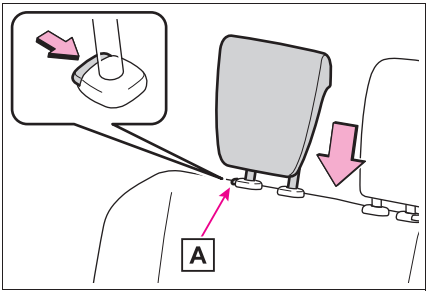
■ セカンドシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンAを押しながら押し下げてください。



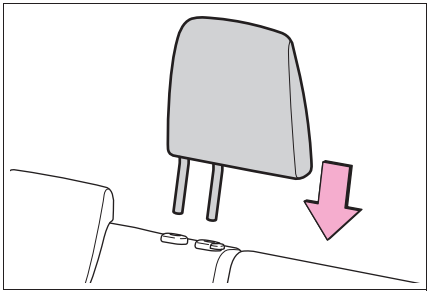
■ サードシート外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンAを押しながら押し下げてください。



■ サードシート中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

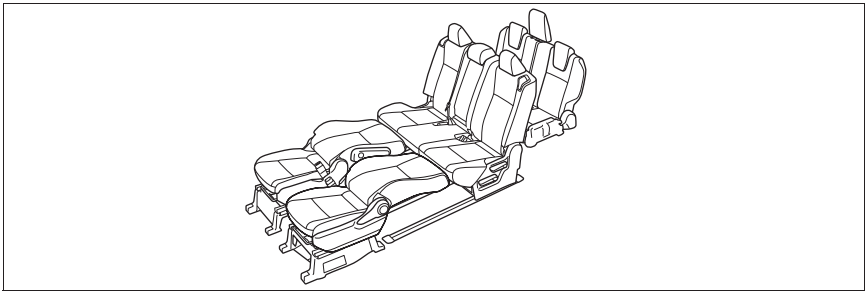


シートアレンジ

シートアレンジ

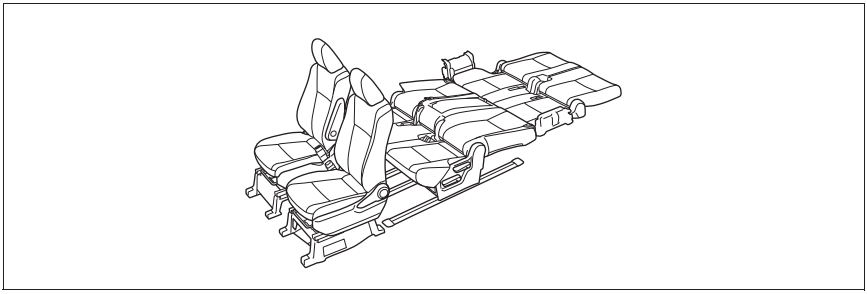
■ フロントフラットソファモード

フロントシートをフルフラットにする：→P.137



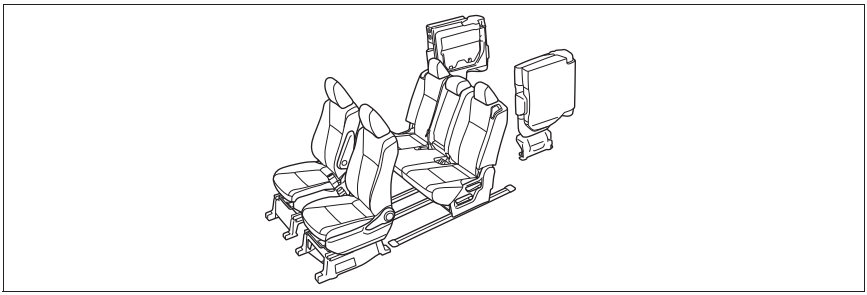
■ リヤフラットソファモード

セカンドシート・サードシートをフルフラットにする：→P.137



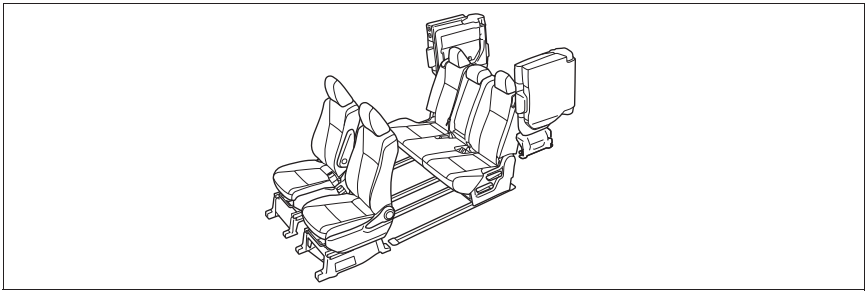
■ ラゲージモード

サードシートを格納する：→P.138



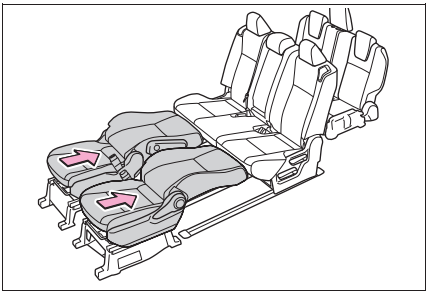
■ スーパーリラックスモード

サードシートを格納し、セカンドシートを後方へ移動する：→P.139



フロントフラットソファモード

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる (→P.127)
3 フロントシートのヘッドレストをはずす (→P.134)
4 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P.126)
5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P.126)
6 セカンドシートとのすき間がなくなるようにフロントシートを移動させる (→P.126)



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

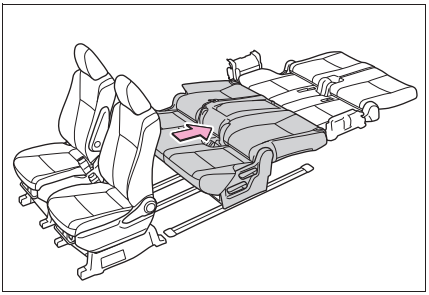
リヤフラットソファモード

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P.126)
3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる (→P.127)
4 セカンドシートのヘッドレストをはずす (→P.134)
5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P.127)
6 サードシートのヘッドレストをはずす (→P.134)

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに格納してください。(→P.133)

7 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P.132)

8 サードシートとのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる (→P.127)



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

ラゲージモード

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

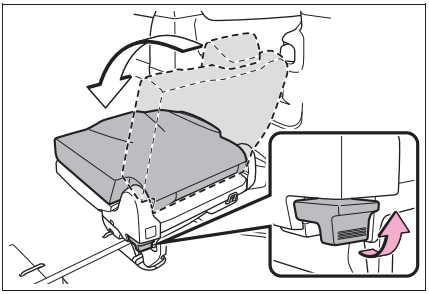
2 サードシート中央席のシートベルトを格納する (→P.33)

3 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずす (→P.134)

取りはずしたヘッドレストは、ラゲージルームに格納してください。(→P.133)

4 サードシート外側席のヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.133)

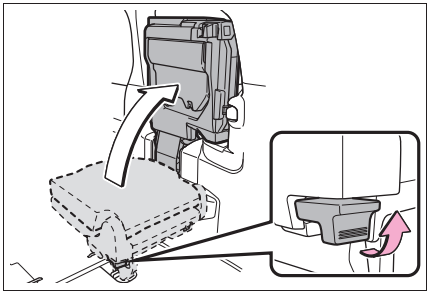
5 スペースアップレバーを引いて、背もたれを前方に倒す



6 スペースアップレバーをさらに引いて、シートを跳ね上げる

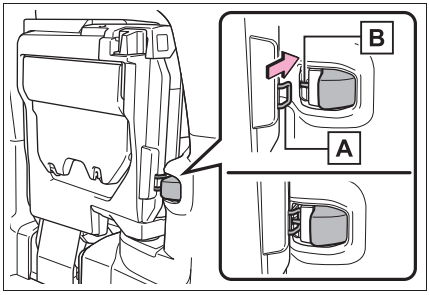
シート脚部のロックが解除され、シートがはね上がります。

シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。



7 ロックストライカー A を車両側ロック B に固定する

シートを押しながらロック部に挿し込んでください。



8 シートを軽く揺さぶり、確実に固定されていることを確認する

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.33

スーパーリラックスモード

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 サードシートを格納する (→P.138)
3 セカンドシート（キャプテン仕様車）：アームレストを倒す (→P.375)
4 セカンドシートを後方へ移動させる (→P.127)

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.33

知識

■ラゲージモードについて

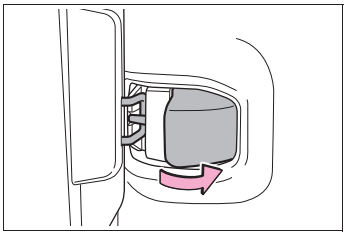
サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

■サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シートのロックを解除するには

レバーを引くとシートのロックを解除することができます。



警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない
- 平坦な場所でシフトレバーをＰに入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作をするときに可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ラゲージルームにお子様を乗せない

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

■サードシートの格納について

- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- ボトルホルダーに物が入ってないことを確認してください。
- シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

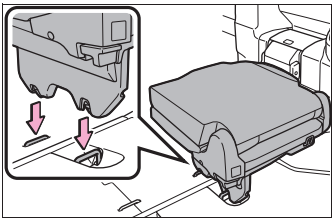
警告

●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

●スペースアップレバーを引くとシート全体が自動的にはね上がりますので注意してください。

●シート格納時にロックストライカーで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは、必ずシートを固定してください。

●シートを降ろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



■シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する

注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■サードシートの格納について

●シートを降ろすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。

●セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。

■フラットシートについて

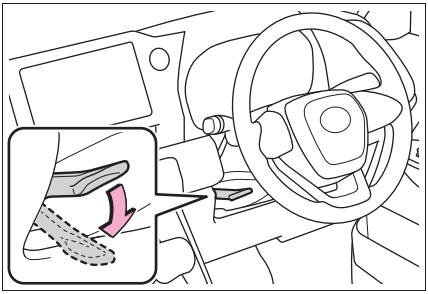
●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

ハンドル

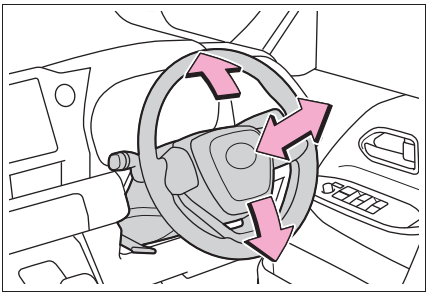
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■走行中の留意事項

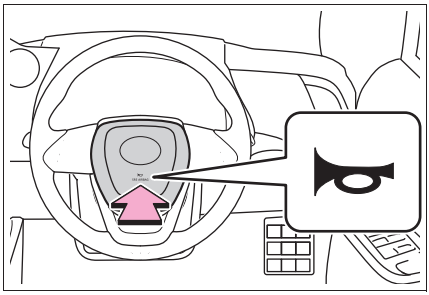
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー★

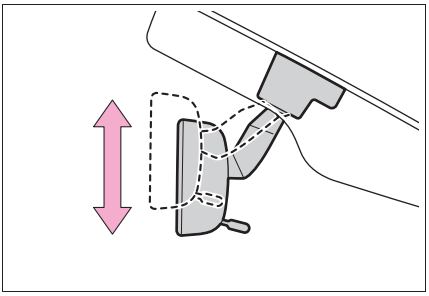
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

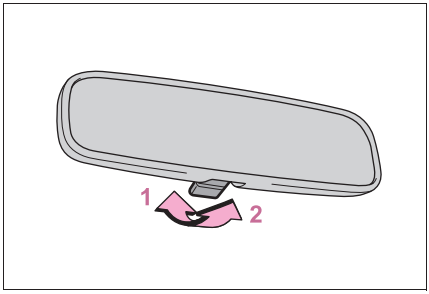
■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時
2 防眩時

デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

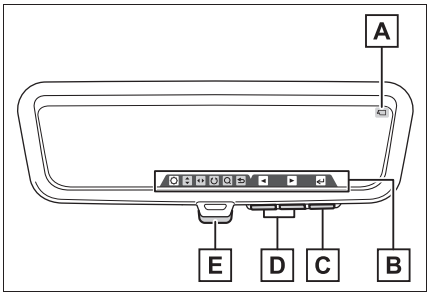
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.144）

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.145）などが表示されます。

C メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

D 選択スイッチ

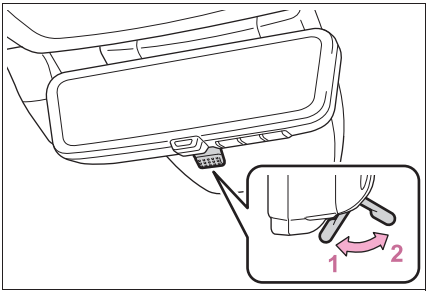
調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

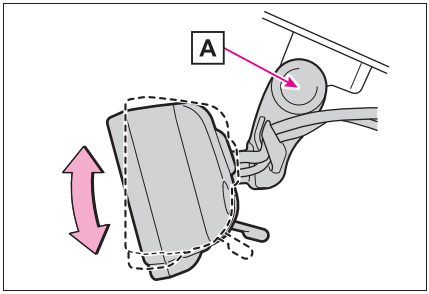
調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、角度を調整する

フロントウインドウガラス側の回転軸 A は固定されているため、回転させないでください。

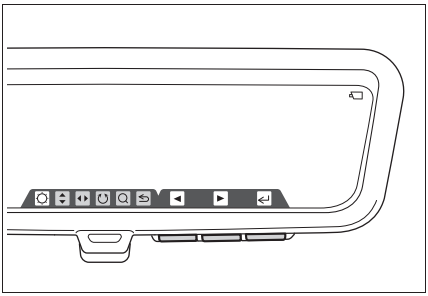


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整ができます。

1 メニュー／決定スイッチまたは選択スイッチのいずれかを押す

調整アイコンが表示されます。



2 選択スイッチを押して調整したい項目（調整アイコン）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

各調整画面が表示されます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。

3 選択スイッチを押して調整をし、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示画面に戻ります。

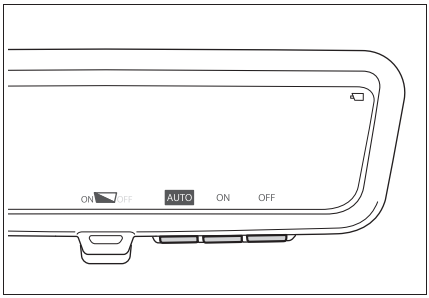
4 選択スイッチを押して ⮌ にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

■ 防眩機能の切りかえ（鏡面ミラーモード）

防眩設定画面が表示されているときに、選択したい防眩機能アイコンのスイッチを押すことで、鏡面ミラーモードの防眩機能を切りかえることができます。

鏡面ミラーモードでいずれかのスイッチを押したとき、またはデジタルミラーモードから鏡面ミラーモードへ切りかえたときに防眩設定画面が表示されます。約 5 秒以上スイッチ操作をしないと防眩設定画面の表示が消えます。



防眩機能アイコン	設定内容
AUTO	スイッチを押すごとに、自動防眩機能の ON/OFF が切りかわります。 自動防眩機能 ON：車両前方が暗いとき、車両後方の明るさに応じて、自動的に防眩状態の ON（ミラーの反射率が低い状態）／OFF（ミラーの反射率が高い状態）を切りかえて、まぶしさを低減します。 ON：防眩 ON の状態 OFF：防眩 OFF の状態 自動防眩機能 OFF：ミラーの反射率が高い状態で固定されます。
ON	自動防眩機能 OFF かつ防眩 ON 状態（ミラーの反射率が低い状態）で固定されます。
OFF	自動防眩機能 OFF かつ防眩 OFF 状態（ミラーの反射率が高い状態）で固定されます。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●約5秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。

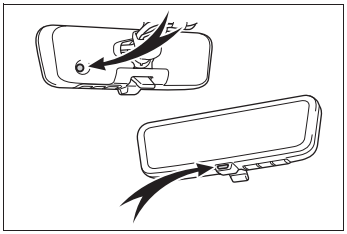
●ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

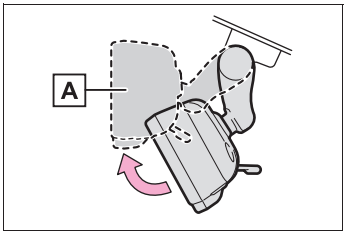
デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

●煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

■ミラー本体の位置が下がってしまったときは

ミラー本体を“カチッ”と音がして固定されるところ（通常使用位置A）まで引き上げてください。下がった状態のままでは、運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



お手入れについて

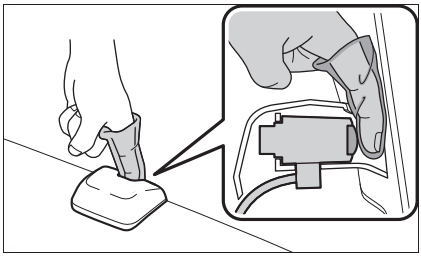
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を見られません。
水滴やほこりなどが付着したときは水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

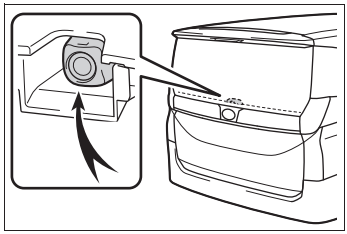
清掃しにくい場合は綿棒を使用してください。
また、清掃する際はリヤウインドウガラスの内側も同様に清掃してください。



知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

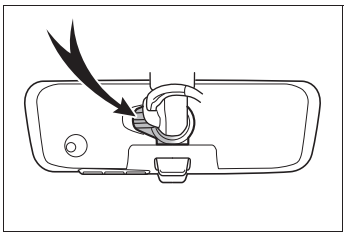
●ミラー表面をふくときは、強くこすらないでください。強くこすると、ミラー表面が傷ついて車両後方の状態が見えにくくなることがあります。

●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●デジタルインナーミラーの取りはずし・改造・分解・塗装などをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取りつけ角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

・有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・カメラレンズを清掃するときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。清掃しにくい場合は綿棒を使用してください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	・鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 リヤウインドウデフォッガー（→P.348）を使用し、曇りが取れてから再びデジタルミラーモードでご使用ください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に ♨ が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると ♨ が消えます） ミラーの温度が下がっても ♨ が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.352）

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

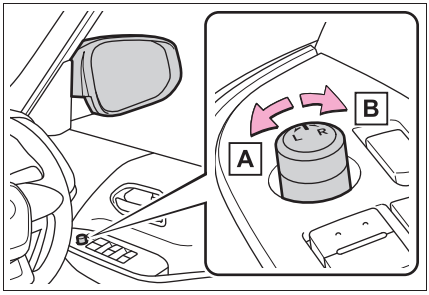
- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走行しない
- ●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

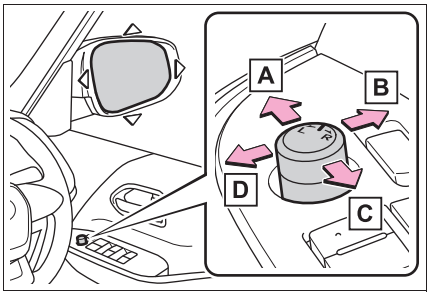
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

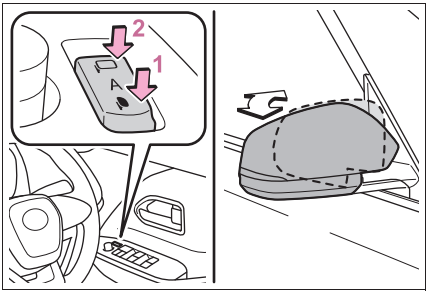
D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納・復帰するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“A”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

警告

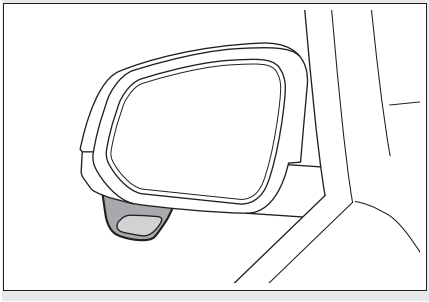
■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

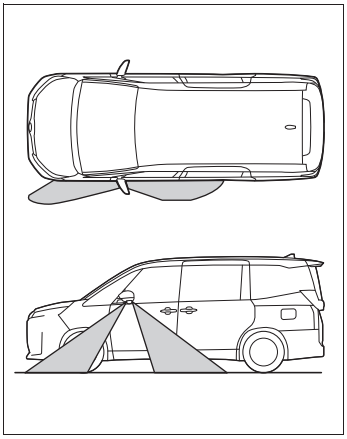


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

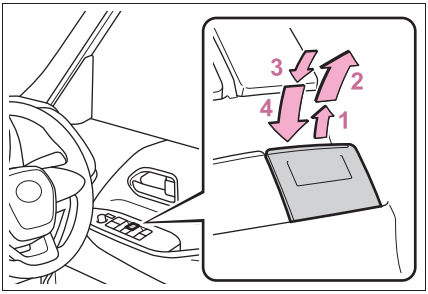
●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.446）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.94）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■窓開警告機能

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.461）

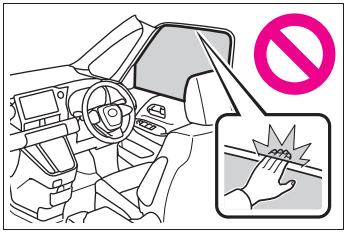
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.157）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

警告

■巻き込み防止機能

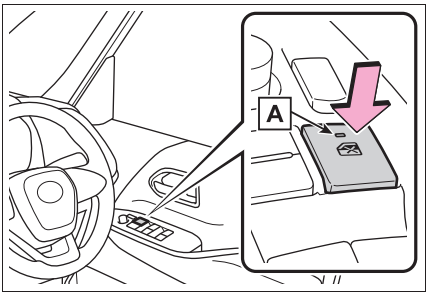
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。電子キーの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。

● Bluetooth デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を認識します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● メーター表示／ヘッドアップディスプレイ★表示 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 161
荷物を積むときの注意..... 167

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 169
オートマチックトランスミッション 173
方向指示レバー 177
パーキングブレーキ..... 177
ブレーキホールド 180

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 183
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 187
AHB（オートマチックハイビーム） 190
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 193
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 194

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 197

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブ装着車）....199
Toyota Safety Sense.....201
ドライバーモニター 209
PCS（プリクラッシュセーフティ） 210
LTA（レーントレーシングアシスト）.....219
LCA（レーンチェンジアシスト） 224
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....227
PDA（プロアクティブドライビングアシスト).....232
FCTA（フロントクロストラフィックアラート).....237
発進遅れ告知機能.....239
RSA（ロードサインアシスト)240
レーダークルーズコントロール243
クルーズコントロール 251
ドライバー異常時対応システム254
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）.....257
ITS Connect 262
BSM（ブラインドスポットモニター）.....269
安心降車アシスト（ドアオープン制御付き).....274
クリアランスソナー 280
RCTA（リヤクロストラフィックアラート).....288
RCD（リヤカメラディテクション） 293

PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 296
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 301
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 303
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 304
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）..... 307
トヨタチームメイト アドバンストパーク 309
運転を補助する装置..... 333
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 338

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 343

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.169

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.173）

2 パーキングブレーキを解除する（→P.177）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.178）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.177）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P.173）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける（→P.177）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

パーキングブレーキ自動解除機能（→P.178）

3 シフトポジションを P にする（→P.173）

シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

■ 上り坂で発進する

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します（→P.333）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高

くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.406 を参照してください。

警告

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.173)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●4WD 車：
オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

警告

●アクセルペダルを踏みこんだままシフト操作をしないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●車から離れるときは、必ずシフトレバーをＰに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをＰにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

注意

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.427, 436 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

・ R に切りかえたとき ※
・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “速度抑制中” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.334）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.334）

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.469）

・エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物は荷室に積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージスペースに積まないでください。

●寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.177）

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

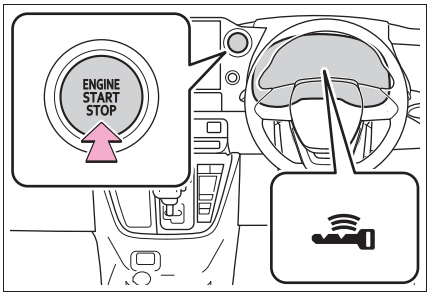
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

プラスサポートをご使用の方は、P.338 も併せて参照してください。



知識

■電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、小物入れ内、荷室内などにあるときは、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しない可能性があります。（作動範囲：→P.122）

■エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.60）
  トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.448 を参照してください。

■電池の消耗について

→P.88

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.123

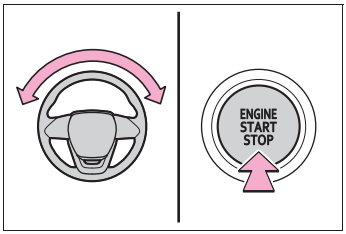
■ご留意いただきたいこと

→P.124

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



●短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.397

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動させようとする場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.445 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

注意

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.177）、シフトレバーをPの位置にする（→P.173）

シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 エンジンスイッチを短く確実に押す

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“イグニッションON”の表示が消灯していることを確認する

警告

■緊急時のエンジン停止方法

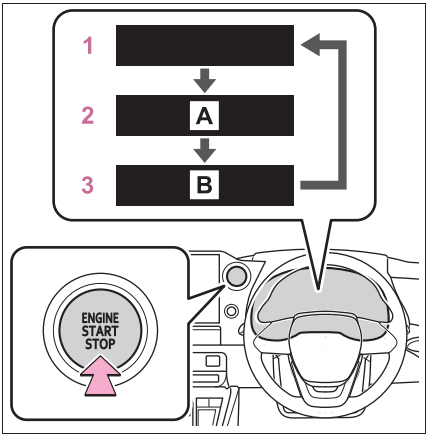
●走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.406）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにしてエンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッション ON

1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示されます。

※1シフトポジションが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときはイグニッション ON のままとなります。（アドバンストパーク非装着車）

※2カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。（マルチメディアシステム装着車）（→P.462）

知識

■ACC カスタマイズが“OFF”のとき（マルチメディアシステム装着車）

●エンジンスイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

●安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加えて音声でも案内します。（安心降車アシスト装着車）

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20 分以上 ACC か ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッション ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフ

トレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2 シフトレバーを P の位置にする

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に 1 回押す
4 マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

注意

■バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ON のままとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 ※2 （→P.176）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※2 シフトレバーを操作して変速段を切りかえることにより、適切なエンジンブレーキ力が得られます。

知識

■オートマチックトランスミッションのフェイルセーフ制御

故障診断機能によって対象部品（シフト機能のためのすべてのソレノイド）の異常を検知すると、シフト機能や変速比制御の制限などのフェイルセーフを実施します。このときエンジン警告灯が点灯します。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「トランスミッションオイル 高温 安全な場所に停止してください」と表示されたときは

シフトレバーを D に入れ、アクセルペダルから足を離し、減速してください。車を安全な場所に停めてから、シフトレバーを P に入れ、警告メッセージが消えるまでエンジンをかけたままにしてください。

警告メッセージが消えれば、再度走行できます。

警告メッセージが消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

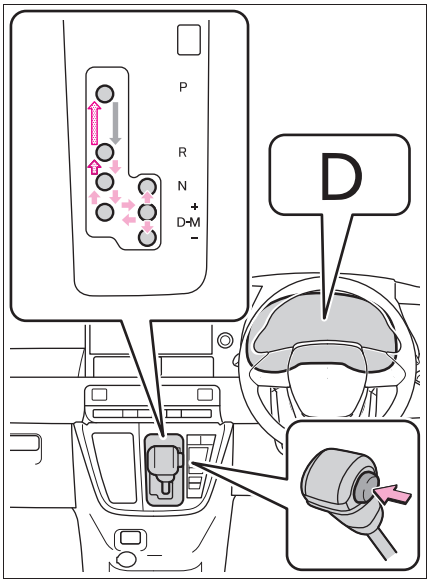
→P.166

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



⬅：エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

⬅：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

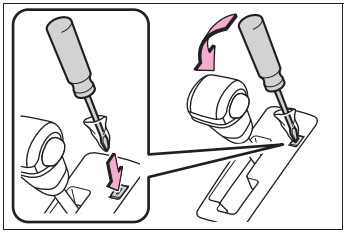
エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

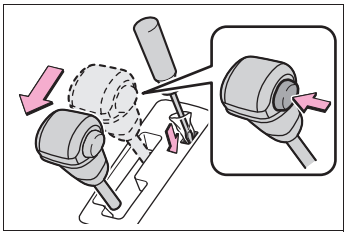
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.177）
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エコモードの選択

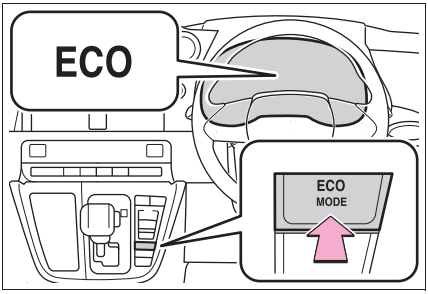
車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコモードに切りかえるときは、スイッチを押す。

“ECO” 表示灯が点灯します。

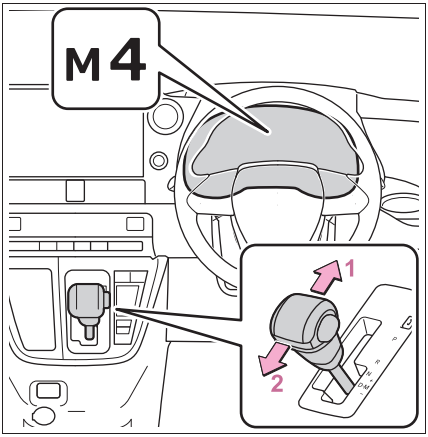
もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。

エコモードが ON の状態は、エンジンスイッチを OFF にしても記憶されています。



10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでギヤ段選択するには

シフトレバーを M ポジションにすると、10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーの “－” 側または “＋” 側の操作でギヤ段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

知識

■変速段機能

●加速力・エンジンブレーキ力は 10 段階から選択が可能です。

●ギヤ段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■M ポジションで走行中に停車したときは

●停車すると自動的にM1にシフトダウンされます。

●停止後走行するときはM1からの発進となります。

●停止後は M1 に固定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

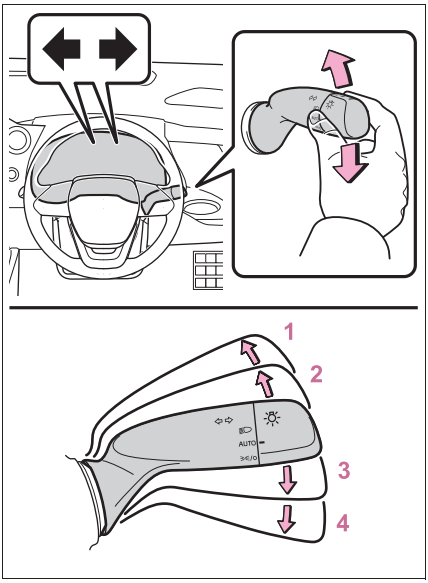
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■シフトレバーを M にしても、シフトポジション・変速段表示に M が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

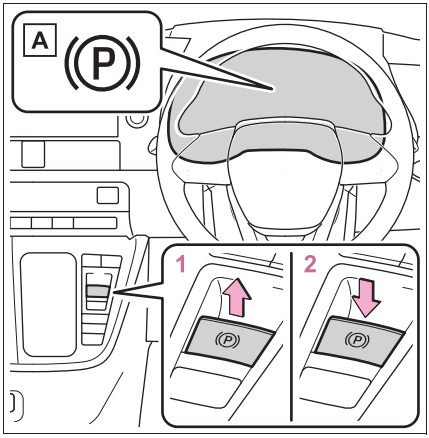
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。
また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏みながら操作してください。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。

パーキングブレーキ自動解除機能
(→P.178)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.415)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.177)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

● エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

● エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

● 運転席ドアが閉まっている

● 運転席シートベルトを着用している

● シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

● エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモード：
シフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席ドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●シフトレバーがPもしくはN以外の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.179

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.415

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.344

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

警告

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.161）

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.448）

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

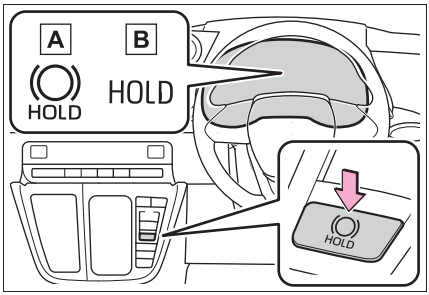
ブレーキホールド

シフトレバーがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB動作が途中で停止しまし

た」や「EPB 故障　販売店で点検してください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

（→P.177）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検」または「BrakeHold 故障 販売店で点検してください」と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P.420

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

警告

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

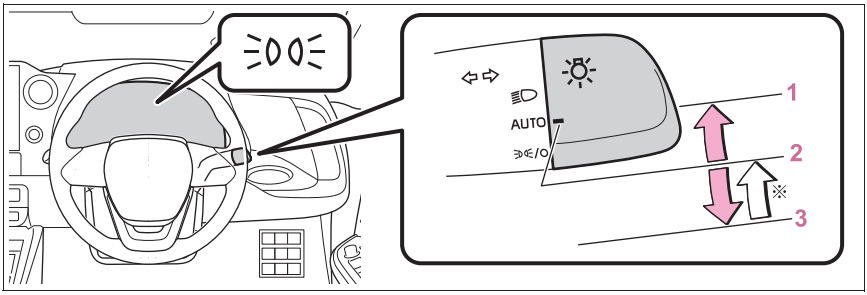
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO※1	LED デイライト★（→P.184）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、薄暮灯★・車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

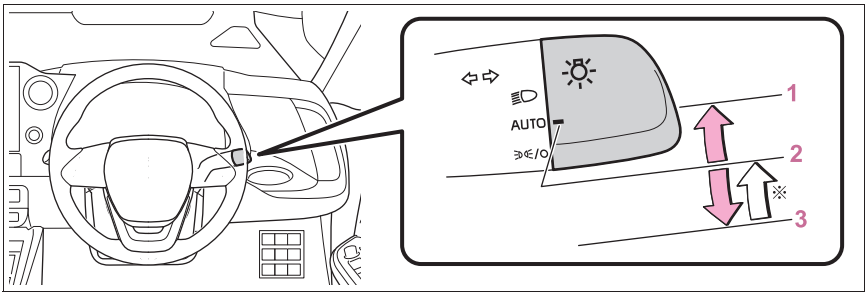
※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

スイッチを 3 ≡D◇/○の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 ≡D か 3 ≡D◇/○の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 ≡D◇/○の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 ≡D◇/○	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★（→P.184）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■デイライト機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

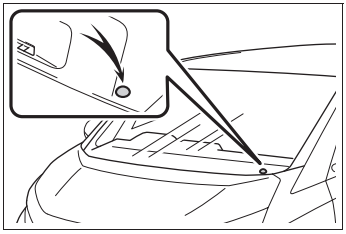
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にすると自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから/または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態でエンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■カスタマイズ機能

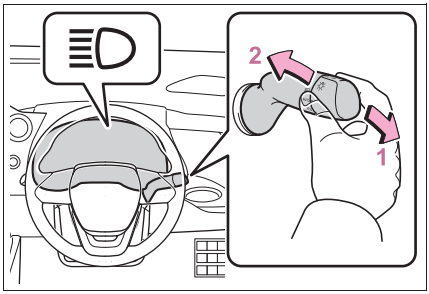
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.461）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

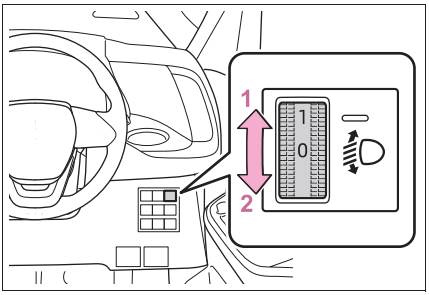
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安（スロープ非装着車）

▶ FF 車（前輪駆動）

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	2
全乗員	なし	3
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	1.5
全乗員	なし	2.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4

■ 目盛り設定の目安（スロープ装着車 [車いす仕様車]）

▶ サードシート装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	0
全乗員	なし	0
全乗員	ラゲージルーム満載時	0.5
運転者	ラゲージルーム満載時	1.5

▶ サードシート非装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	0
全乗員	ラゲージルーム満載時	0.5
運転者	ラゲージルーム満載時	1.5

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

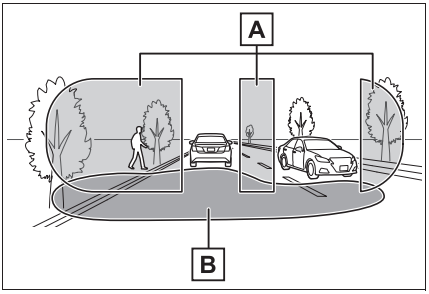
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



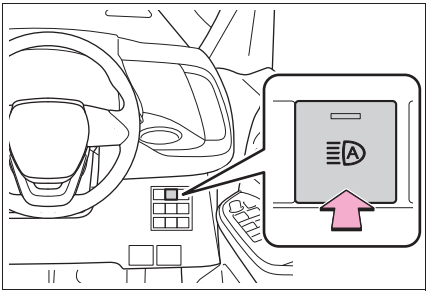
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

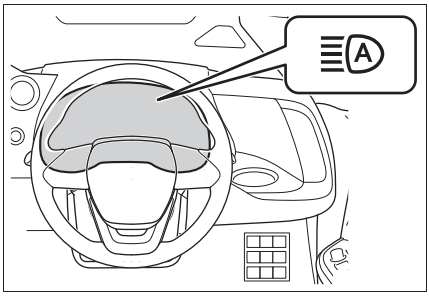
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチを≣Dまたは

AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。

・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき

・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.201
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.461）

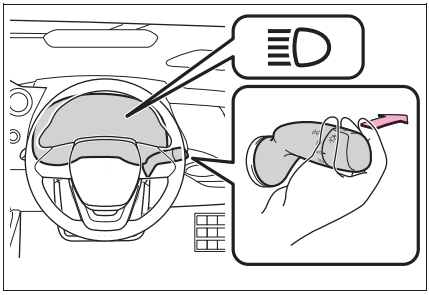
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

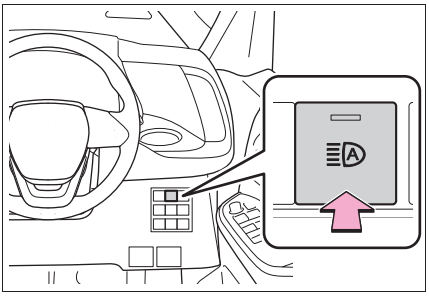


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

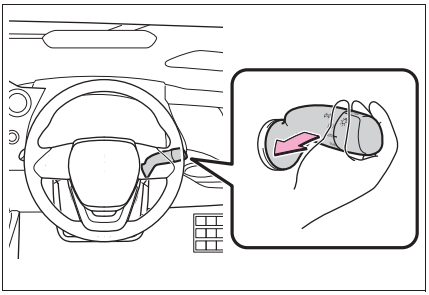


■ 一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

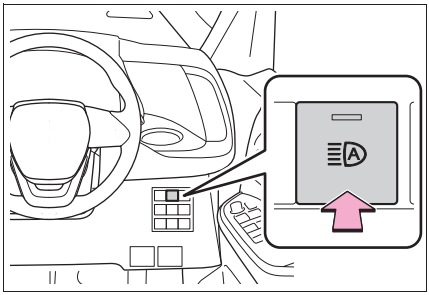
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

オートマチックハイビームを使うには

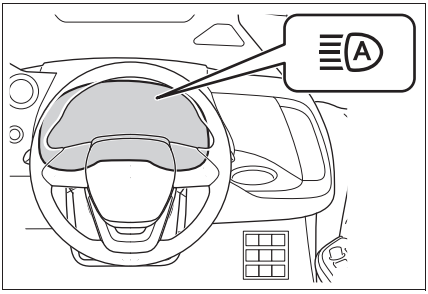
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき

・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.201
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

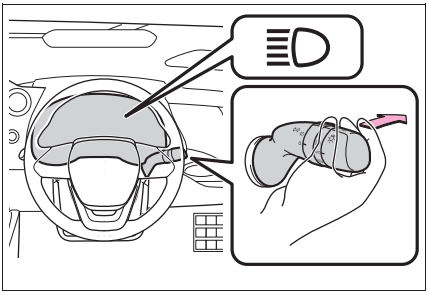
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

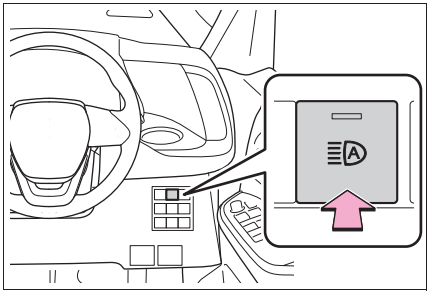


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

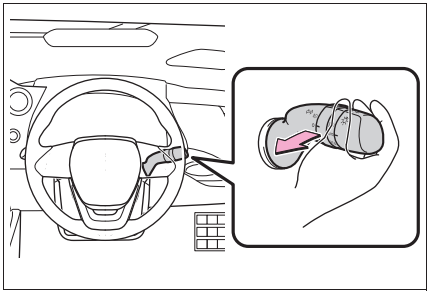


■ 一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

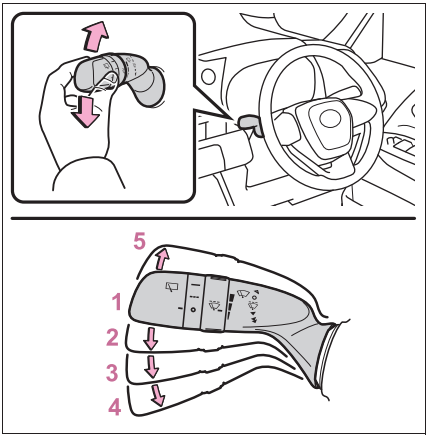
⚠注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

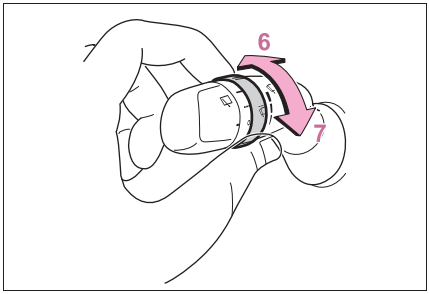
2 間欠作動（INT）

3 ▼ 低速作動（LO）

4 ▼▼ 高速作動（HI）

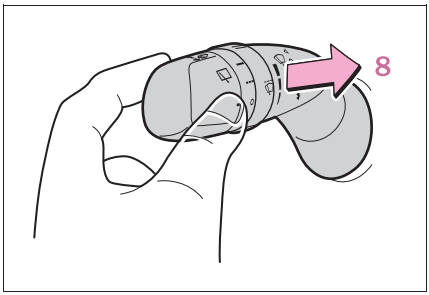
5 △ 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■走行中にエンジンを緊急停止したときは

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

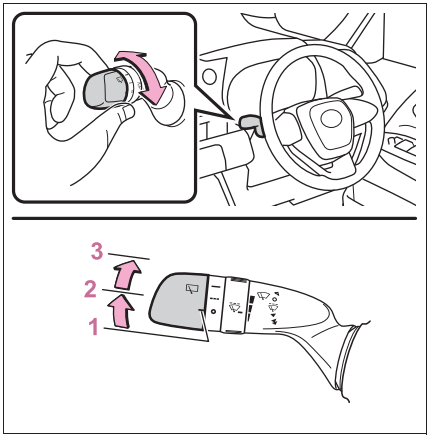
注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

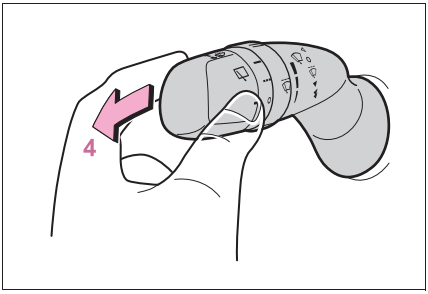
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 - - - 間欠作動

3 ― 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■**作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■**バックドア開連動リヤワイパー停止機能**

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■**リバース連動機能**

フロントワイパーが ・▼・▼▼ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■**カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.461）

注意

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

リヤワイパーの停止位置切りかえ

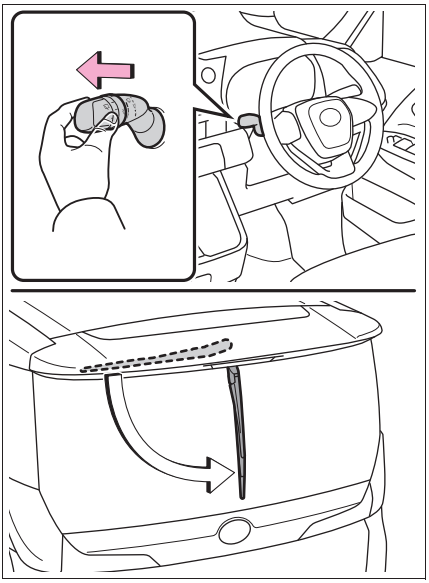
リヤワイパーは使用していないとき、リヤスポイラーに格納されています。寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえてください。

■ **サービスポジションへ切りかえる**

1 スイッチを ○ の位置にする
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパーレバーを前方に押し

の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



知識

■ **リヤワイパーを格納位置にもどすには**

エンジンスイッチが ON の状態で、次のいずれか条件を満たしたときにリヤワイパーは格納位置にもどります。

・ リヤワイパースイッチを操作したとき

・ 車速が約 7km/h 以上

・ シフトレバーを R にしたとき

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

⚠注意

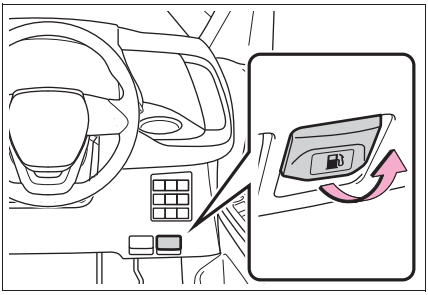
●塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

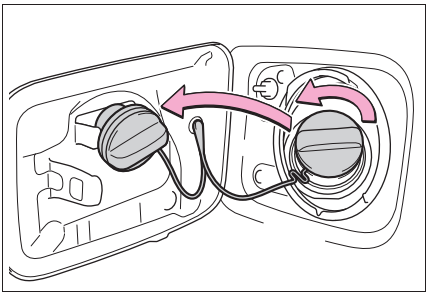
給油口の開け方／閉め方

■ 給油口を開けるには

1 オープナーを引いて、給油扉を開く



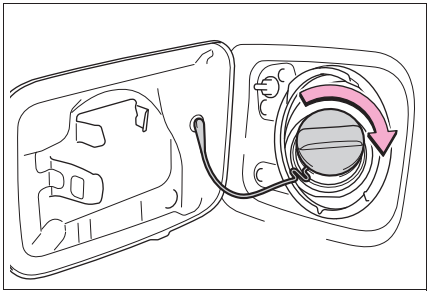
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



■ 給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブ装着車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

●Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブは、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブの取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.1 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブ各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

●お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。

●T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブのバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

■ 自車のToyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブのバージョンに合った取扱方法を読む

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

https://manual.toyota.jp/safetysu/

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense/ アドバンスト ドライブを使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※1

・法規上の問題が発生したとき ※1

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき ※2

※1 すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

※2 通知画面は表示されません。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

警告

●事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.187

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHB（オートマチックハイビーム）★

→P.190

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライバーモニター★

→P.209

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.210

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.219

■ LCA（レーンチェンジアシスト）★

→P.224

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.227

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.232

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★

→P.237

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 発進遅れ告知機能

→P.239

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.240

■ レーダークルーズコントロール

→P.243

■ ドライバー異常時対応システム

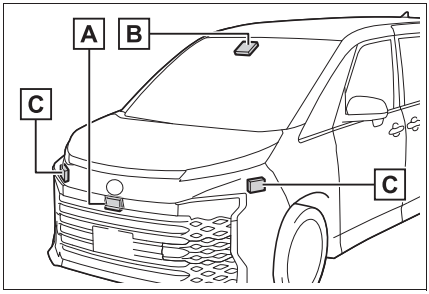
→P.254

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント



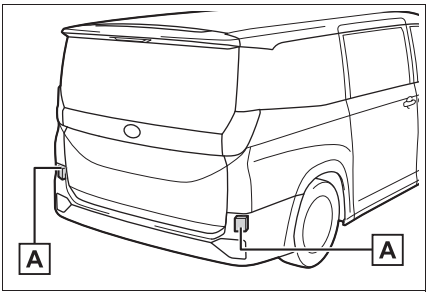
A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 前側方レーダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

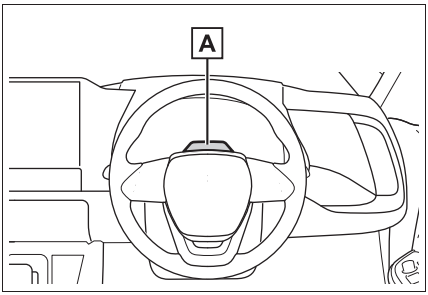
▶ リヤ



A 後側方レーダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

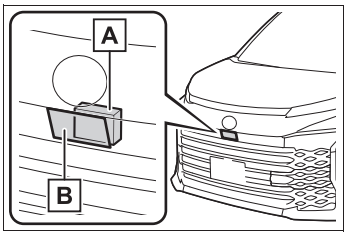
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない

警告

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー・フロントグリルを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

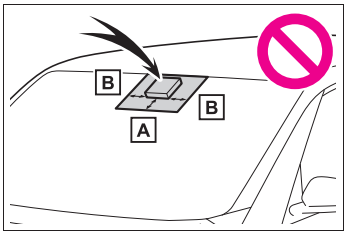
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ドライバーモニターカメラ★の取り扱いについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりアドバンスト ドライブが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
  強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない
  レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

■ご使用にあたっての留意事項

以下の機能を継続して利用するためには、T-Connect 利用契約の更新が必要です。

●LCA（レーンチェンジアシスト）★

→P.224

●レーダークルーズコントロール：再発進可能時間延長

→P.243

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●センサーが極端に高温になっているとき

●センサー前面に泥・雨滴・雪・虫・ゴミなどが付着したとき

●霧・雪・砂嵐・激しい雨などの悪天候のとき

●前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光・反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき

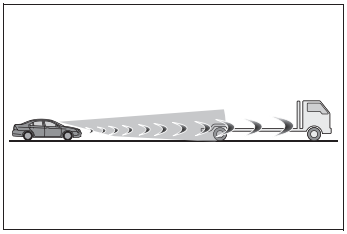
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

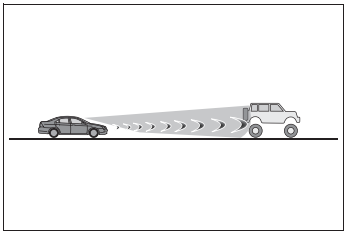
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが大量に付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ・ステアリング等の関連システムに異常を検出したとき

●VSC・TRC 等の安全システムが作動したとき

●VSC･TRC 等の安全システムが OFF になったとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能なため、必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ **ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況（ドライバーモニターカメラ装着車）**

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき
- 強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき
- 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさが大きく変動しているとき
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき
- 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 前に身を乗り出したり、メーター全体が見えない運転姿勢をとっているときなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲から顔が外れているとき
- ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき
- 帽子を被っているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき
- コンタクトレンズをつけているとき
- マスクを着用しているとき
- 笑ったり、眼を細めたりしているとき
- 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき
- 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき
- 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき
- 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニターシステムなど）があるとき

■ **レーダーの取り扱い**

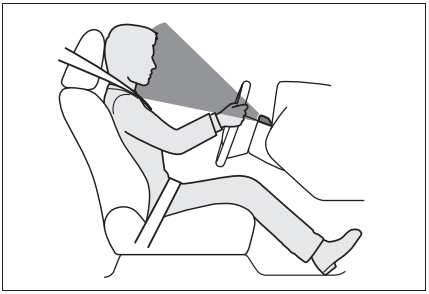
レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

ドライバーモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見していたり眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できなかったり姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

警告

■安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.208

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.461）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.210）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.218）

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.201

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

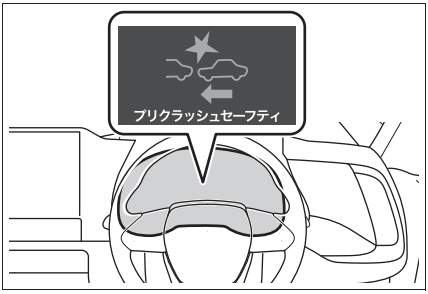
※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

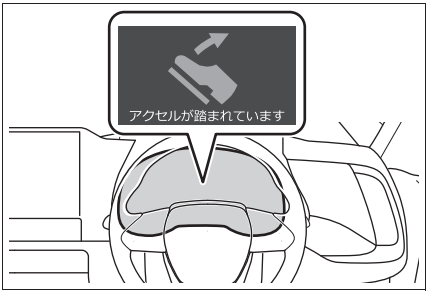
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルが踏まれるまで停止状態を保持します。

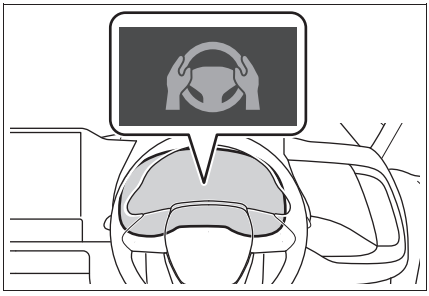
■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

アクティブ操舵機能設定車：運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

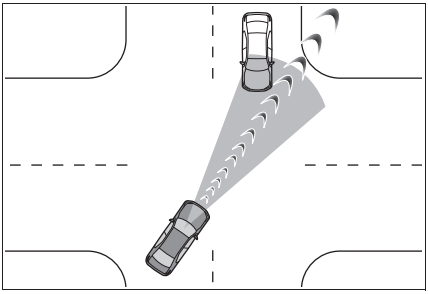
作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



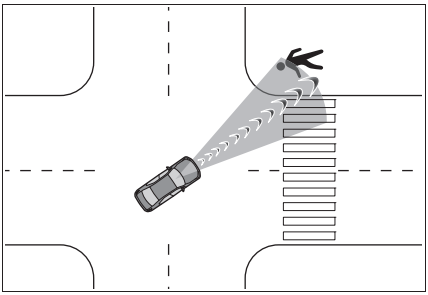
■ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

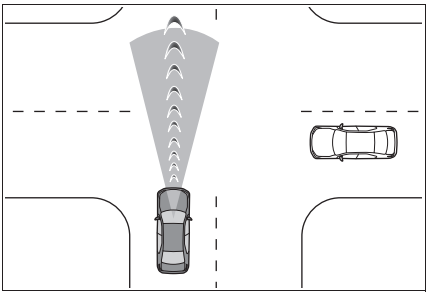


● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者や、自転車を検出したとき



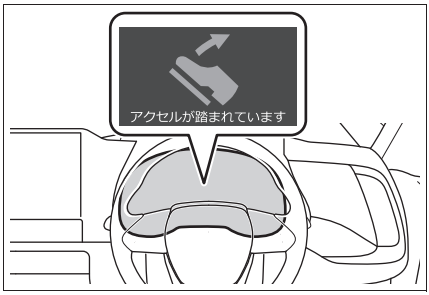
■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



警告

■ プリクラッシュブレーキについて

● プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

● プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

● プリクラッシュブレーキ作動後のブレーキ保持は、次のような状況では作動しません。状況に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

・ アクセルが踏まれている

・ 交差点支援機能で停止している

・ 急な坂道で停止している

警告

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180 km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～180 km/h	約 10 ～180 km/h
自転車	約 30 ～80 km/h	約 30 ～80 km/h
歩行者	約 30 ～80 km/h	約 30 ～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～180 km/h	約 10 ～80 km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180 km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車運転者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h

作動対象	自車速度	相対速度
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約40～80 km/h アクティブ操舵機能：※～80 km/h	約40～80 km/h アクティブ操舵機能：※～80 km/h

※下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約5～40km/h	約5～75km/h	約10～115km/h
歩行者	約5～30km/h	—	約5～40km/h
自転車	約5～30km/h	—	約5～50km/h
対向自動二輪車	約5～40km/h	約5～75km/h	約10～115km/h

●交差点支援 (出合頭車両)

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両（側面）	約 5 ～ 60 k m/ h	･自車速度以下 ･約 40km/h 以下	約 5 ～ 60 k m/ h
自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 k m/ h	･自車速度以下 ･約 40km/h 以下	約 5 ～ 60 k m/ h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 0 ～ 15 k m/ h	約 0 ～ 15 k m/ h
自転車	約 0 ～ 15 k m/ h	約 0 ～ 15 k m/ h
歩行者	約 0 ～ 15 k m/ h	約 0 ～ 15 k m/ h

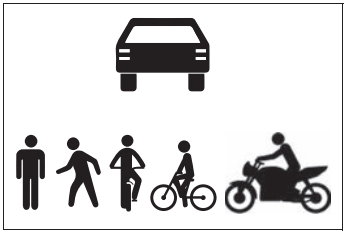
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

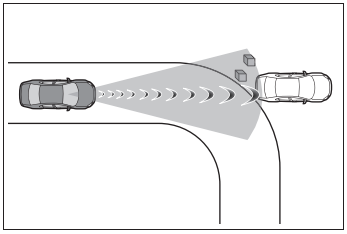
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき

・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき

・ 作動対象などに急接近したとき

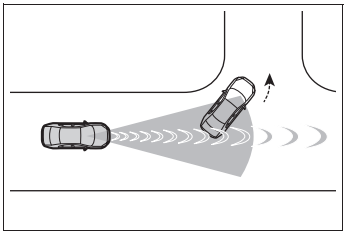
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき

・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

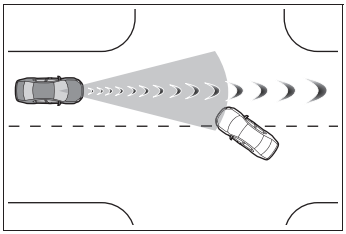


・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

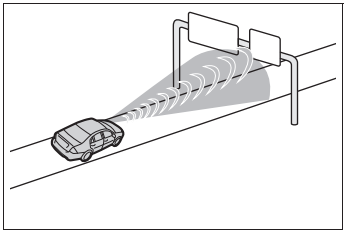
・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



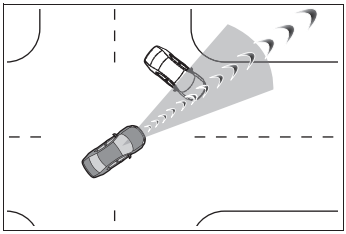
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車・横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車・横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車・横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

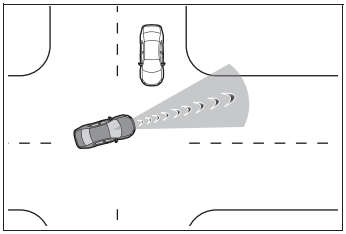


・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

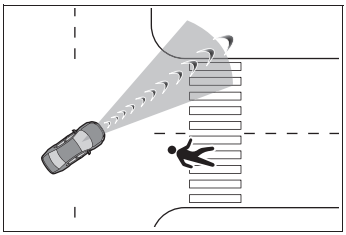
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき (急ハンドル・急加速・急減速など)
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイル

ドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



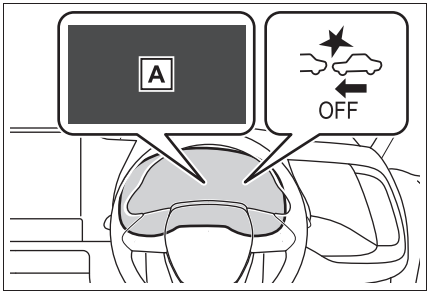
●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.465）

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



A “プリクラッシュセーフティが OFF になりました”

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.465）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

- ドライバーモニターカメラ装着車：運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が“早い”のタイミングで作動します。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車・周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

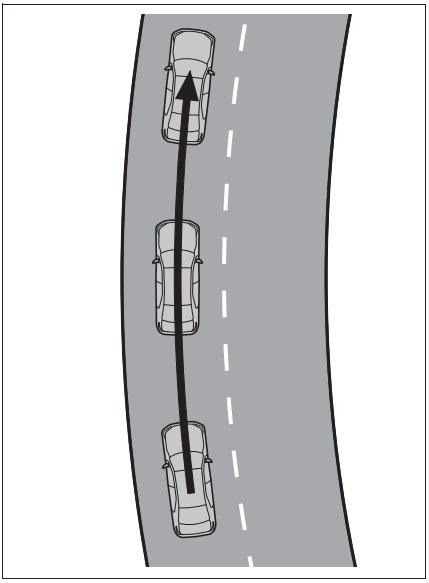
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車・周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

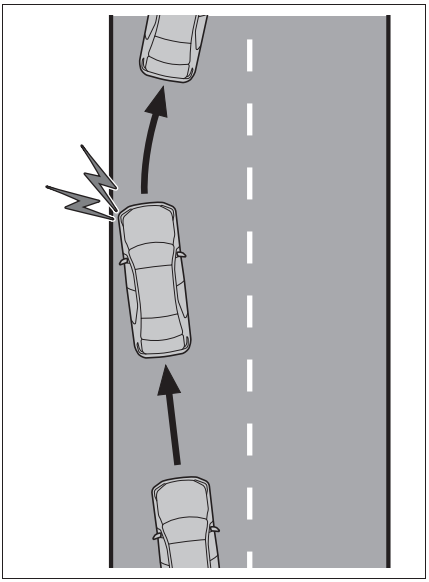
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、ディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

●次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・システムが車線を認識しているとき、または先行車・周辺車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロールが作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.221）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、

ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段を振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

LCA 付き車：次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

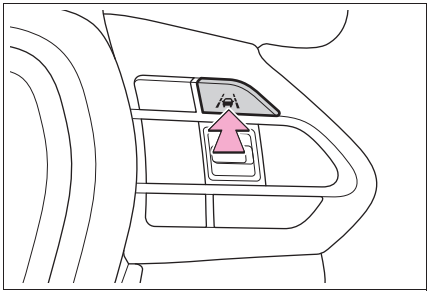
LCA 付き車：次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。

・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LTA の作動 / 非作動を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が作動状態のときは LTA 表示灯が点灯します。

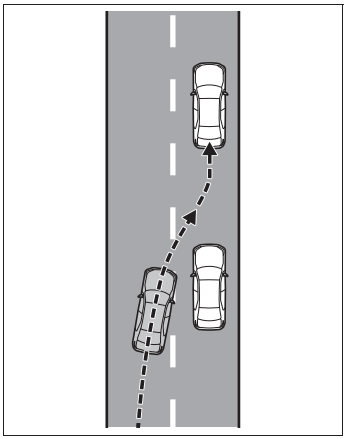


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車・周辺車が車線変更したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



●先行車・周辺車がふらついたとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車・周辺車が車線から逸脱したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

●先行車・周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）

●横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.207

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
橙色点滅	橙色点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LCA（レーンチェンジアシスト）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LCA の機能

LTA と連携し、方向指示レバーを途中で保持することで、車線変更に必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。（→P.219）

LCA を利用せず方向指示レバーを途中で保持してレーンチェンジする場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。

警告

■LCA をお使いになる前に

●LCA を過信しないでください。LCA は自動で運転する装置でもレーンチェンジ先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、レーンチェンジしてはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LTA が作動しているとき

●カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを作動状態に設定したとき

●自車速度が約 85 ～ 130km/h のとき

●システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき

●車線を変更する先に車両が存在しないとき

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.225）が行われていないとき

●エンジン始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●作動条件が満たされなくなった場合（→P.224）

●システムが車線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを左折または右折の位置（→P.177）へ操作したとき

●運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知し

たとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.225）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ハンドル振動、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

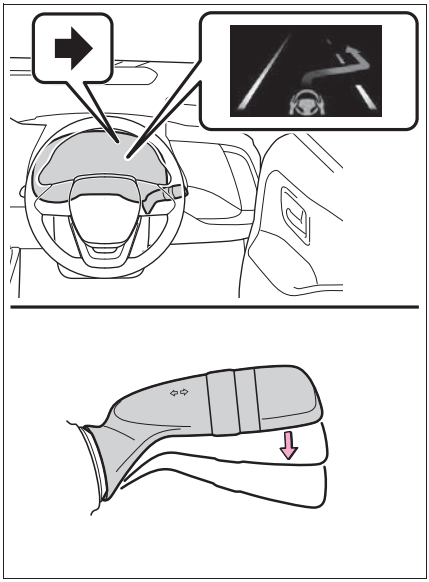
■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●LCA 作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを途中で保持（→P.177）すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。



警告

■LCA を使用してはいけない状況

●片側 1 車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LCA の作動 / 非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.466）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
灰色矢印／緑色線	緑色	LCA がスタンバイ状態
青色矢印／白色線		LCA が作動中
	灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
なし	灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

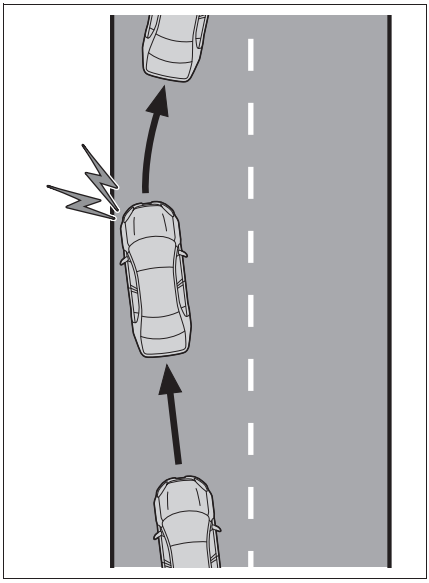
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



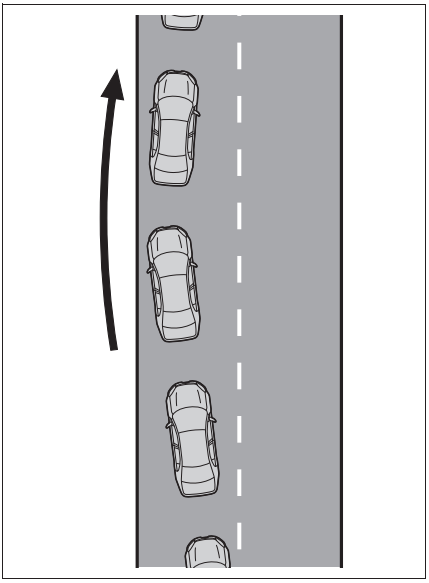
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

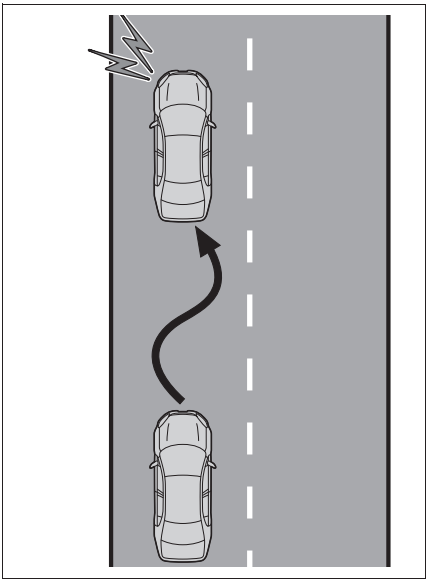
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低速支援を作動にした時）

・システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）

・車線の幅が約 3m 以上のとき

・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）

・急カーブを走行していないとき

・一定以上の加減速がないとき

・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

●休憩提案機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき

■機能の一時解除

作動条件（→P.228）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

車両がふらついて走行しているとき、ディスプレイの表示と警報ブザーで休憩をうながします。

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.466）

● カスタマイズ設定から、LDA の

設定を変更することができます。
（→P.466）

警告

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、システムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●システムを OFF にする必要があるとき :→P.201

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき

●横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●車線を検知できないおそれがあるとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
OFF 橙色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している
橙色点滅	橙色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
橙色点滅	橙色点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.233）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

●プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.234）

●プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

●わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

状況	作動内容	作動対象
道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
	ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	
先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207
・シフトポジションが P、R または N のとき
・自車両速度が約 15km/h を下回ったとき

または、周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合

●次のときシステムの支援を停止する場合があります。
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位

置へ操作したとき

警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.207

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール・工事用コーン・ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道・轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換・急加速・急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

●作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

●作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

●横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき

●駐車車両が横向き、斜め向きのとき

●子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

●歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき

●歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）

●歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき

●歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき

●歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき

●周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、 作動対象が周囲に溶け込んでいるとき

警告

- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動 / 非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.466）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.466）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している
	先行車に対する減速支援が作動中

表示	意味
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●プロアクティブドライビングアシスト作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ドライバーの減速操作をうながす注意喚起を行います。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★

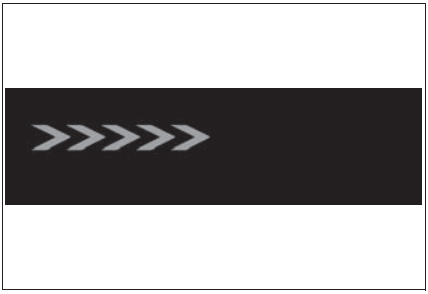
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

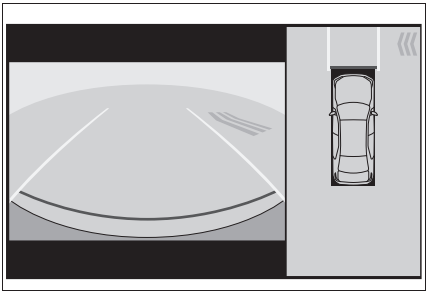
システムの制御

● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ヘッドアップディスプレイ

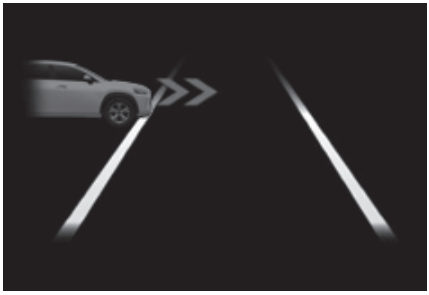


・パノラミックビューモニター



● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・マルチインフォメーションディスプレイ



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■FCTA システムの作動条件

システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

● シフトポジションが P・R 以外にあるとき

● 自車速度が約 15km/h 以下のとき

● 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60km/h であるとき

● 先行車がいないとき

●アクセルを強く踏み込んでいないとき

●ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

●道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき

●路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき

●自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき

●自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき

●自転車や歩行者が歩道を通行しているとき

●車両や歩行者が自車から遠ざかるとき

●交差車両が減速し停止するとき

●交差車両が自車直前で右左折するとき

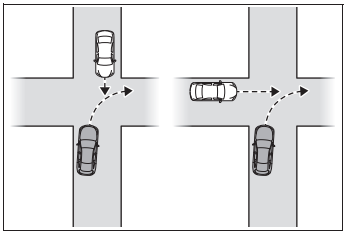
●歩行者が自車に接近するとき

●対向車が右左折するとき

●交差車両より先に自車が交差点を通過するとき

●信号待ち時に交差車両が接近するとき

●右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



●前方から車両が接近し、すれちがうとき

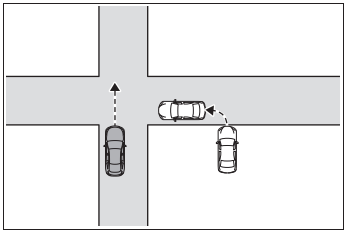
●後方から車両が接近し、追い抜かれるとき

●自車が車両や歩行者と並走するとき

●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。



●交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）

●交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき

●交差車両が自車から遠方を交差するとき

●自車と交差車両のあいだに障害物があるとき

●複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

FCTA の設定を変更する

● FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.466）

● カスタマイズ設定から、FCTA

の設定を変更することができます。（→P.466）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青に替った後、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●その他の状況：→P.206, 207

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

●その他の状況：→P.206

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や、看板と言った信号機でないものを信号機と認識したとき

●歩行者用、自転車用の信号機の形状が自動車用と良く似ているとき

●その他の状況：→P.206

発進遅れ告知機能の設定を変更する

● 発進遅れ告知機能の作動/非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.467）

● カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.467）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム※（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

※ 10.5 インチマルチメディアディスプレイ装着車

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム※（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

※ 10.5 インチマルチメディアディスプレイ装着車

知識

■ **標識表示の作動条件**

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■ **表示機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に侵入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

● 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

	重複表示の例

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・ 信号機が矢印信号のとき

・停止線に対し信号機が遠くにあるとき
・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識や信号機が多数あるとき
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.466）

レーダークルーズコントロール

レーダーとカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.248

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

警告

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

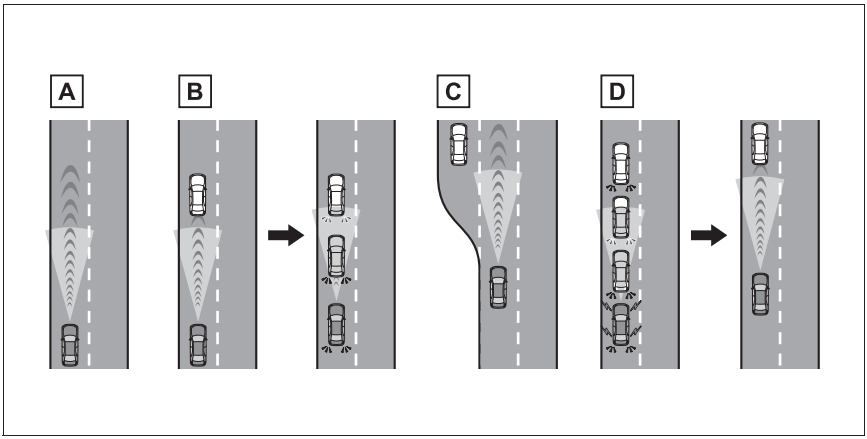
●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

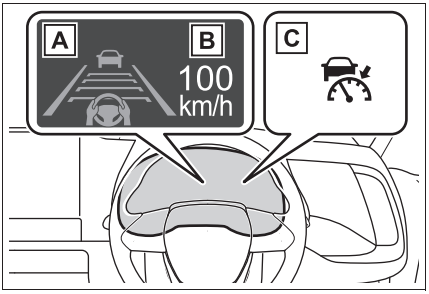
先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）装着車：高速道路・自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行

車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

システムの構成部品

■ メーター表示

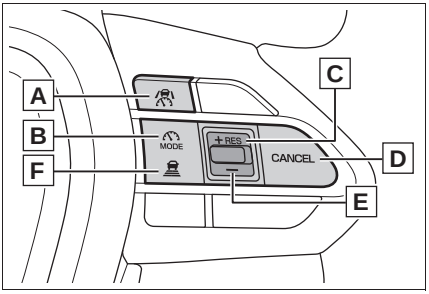


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D キャンセルスイッチ

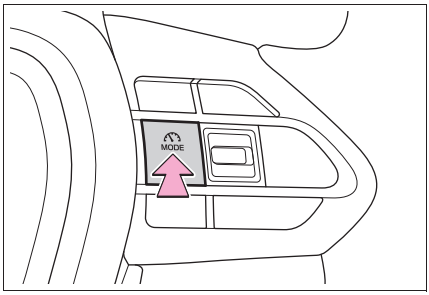
E “-” スイッチ

F 車間距離切りかえスイッチ

速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダクルーズコントロールを選択します。

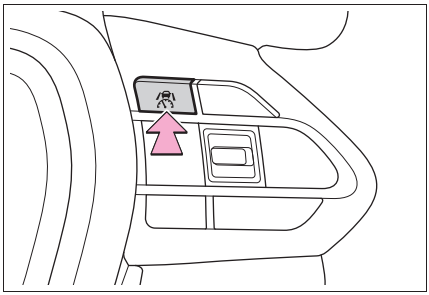
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

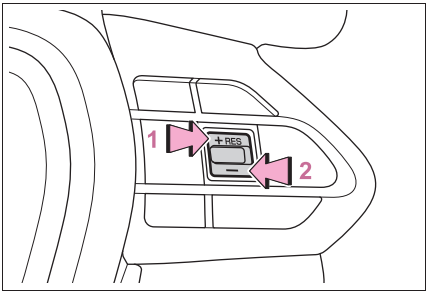
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作をするごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

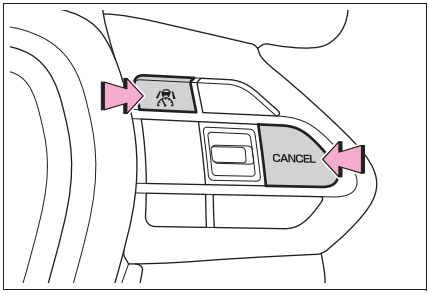
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

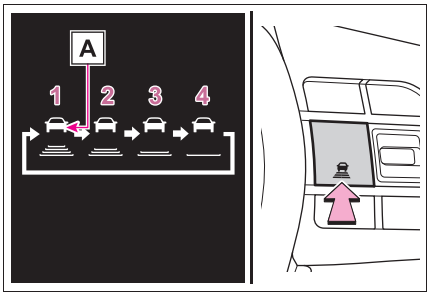


2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m

イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
3	中	約45m
4	短	約30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。（ただし車速が約30km/h未満で設定したときは、設定速度が約30km/hに設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に“RES”スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約3分経過した

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.201

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.249）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

■再発進可能時間延長の作動条件（アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●T-Connect のご利用契約中

●トヨタが提供するコネクテッドサービスの利用契約中

詳細はトヨタ販売店へお問い合わせください。

●自動車専用道路など限定された道路を走行中

●先行車が存在し、システムが先行車を検知できている

●先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない

●先行車が入れかわっていない

●クリアランスソナーおよび前側方レーダが前方の物体を検知していない

●運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している

●ハンドルを操作していない

●ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い

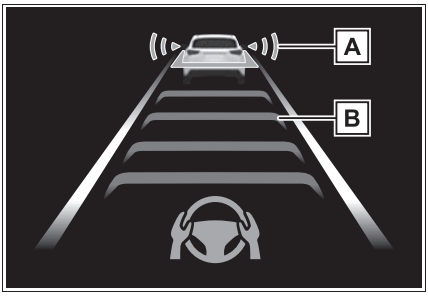
越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

知識

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダクルーズに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

カスタマイズメニューから、通信利用型クルーズコントロールの作動／非作動を変更することができます。（→P.468）

レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。

（→P.461）

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

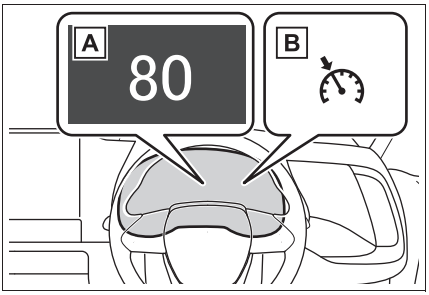
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.201

システムの構成部品

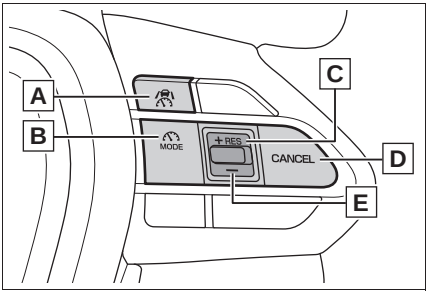
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

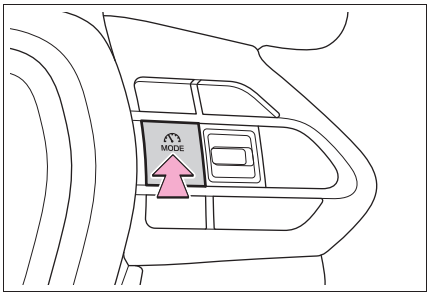
D キャンセルスイッチ

E “-” スイッチ

速度を設定する

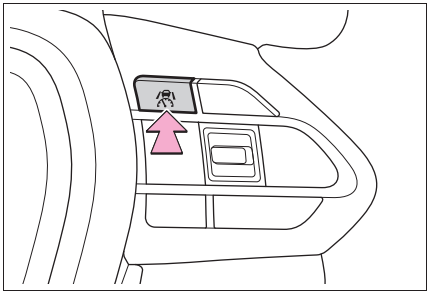
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

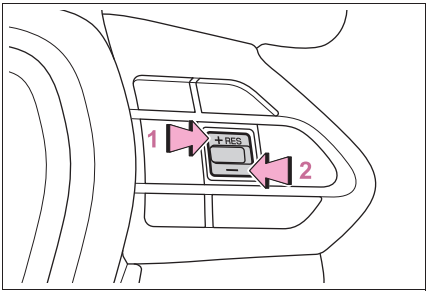
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

単押し調整：スイッチを押すごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

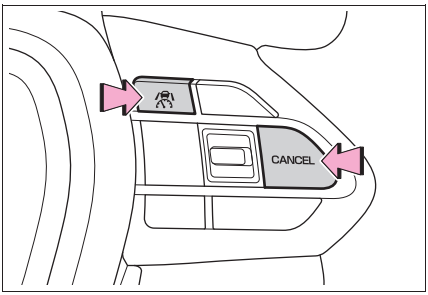
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

知識

■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

● 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

● 車速が約 30km/h 未満になったとき

● 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

● パーキングブレーキが作動したとき

● システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

●ドライバーモニター★が正常に作動しないおそれがある状況：→P.208

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意

喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき
または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★制御中のとき

●自車速が約 50km/h 以上

●アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★作動中は 50km/h 以下でも作動します

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●エンジンスイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバーモニターカメラ設定車：ドライバー異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート (消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によっ

て、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

コネクティッドナビ（ディスプレイオーディオ）装着車：アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を継続的に使用するためには、T-Connect の契約更新が必要です。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.202）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.203）

知識

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.207

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.207

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.208

ドライバー異常時対応システム

→P.254

レーダークルーズコントロール再発進可能時間延長

→P.249

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

次の条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。

- レーダークルーズコントロール作動中
- LTA（レーントレーシングアシスト）作動中
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の作動条件を満たしている（→P.259）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の注意事項をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。
本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

●渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

●渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。

●システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。

●渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

●渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・路上落下物

・車線外（路肩など）にいる車両

・くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路

・工事区間

・隣接する並走車両や壁

・動物

●サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入する際は自らの責任で運転操作してください。

警告

■機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき

→P.201

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.206

●車線を検知できないおそれがあるとき

→P.207

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

●水しぶきがかかったとき

●外気温が高温または低温のとき

●自車の前方に割り込みがあったとき

●合流してくる車線があるとき

●見通しが悪い道路を走行しているとき

●車両姿勢が変化しているとき

●タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき

●中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき

●自車の速度と比べ高い速度差で並列車が隣接車線を走行しているとき

●地図情報が正常に更新されていないとき

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.203

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.204

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.205

知識

■機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

●システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールおよびレーントレーシングアシストが作動しているとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急なカーブを走行していないとき

●車線中央付近を走行しているとき

●ドライバーの前方監視状態を検知しているとき

●高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下では機能が開始します）

●コネクティッドナビ（ディスプレイオーディオ）装着車：T-Connect のご利用契約中

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを締めている

●アドバンスト ドライブカスタマイズが OFF に設定されていないとき

●システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき

●PCS カスタマイズが OFF に設定されていないとき

●レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズが OFF に設定されていないとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システム作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.261）

■制御走行中の運転操作について

●ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

●アクセルペダル

通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。約 10km/h 以上など、一定条件下では、アクセルペダルを踏むと機能が解除されます。

●ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

■ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

● “Advanced Drive 使用できません 販売店で点検 ”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

● “Advanced Drive 使用できません 停車支援機能作動履歴有 ”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしてください。

システムの ON/OFF を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.461）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
(灰色)	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
(橙色)	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
(赤色)	レーダークルーズコントロール／LTA の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
(黄色)	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

ITS Connect★

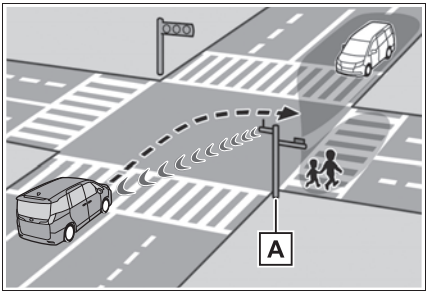
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

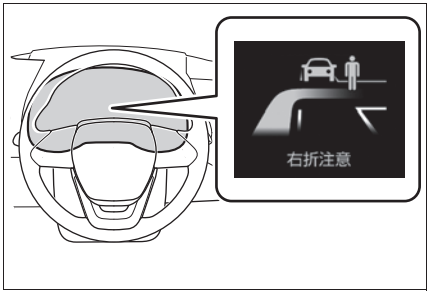
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.243 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1030
型式認定番号：10008

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.267）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.264）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

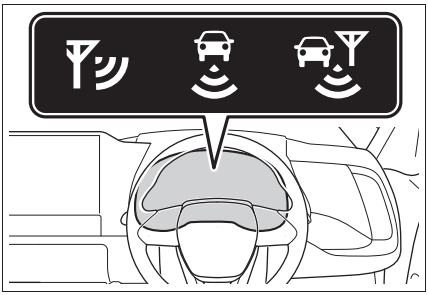
●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

⚠注意

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）かつパノラミックビューモニター装着車：出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）（10.5 インチマルチメディアシステム装着車）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起（10.5 インチマルチメディアシステム装着車）

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車は低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

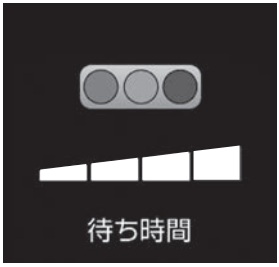
■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内※により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

※ マルチメディアシステム装着車

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

■ 通信車両接近通知の使い方

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を

押して を選択し、∧または∨を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・エンジンを始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような

状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.468）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。※3（初期設定：ON）

・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内

● 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切り替えることができます。※1, 6（初期設定：高い）

・赤信号注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※2, 5
・右折時注意喚起

● 道路環境情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。※3（初期設定：ON）

・右折時注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※4, 5

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON/OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）

※1各機能の通知感度を個別に変更することはできません。

※2FCTA（フロントクロストラフィックアラート）非装着車

※3[信号情報] または [道路環境情報] に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

※4FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車は、FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

※5 10.5 インチマルチメディアシステム装着車

※6「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

知識

■出会い頭注意喚起の通知感度について

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車の出会い頭注意喚起の通

知感度は、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

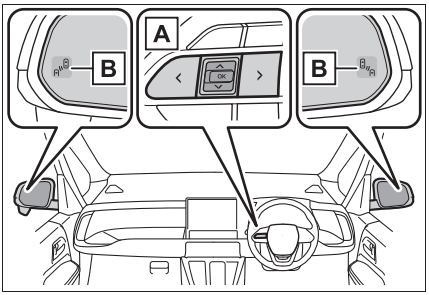
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.468)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

警告

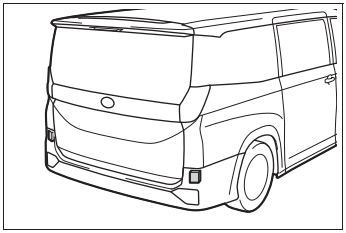
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.423）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.273）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.74）

1 ＜または＞を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して “BSM” を選択し、OK を押す

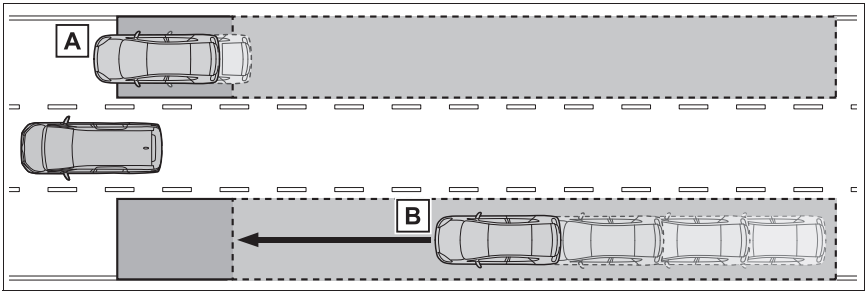
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.63）が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

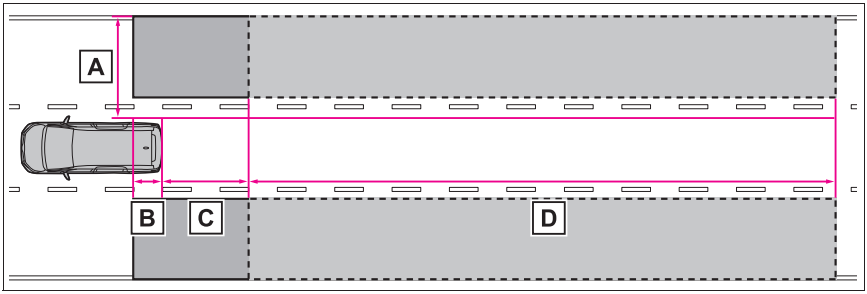


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ブラインドスポットモニターが車両を検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - ・自車と他車の速度差に変化があるとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
  - ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
  - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
  - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
  - ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
  - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
  - ・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアまたは人と車両・自転車の衝突可能性の判断の支援およびパワースライドドアの自動開作動を停止することで、事故被害低減に貢献するシステムです。

警告

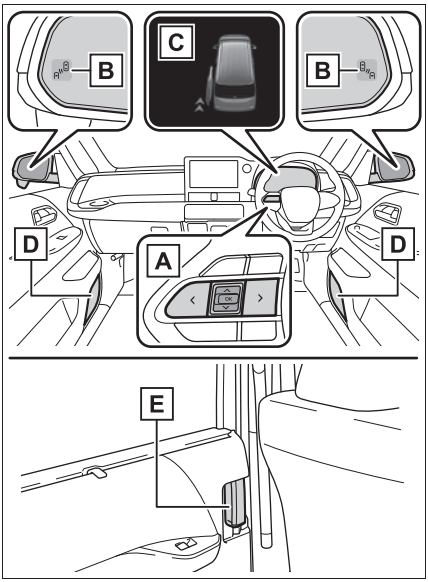
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）または降車した人と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知している側のドアを開いた場合やパワースライドドア自動開作動が停止された場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。ただし、パワースライドドアの自動閉作動している場合は、ドアミラーインジケーターは点滅せず点灯します。

C メーター／ブザー

ドアミラーインジケーターが点灯または点滅した状態でパワースライドドアの自動開作動が停止された場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。ただし、パワースライドドアが閉作動している場合は、メーターの表示およびブザーによる警報は行いません。

D スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合、音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

E パワースライドドア

ドアミラーインジケーターが点灯中はパワースライドドア開スイッチを使用しても自動開作動しません。また、スライドドアが自動開作動中に衝突する可能性のある車両・自転車を検知し、一定時間警報ブザーが継続した場合、自動開作動を停止します。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境など大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- ドアを開いて乗車後、エンジンを ON するまで
- エンジンスイッチをOFF後3分以上経過したとき
- マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき

●外部より全ドアがロックされているとき

●エンジンスイッチを OFF 後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき

●マルチメディアディスプレイの ACC カスタマイズ（→P.462）が ON の状態でエンジンが停止しているとき

●マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき

●ドアが開いた状態で音声による通知が行われ、そのドアが全閉されていないとき

■**パワースライドドアの自動開作動の停止について**

●パワースライドドア開閉スイッチまたはインサイドドアハンドルを操作した場合に作動します。それ以外の操作で自動開作動を行った場合、作動しません。

●パワードアオフスイッチが ON のとき、またはスライドドアの自動開閉機能（パワースライドドア）がついていないときは作動しません。

●ミラーインジケーター点灯中に全閉状態からインサイドドアハンドルを操作した場合、ドアが少し開いてから自動開作動を停止します。

●パワードアオフスイッチがONのときは安心降車アシストに関わらずパワースライドドアの自動開作動は作動しません。

■**カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.461）

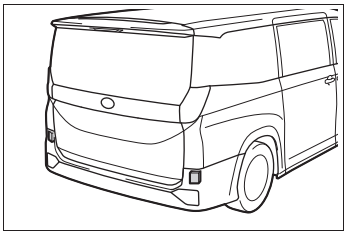
警告

■**システムを正しく作動させるために**

安心降車アシストのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、安心降車アシスト機能が ON の状態でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

警告

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→P.74)

1 ＜または＞を押して ⚙ を選択する

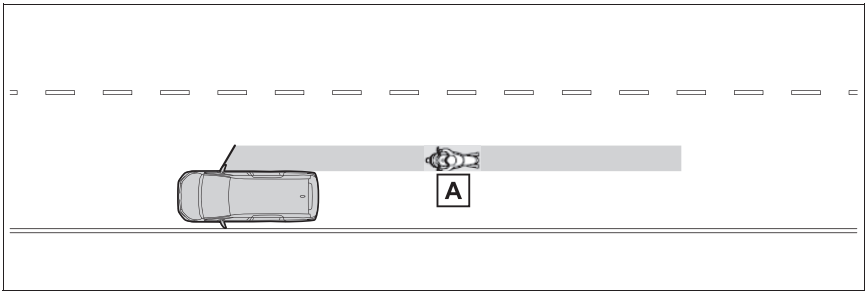
2 ∧または∨を押して "SEA" を選択し、OK を押す

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.63）が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。

検知できる対象

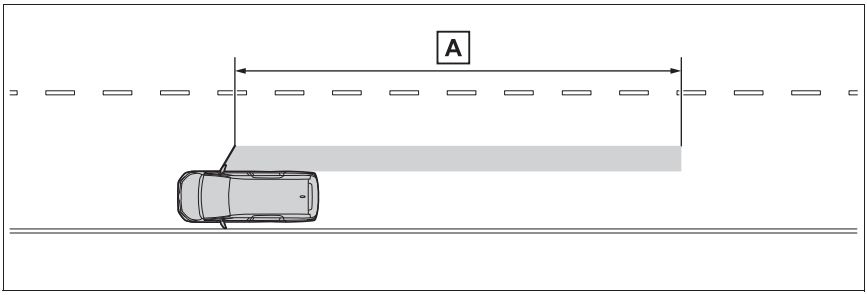
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A 降車するときにドアまたは人と衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※1

※1 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき、エンジン OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります。）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■センサーが車両を検知しない条件

安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

- 接近する車両・自転車の速度が遅いとき
- ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断する車両・自転車
- 真うしろから接近する車両・自転車
- 前方から接近する車両・自転車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止部
- 動物など

■システムがパワースライドドアの自動開作動を停止したときの開き方

接近してくる車両・自転車が通過、または進路変更したあと、周囲を確認してから再度車内のインサイドドアハンドルまたはパワースライドドア開閉スイッチを操作してください。緊急時など、警報中に周囲の安全を確認したうえで、ドアを開きたい場合は、インサイドドアハンドルを再度操作してください。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両・自転車を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両・自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・発進した直後の車両・自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両・自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

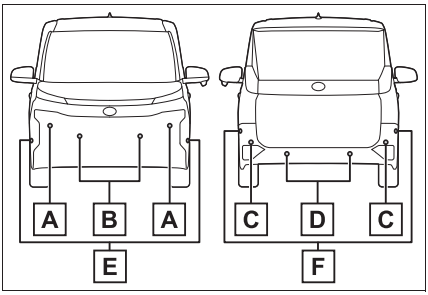
●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両・自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両・自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ **センサーの種類**



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

F リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面に表示されます。

マルチメディア画面またはリヤカメラ非装着車は，静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯します（→P.64）

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示

▶ マルチメディア画面の表示（アドバンストパーク装着車）

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.461）

クリアランスソナー機能が OFF の

ときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.64）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.461）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、復帰しません）

ただし、マルチメディア画面またはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

またこのとき、クリアランスソナー機能の ON/OFF を切り替えることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●クリアランスソナー機能が ON のとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●シフトポジションが P 以外にあるとき

●マルチメディア画面またはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メータ故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

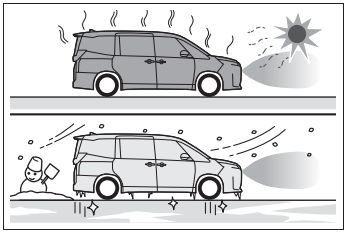
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車の

センサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

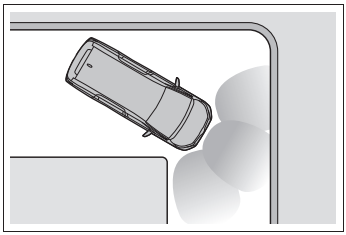
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

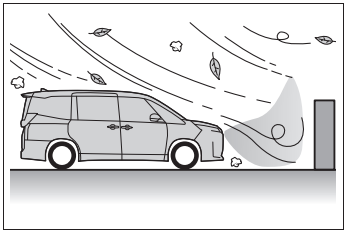
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●衝突などで、センサーの方向がずれた

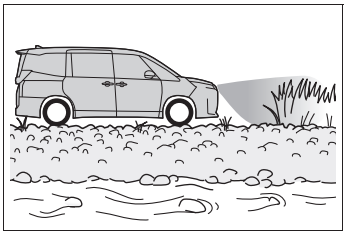
とき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



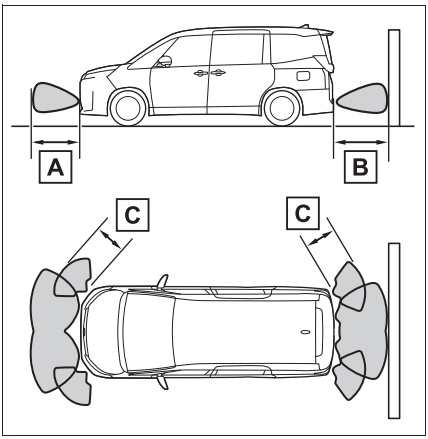
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車



A 約 100cm

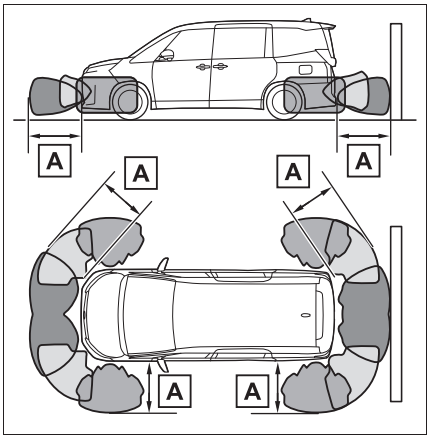
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンター： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンター： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	早い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.286）

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンター： 約 200cm ～ 100cm リヤセンター： 約 200cm ～ 150cm サイド： 約 200cm ～ 165cm コーナー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンター： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンター： 約 150cm ～ 60cm※ サイド： 約 165cm ～ 60cm※	断続音
サイド以外： 約 60cm ～ 45cm※ サイドのみ： 約 60cm ～ 40cm※	早い断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
サイド以外： 約 45cm ～ 30cm※ サイドのみ： 約 40cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.286）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA★、RCD★のブザー音量の調整が一括で調整ができます。（→P.461）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。
クリアランスソナー、RCTA★、RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

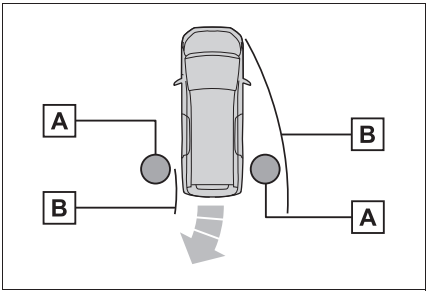
- 次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・エンジンスイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

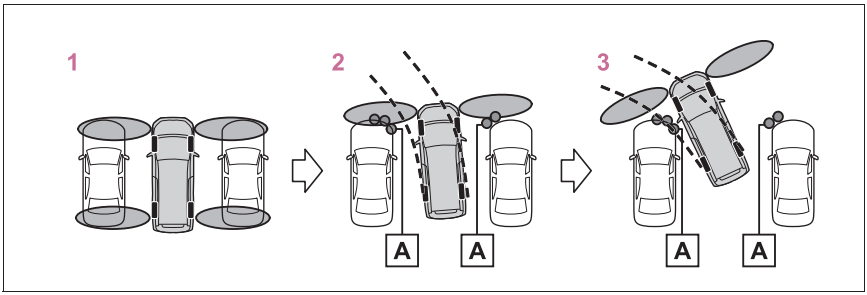
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- エンジン始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出て

も検知している状態が継続します。

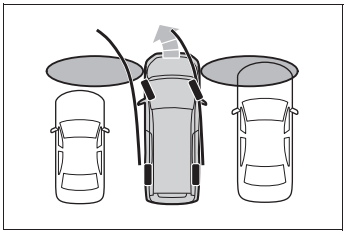
警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合

●ドアミラーが閉じられているとき

●バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

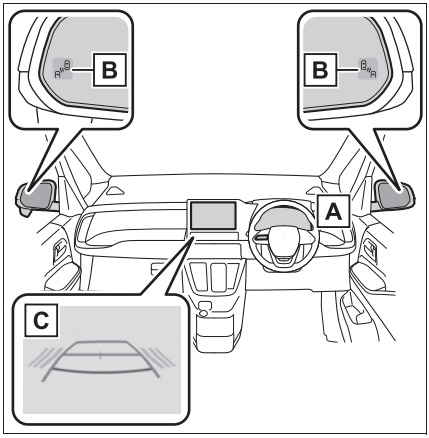
■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.269）

■システムを正しく作動させるために

→P.270

システムの構成部品



A メーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.289）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.74）

1 ＜または＞を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して

“RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、運転支援情報表示灯（→P.64）が点灯します。エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

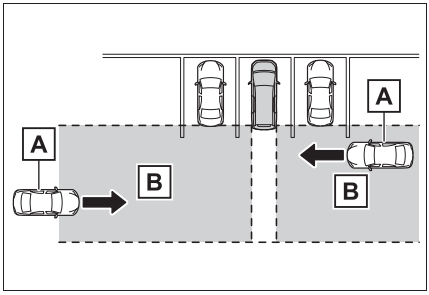
■後側方レーダーセンサーについて

→P.270

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



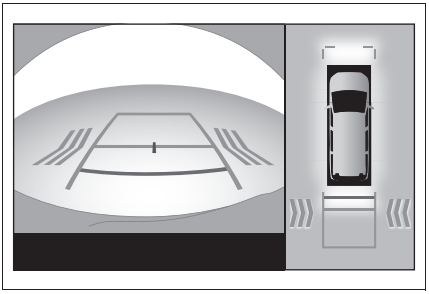
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

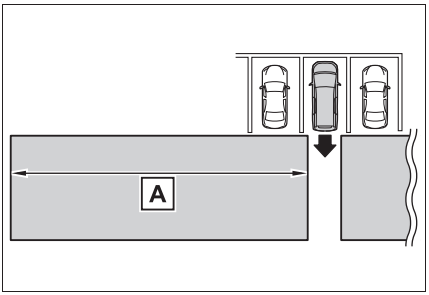
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置でブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
57km/h（速い）	39.5m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●エンジンスイッチが ON のとき
- ●シフトポジションが R のとき
- ●自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- ●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 57km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA★、RCD★のブザー音量の調整が一括で調整ができます。（→P.286）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

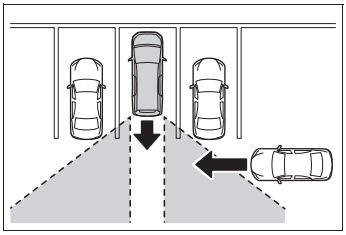
- ●シフトポジションを切りかえたとき
- ●車速が一定値以上になったとき
- ●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ●使用中の機能を OFF にしたとき
- ●エンジンスイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●真後ろから接近する車両
- ●自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- ●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■**システムが正常に作動しないおそれのある状況**

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

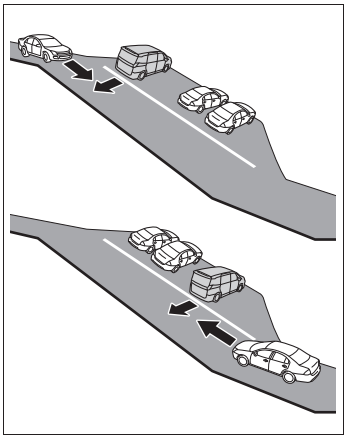
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

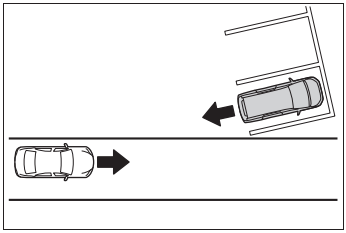
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



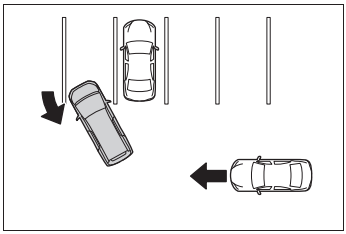
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

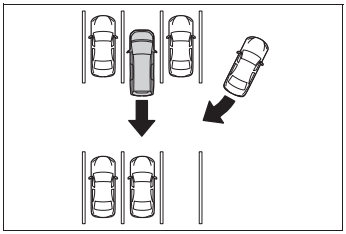
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



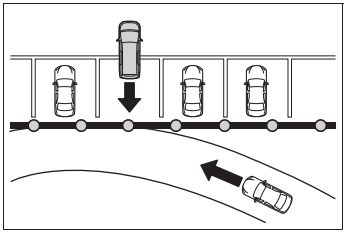
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



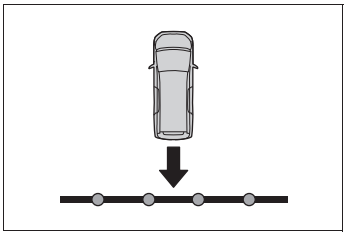
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

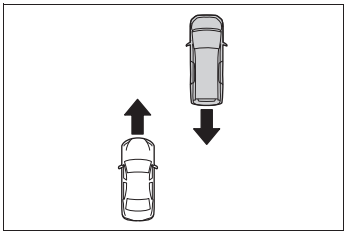


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

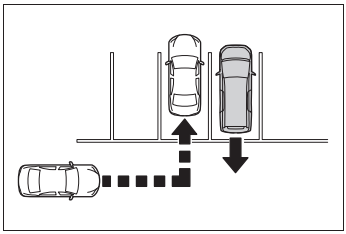


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

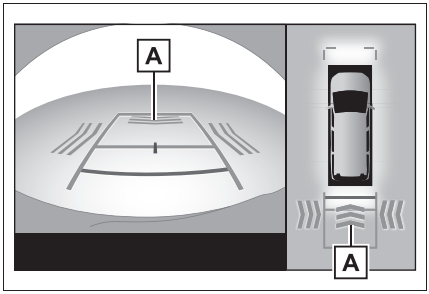
- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCD 機能は ON になります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.74）

1 ＜または＞を押して ⚙ を選択する

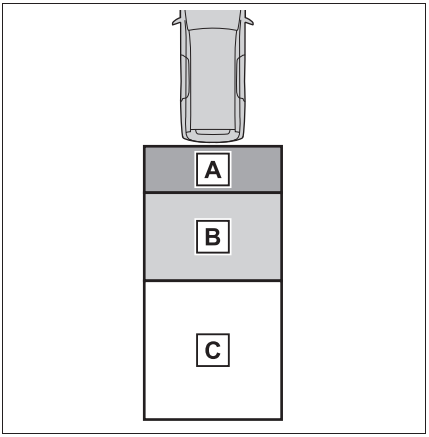
2 ∧または∨を押して “RCD” を選択し、OK を押す

RCD 機能が OFF の時は、運転支援情報

表示灯（→P.64）が点灯します。加えて、RCD 表示灯と“リヤカメラディテクション OFF”と文字を表示します。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

- ●エンジンスイッチが ON のとき
- ●RCD 機能が ON のとき
- ●シフトポジションが R にあるとき
- ●アドバンストパークが作動中でないとき

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA★、RCD のブザー音量の調整が一括で調整ができます。（→P.286）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザー音を一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

を押すとクリアランスソナー、RCTA★、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- ●シフトポジションを切りかえたとき
- ●車速が一定値以上になったとき
- ●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ●使用中の機能を OFF にしたとき
- ●エンジンスイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影
・リヤウォッシャーを作動させているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲

が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.301

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→P.303

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→P.304

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

→P.307

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.74）

1 ❮または❯を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して“PKSB”を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、運転支援情報表示灯（→P.64）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から“PKSB”を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面（アドバンストパーク装着車）、マルチインフォメーショフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏んでください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

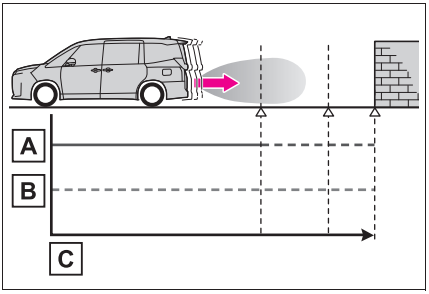
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図3）

● 図1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

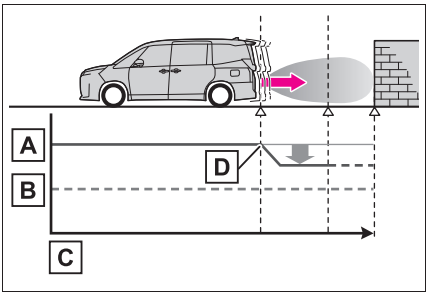


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図2（エンジン出力抑制制御時）



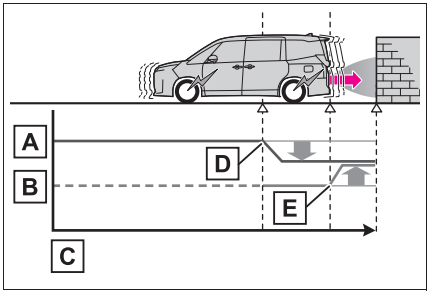
A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）

が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を再度 ON にする（→P.297）か、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。

●シフトポジションを P にした

●進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた

●車両の進行方向が切りかわった ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングサポートブレーキ 現在使用できません ” が表示され、運転支援情報表示灯が点灯したときは

●センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトポジションが R 時以外も表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●アドバンストパーク装着車の場合は、ドアが開いていると周囲静止物の検知ができません。全てのドアが閉まっていることを確認してください。

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.280）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.297）、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

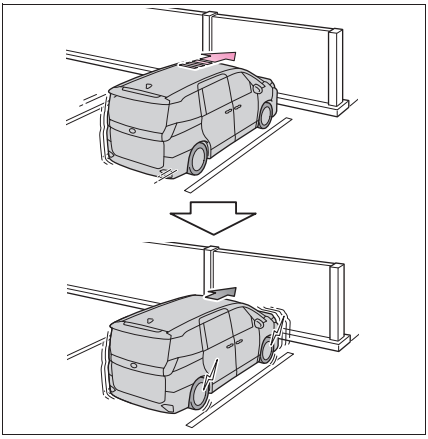
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジションの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

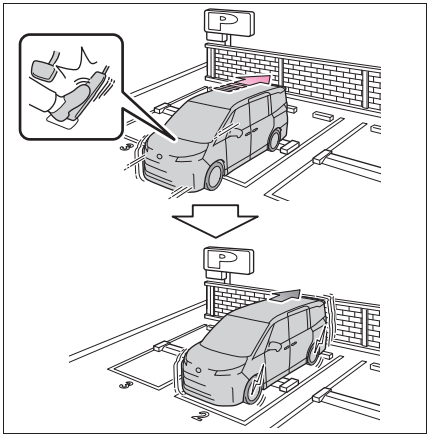
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

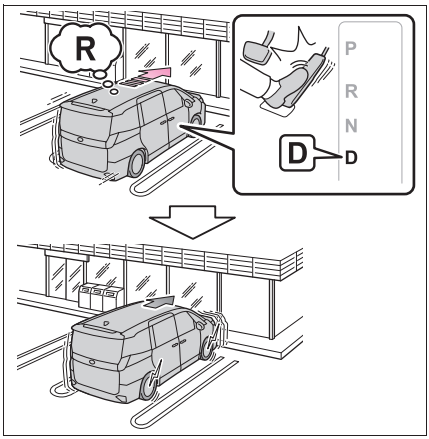
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.280

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.281

警告

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.299

■洗車時の注意

→P.281

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.64, 419）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.284）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.282

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.283

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

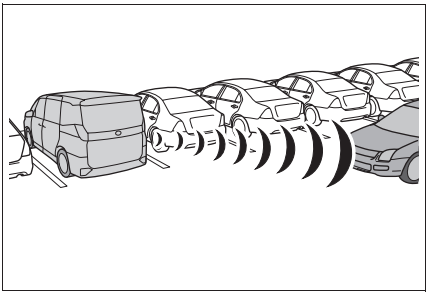
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.270

警告

■**システムを正しく作動させるために**

→P.270

知識

■**パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.64, 419）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- エンジン出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■**パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 自車後側方への接近車両がなくなった

とき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.290）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.291

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.292

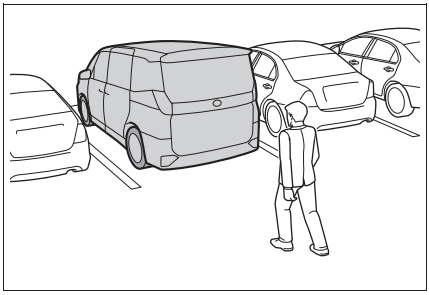
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

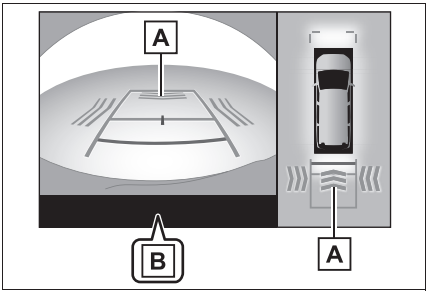
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！”

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.293

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.64, 419）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいる
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.300

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.294）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.295

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.295

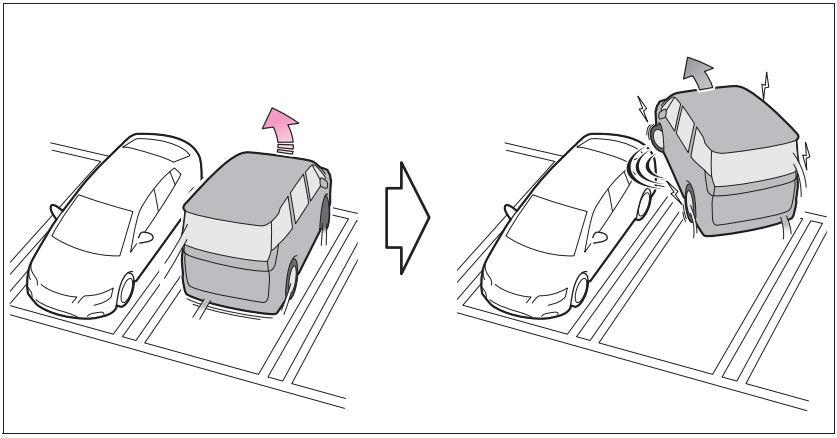
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

駐車時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるとき、センサーが周囲の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

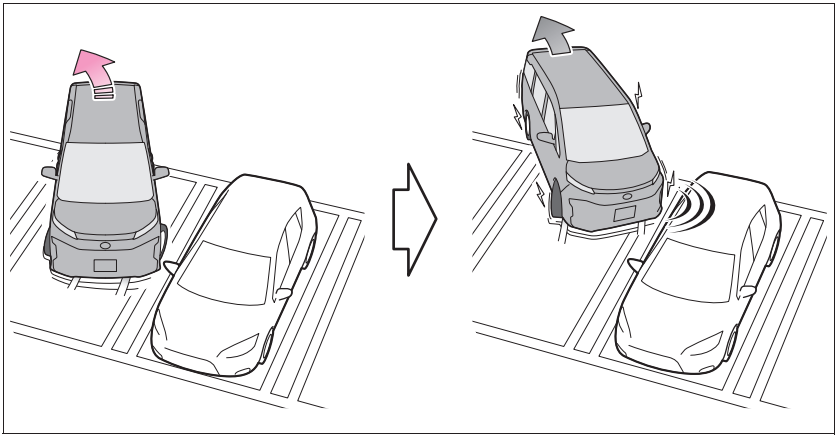
システム作動例

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ **前進中に内輪差で巻き込みによる衝突のおそれがあるとき**



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突のおそれがあるとき



知識

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.64, 419）しておらず、パーキングサポートブレーキ（静止物）の条件（→P.302）に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●エンジン始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲とは（→P.284）異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.282

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動条件（→P.283）に加えて、次の

ような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。
縦列駐車時など側方の幅寄せをするとき
→P.283

■サイドエリアの静止物の検知について

→P.287

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アドバンストパークの役割

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車を実現するシステムです。（シフト操作は運転者が行ってください。）また、パノラミックビューモニターで、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークの機能

■ 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.316）

■ 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。

（→P.319）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.320）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.323）

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.325）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

・針金・フェンス・ロープなどの細いもの

・綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

・鋭角的な形のもの

・背の低いもの（縁石やブロックなど）

・背が高く上部が張り出しているもの

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、車止め、人などに接触しそうなときは、ブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。

警告

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキを踏んでください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子様がハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。→P.281

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では、使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地、砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜、段差のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

警告

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両前方に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき

・出庫方向に穴や側溝があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨のとき

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強く当て、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

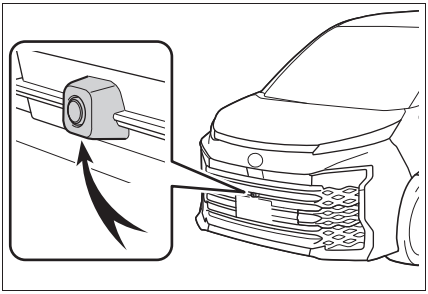
■**アドバンストパークをお使いいただくために**

バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

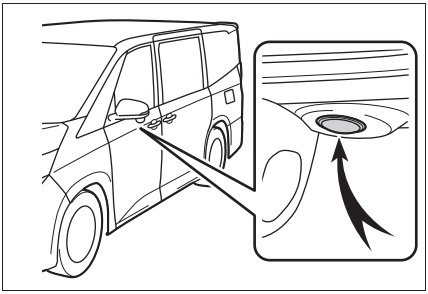
アドバンストパークのカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

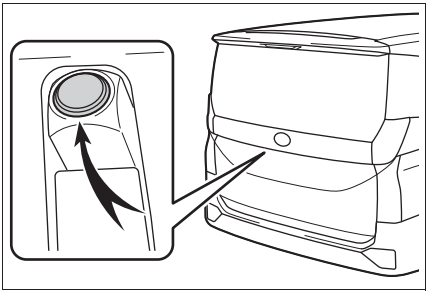
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.280

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■センサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の駐車枠線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールな

どの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・白線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.282

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.282

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.282

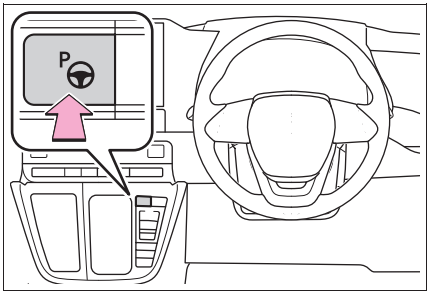
■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.283

アドバンストパークの ON/OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

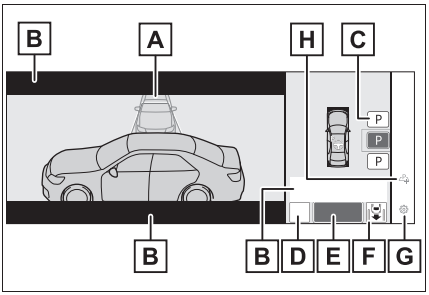
●ブレーキを踏んでいる
●停車している
●運転席シートベルトを着用している
●ハンドルを操作していない
●アクセルペダルを踏んでいない
●ドアおよびバックドアが閉まっている
●ドアミラーが格納されていない
●パーキングブレーキがかかっていない
●レーダークルーズコントロールが作動していない
●ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
●急勾配でない
●TRC または VSC が OFF でない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。（→P.332）

アドバンストパークのガイド画面について

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

P：並列前向き・バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。（→P.328）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

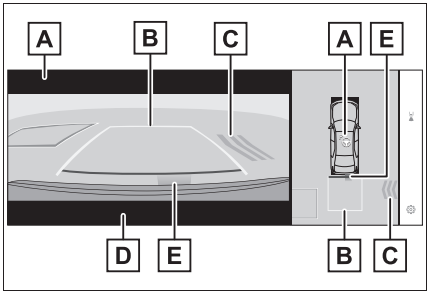
G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。（→P.331）

H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.280

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.280）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または障害物を検知したとき、エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから再度エンジンを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使用する

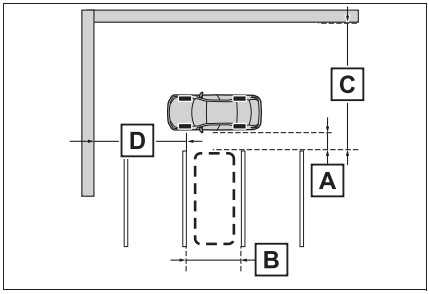
■ 機能概要

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします

■ 並列前向き・バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車します

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

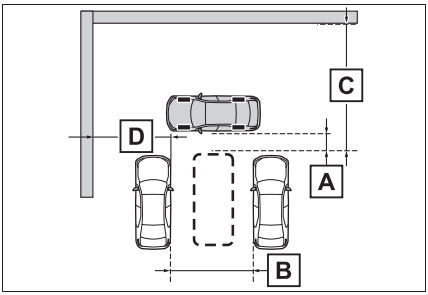
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上 ※

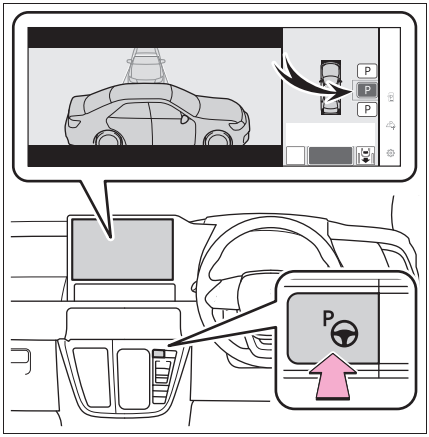
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認します



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、 をタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

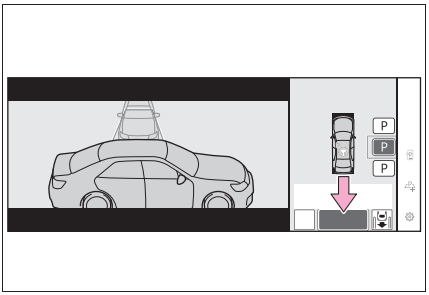
● 入庫向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、 もしくは、 にタッチすると、入庫の向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチをタッチします

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中の

メッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキを離すと、“前進します”“後退します”の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

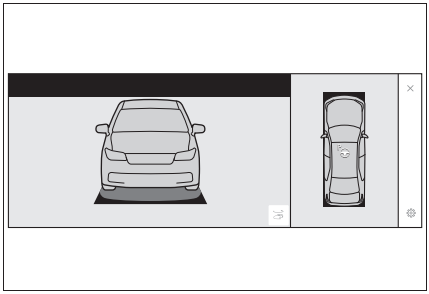
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.318

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作します

車両が停車したら、シフトレバーを P に入れると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

● シフトレバーを P に入れる前にシートベルトを外す、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。さらに運転席シートベルトを外して、ブレーキを離すと、ホーンが鳴ります。シフトポジションを P にして、アシストを終了してください。



● マルチメディア画面の にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。

知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

注意

■並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

● 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

● 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

注意

- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

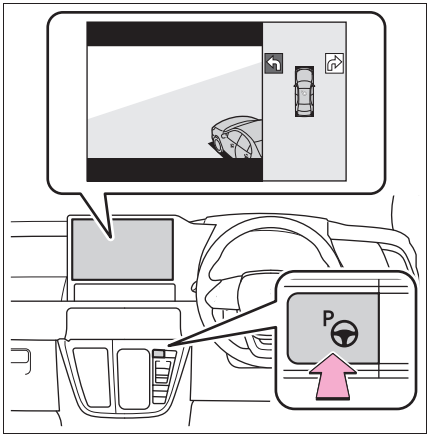
アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使用する

■ 機能概要

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

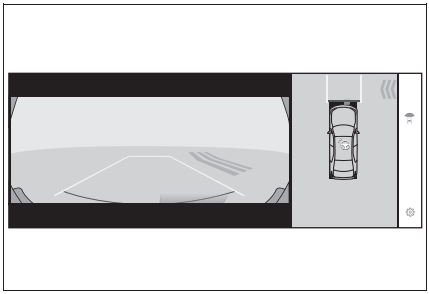
1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認します



2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択します

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキを踏んで “開始” スイッチをタッチします



“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

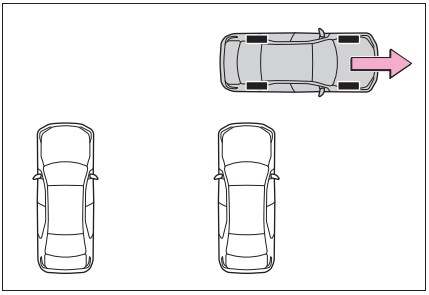
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.320

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作します

車両が出庫可能な位置に到達すると”ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドルを操作すると、”Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切り替えてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

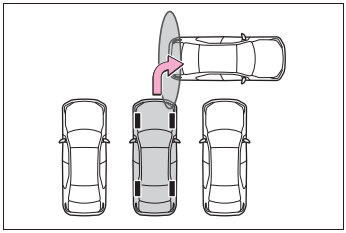
■並列前向き・バック出庫について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

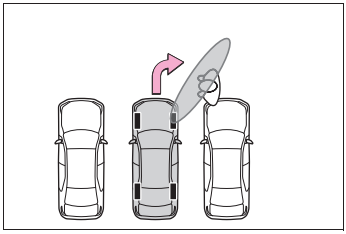
■並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き・バック出庫機能は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



●フロントまたはリヤのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



アドバンストパークの縦列駐車機能を使用する

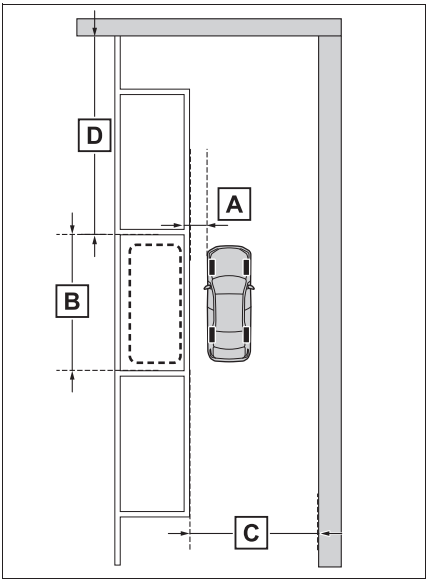
■ 機能概要

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ **縦列駐車機能を使用して駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車します

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

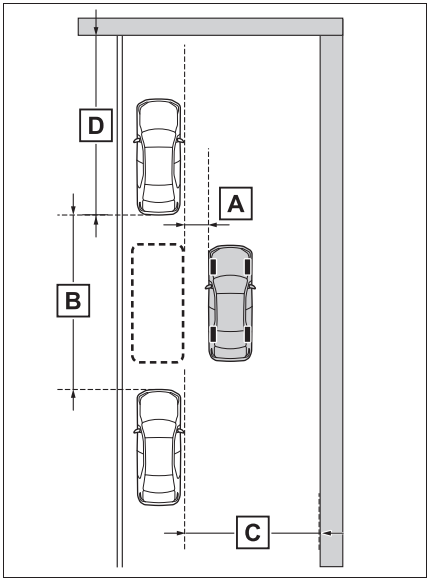
B 約 5 ～ 6m※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 7m 以上 ※

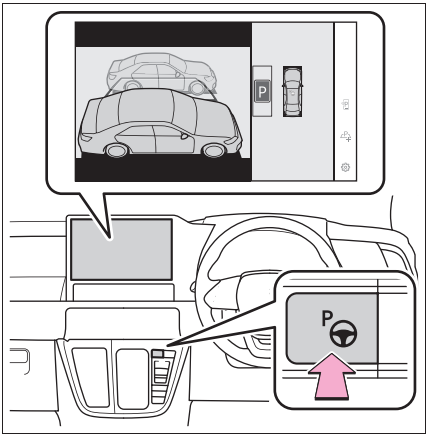
C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア

画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認します



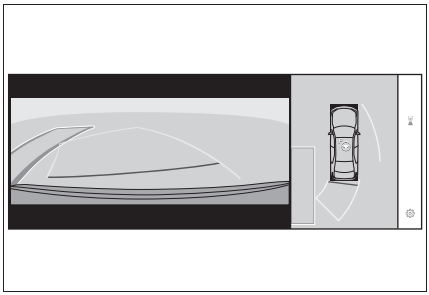
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き・バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、にタッチすると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチをタッチします

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

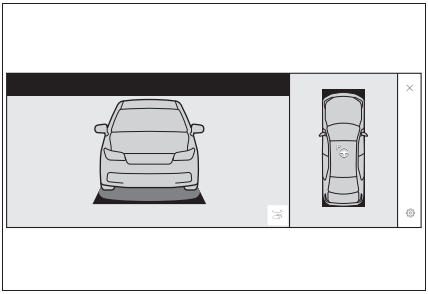
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.323

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作します

車両が停車したら、シフトレバーを P に入れると、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

● シフトレバーを P に入れる前にシートベルトを外す、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。さらに運転席シートベルトを外して、ブレーキを離すと、ホーンが鳴ります。シフトポジションを P にしてアシストを終了してくださ

い。



● マルチメディア画面の にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。

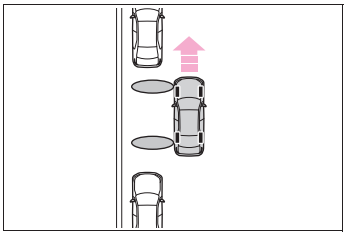
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切り替えてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。

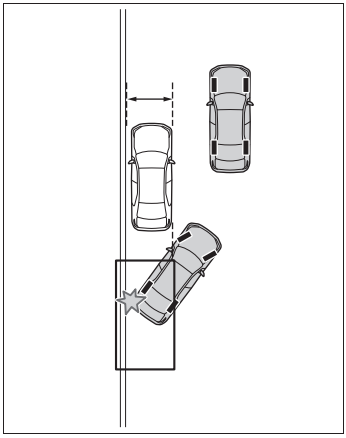


■縦列駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

●路面に段差や勾配があると正しい目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能を使用しないでください。

●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。



●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使用する

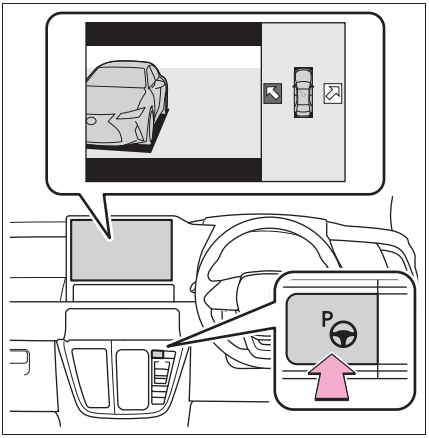
■ 機能概要

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、

縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認します



2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択します

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキを踏んで “ 開始 ” スイッチをタッチします

“ ピッ ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

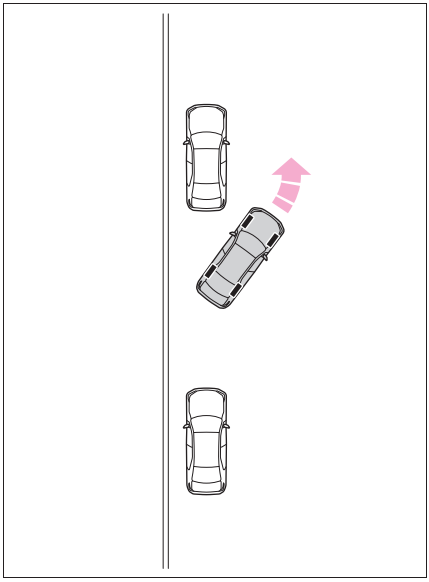
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました ” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.324

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作します

車両が出庫可能な位置に到達すると “ ハンドルを操作すると終了できます ” のメッセージが表示され、ハンドルを操作すると “Advanced Park を終了しました ” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■ 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切り替えてくだ

さい。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

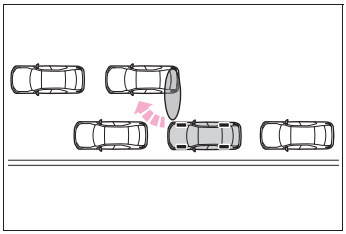
■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

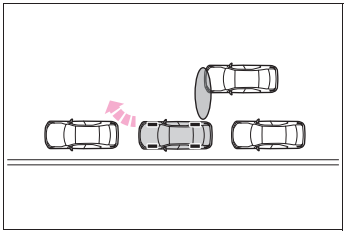
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

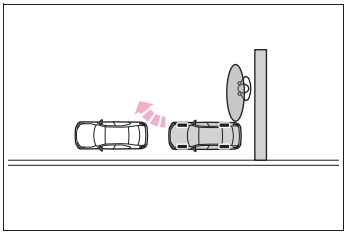
●出庫方向に信号待ちの車両がある場合



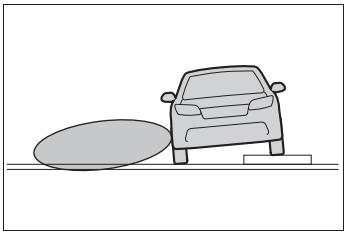
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

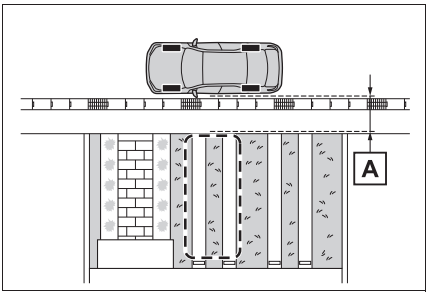
アドバンストパークのメモリ機能を使用する

■ 機能概要

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも、使用することができます。
登録できる駐車スペースは3つです。

■ 駐車スペースの登録

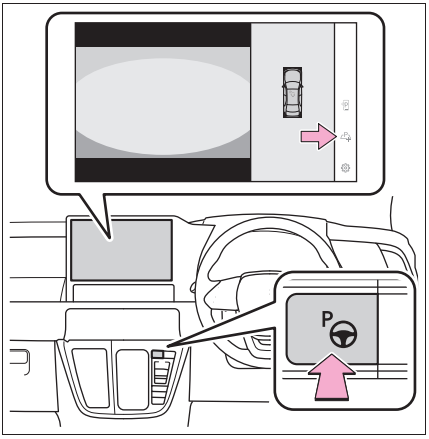
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車します



A 約 1m

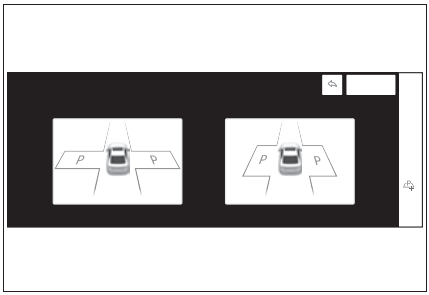
2 アドバンストパークメインスイッチを押し、Pにタッチします

区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてPにタッチしてください。



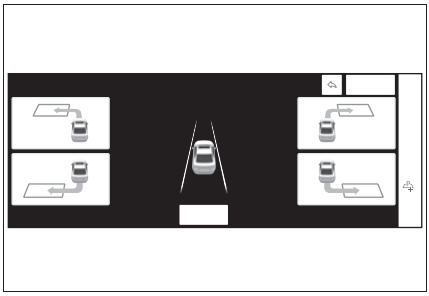
3 並列前向き・バック駐車または縦列駐車を選択します

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

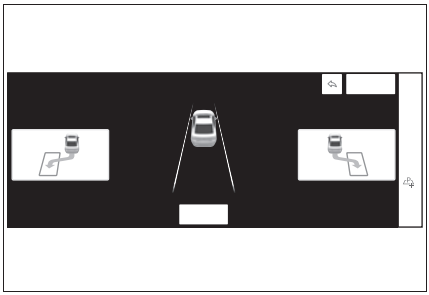


4 駐車の向きを選択します

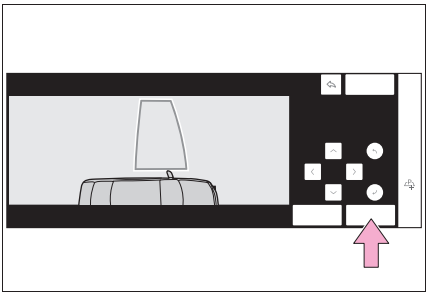
手順 **3** で並列前向き・バック駐車を選択した場合



手順 **3** で縦列駐車を選択した場合



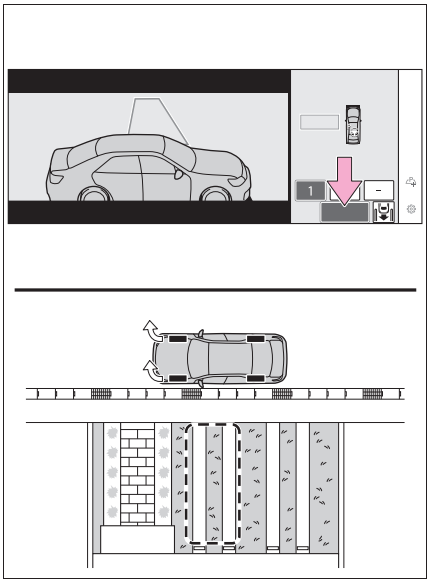
5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了” スイッチにタッチします



6 “開始” スイッチにタッチします

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。シフトレバーがD以外のとき、“シフトをDに入れてください” の音声案内と表示が出ます。ブレーキを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

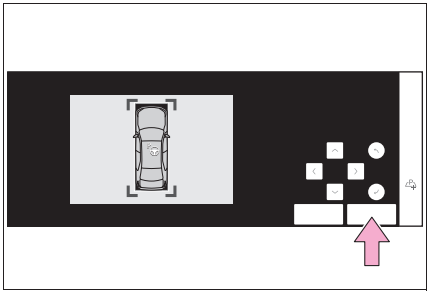
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.328



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作します

8 車両が停車したらシフトレバーをPに入れ、登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録” スイッチにタッチします

マルチメディア画面に “登録が完了しました” と表示されます。

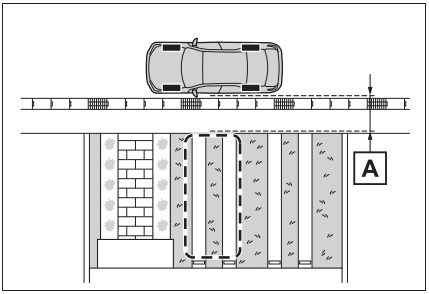


● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

■ メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

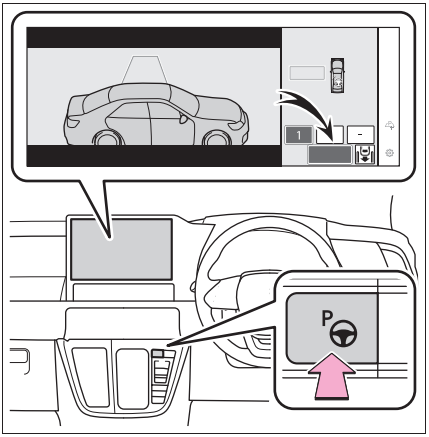
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車します



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認します

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択して、“開始” スイッチにタッチします

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 **3** 以降と同じです。（→P.316）

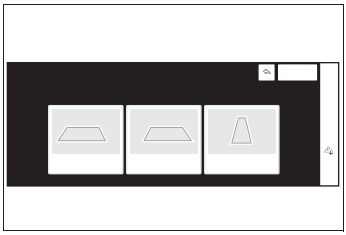
知識

■ 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切り替えてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

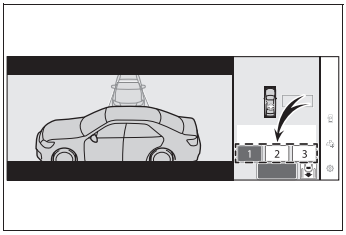
■ 登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で、にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■ 登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始” スイッチにタッチします。



注意

■メモリ機能を使用するときは

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（周囲が暗いとき）

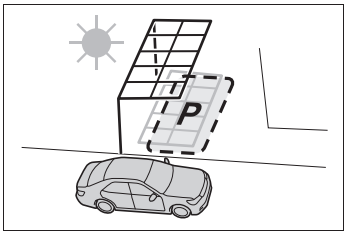
●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

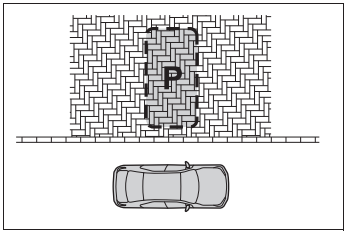
●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

注意

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい区画の真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

●カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークの中止・中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキをしっかりと踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● アドバンストパークメインスイッチを押した

● シフトポジションを P に変更した

● パーキングブレーキをかけた

● ドアまたはバックドアを開けた

● 運転席シートベルトをはずした

● ドアミラーを格納した

● TRC・VSC を OFF にした

● TRC・VSC・ABS が作動した

● エンジンスイッチを押した

● システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

● システム異常

● 停止中にマルチメディア画面上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断しま

す。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されているときにブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- 走行中にシフトポジションを変更した（P 除く）
- ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した
- PKSB・PCS が作動した

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディア画面の ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ 音声案内

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

駐車アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能なときに、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き・バック駐車中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

緊急ブレーキが作動し、アシストを中断します。周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で

にタッチしたときに表示されます。システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.326）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ **ABS（アンチロックブレーキシステム）**

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ **ブレーキアシスト**

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ **VSC（ビークルスタビリティコントロール）**

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ **S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）**

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ **TRC（トラクションコントロール）**

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ **ヒルスタートアシストコントロール**

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ **EPS（エレクトリックパワーステアリング）**

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ **緊急ブレーキシグナル**

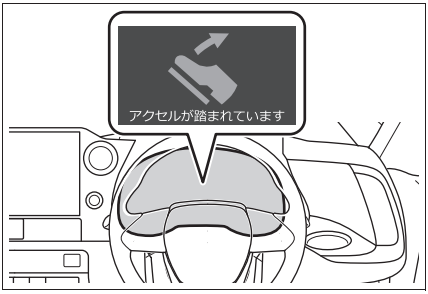
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ **セカンダリーコリジョンブレーキ（SCB）**

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ **衝突時の急加速抑制**

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



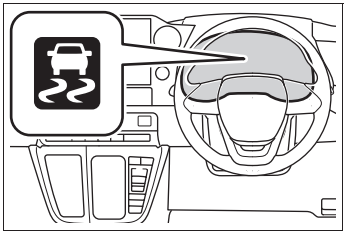
■ ダイナミックトルクコントロール 4WD システム（電子制御スタンバイ 4WD）（4WD 車）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じてFF(前輪駆動) 走行状態から4WD(4 輪駆動) 走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

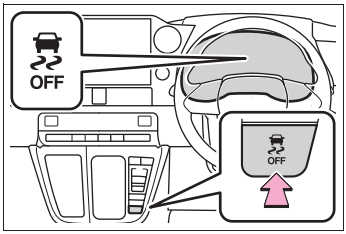


■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押します。



マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました ” と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました ” と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュセーフティも OFF になります。（衝突警報のみ作動状態になります）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.214）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ

販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N のシフト位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●エンジンスイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にシステムが解除されます。

●車両が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

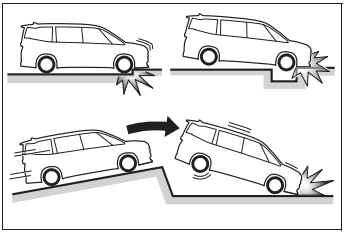
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

●「4WDシステム高温2WD走行に切りかわりました」

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「4WDシステム故障2WD走行になります　販売店で点検」

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.459）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートはお客様の運転を補助し、より安心なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加※ でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 機能の追加

急アクセル時加速抑制、交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）、RSA（ロードサインアシスト）、急アクセル時加速抑制、PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）、LDA（レーンディパーチャーアラート）、RSA（ロードサインアシスト）、BSM（ブラインドスポットモニター）、PDA（プロアクティブドライビングアシスト）、RCTA（リアクロストラフィックアラート）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）、安心降車アシスト、クリアランスソナー

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

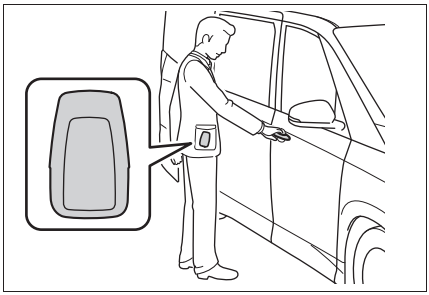
プラスサポートを起動する

1 サポキーを携帯していることを確認して、ロック解除します。

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアがロック解除されているときは、サポキーでドアをロック解除しても、プラスサポートは作動可能になりません。

● 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

● サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが起動しない場合があります。

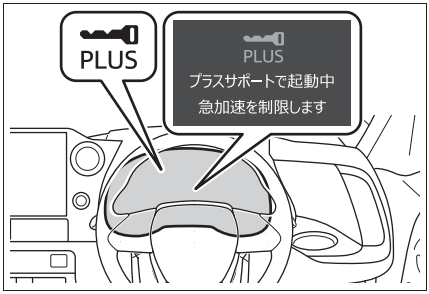


2 通常の手順でエンジンを始動します。

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認します。

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にします。

⮌を押すまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアをロック解除し、エンジンを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

急アクセル時加速抑制

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

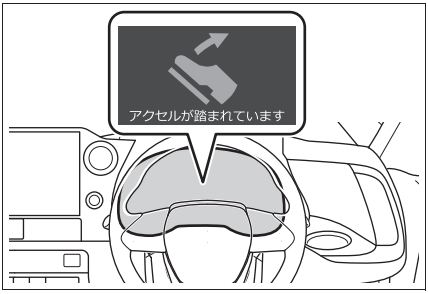
必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動した

ときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km/h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km/h、後退時は約12km/h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダ

ウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.391）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後0.5 ～ 1.0km走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。
  - ・ブレーキホールドシステム
  - ・リモート駐車機能
- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除で

きなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをＰに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.178）
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン..... 348

リヤオートエアコン..... 357

リヤクーラー..... 360

ステアリングヒーター／シートヒーター..... 361

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 363

5-3. 収納装備

収納装備一覧..... 365

ラゲージルーム内装備..... 370

5-4. その他の室内装備の使い方

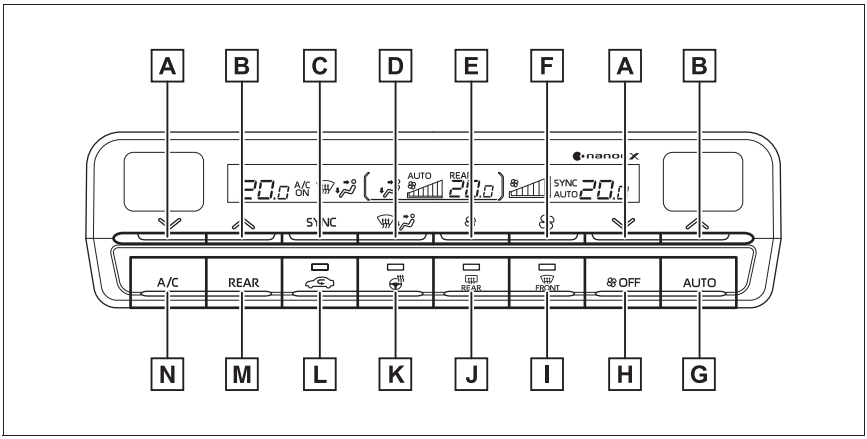
その他の室内装備 372

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

ステアリングヒーター装着車：



A 温度調整（下げる）スイッチ

B 温度調整（上げる）スイッチ

C SYNC スイッチ（各席連動モード）

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 風量減スイッチ

F 風量増スイッチ

G AUTO スイッチ（オート設定）

H OFF スイッチ

I フロントデフロスタースイッチ

J リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

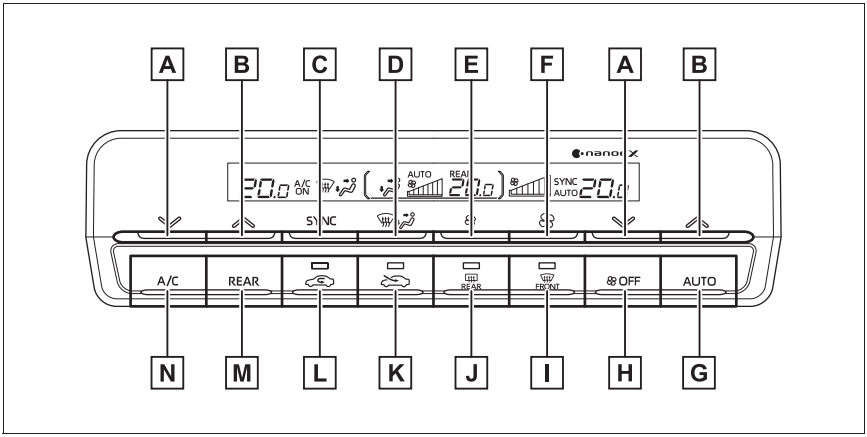
K ステアリングヒータースイッチ（→P.362）

L 内外気切りかえスイッチ

M REAR スイッチ（リヤエアコン操作モード）

N 冷房・除湿スイッチ

リヤオートエアコン装着車：



A 温度調整（下げる）スイッチ

B 温度調整（上げる）スイッチ

C SYNC スイッチ（各席連動モード）

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 風量減スイッチ

F 風量増スイッチ

G AUTO スイッチ（オート設定）

H OFF スイッチ

I フロントデフロスタースイッチ

J リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ★

K 外気導入スイッチ

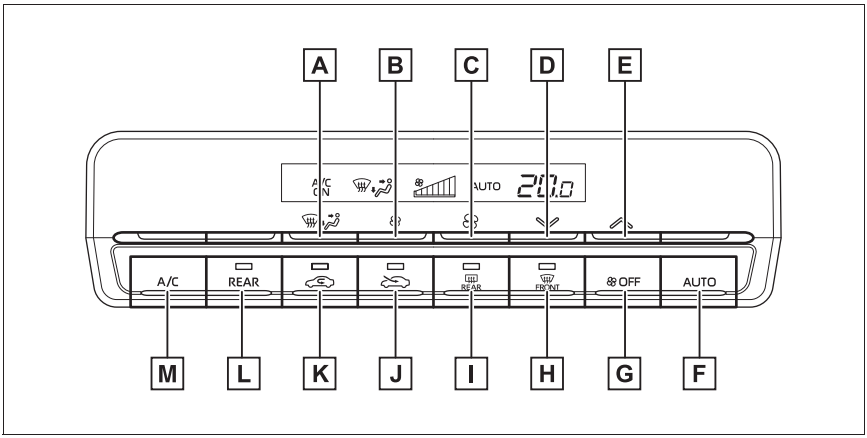
L 内気循環スイッチ

M REAR スイッチ（リヤエアコン操作モード）

N 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤクーラー装着車：



A 吹き出し口切りかえスイッチ

B 風量減スイッチ

C 風量増スイッチ

D 温度調整（下げる）スイッチ

E 温度調整（上げる）スイッチ

F AUTO スイッチ（オート設定）

G OFF スイッチ

H フロントデフロスタースイッチ

I リヤウインドウデフォッガースイッチ

J 外気導入スイッチ

K 内気循環スイッチ

L REAR スイッチ（リヤクーラーの作動／停止）

M 冷房・除湿スイッチ

■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは温度調整（下げる）スイッチを押す

冷房・除湿スイッチが押されていない場

合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

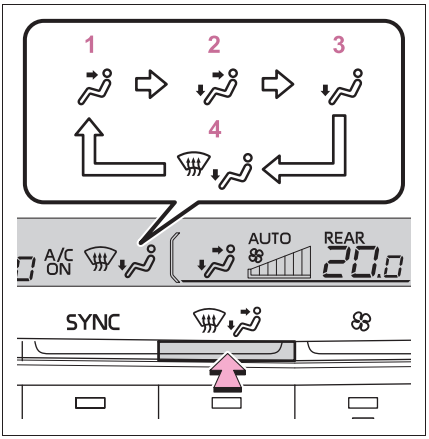
OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

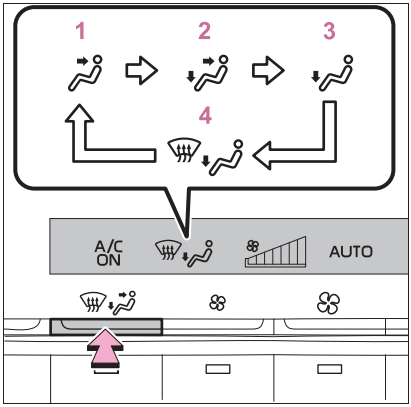
押すたびに次のように設定が切りかわります。

▶ リヤオートエアコン装着車：



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

▶ リヤクーラー装着車：



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

▶ ステアリングヒーター装着車

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

▶ ステアリングヒーター非装着車

● 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

● 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、作動表示用が点灯します

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ ※1 またはリヤウインドウデフォッガースイッチ ※2 を押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ ※1 またはリヤウインドウデフォッガースイッチ ※2 が ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1ミラーヒーター装着車

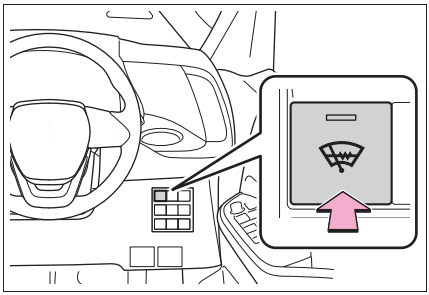
※2ミラーヒーター装着車以外

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房･除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ナノイー X★ ※1, 2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は運転席外側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。※3

●ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。

●ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。

次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風の時
・運転席外側の吹き出し口が開いている時

●ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 nanoe、ナノイー及び nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2 ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P.395

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.470）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

警告

■**リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★が作動しているとき**

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**フロントワイパーデアイサー★が作動しているとき**

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**ナノイー X 発生装置★について**

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。

修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**ナノイー X 発生装置★の損傷を防ぐために**

運転席外側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

オート設定が ON のとき、コントロールパネルの AUTO が点灯します。

2 フロント側温度調整スイッチで温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、コントロールパネルの AUTO が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

知識

■**オート設定の作動について**

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

各席の設定温度を別々に設定する（SYNC モード）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

- コントロールパネルの SYNC が点灯している時に、エアコン操作スイッチの SYNC スイッチを押す。
- 助手席または後席の温度調整スイッチで設定温度を変更する

独立モードになり、コントロールパネルの SYNC が消灯します。

コントロールパネルの SYNC が消灯しているときに SYNC スイッチを選択すると、作動表示灯が点灯して独立モードが OFF になり、各席の設定温度が運転席と同じ温度になります。

前席からリヤエアコンを操作する★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す

コントロールパネルに REAR が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわります。

再度エアコン操作スイッチの REAR スイッチを押すか、約 6 秒以上操作が行われなかったときは、リヤオートエアコン操作モードが解除されます。

● 設定温度をかえる

設定温度を上げるときは運転席側または助手席側の温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは運転席側または助手席側の温度調整（下げる）スイッチを押す

● 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

● 吹き出し口を切りかえる

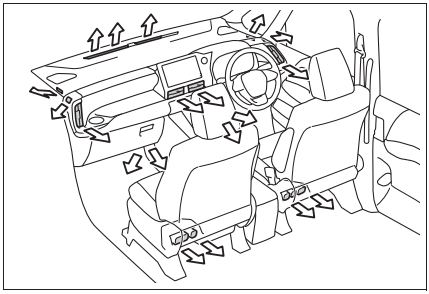
吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。（→P.357）

吹き出し口の配置・操作

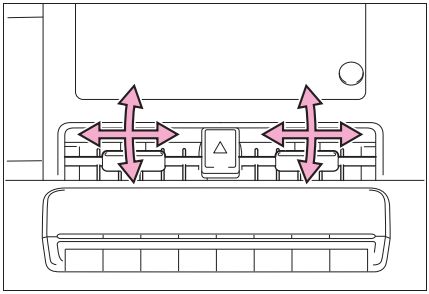
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



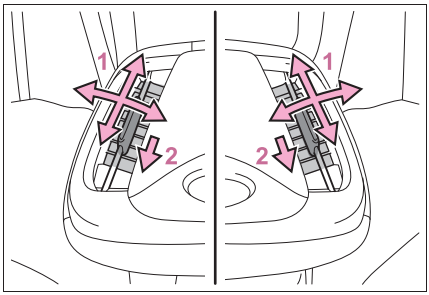
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



ノブを上下左右に動かしてください。

▶ 左右吹き出し口



1 風向きの調整

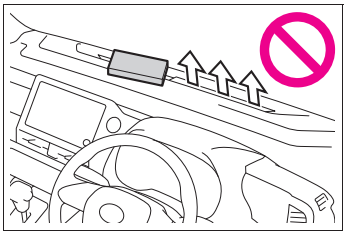
2 吹き出し口を閉じる

風向きを下側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

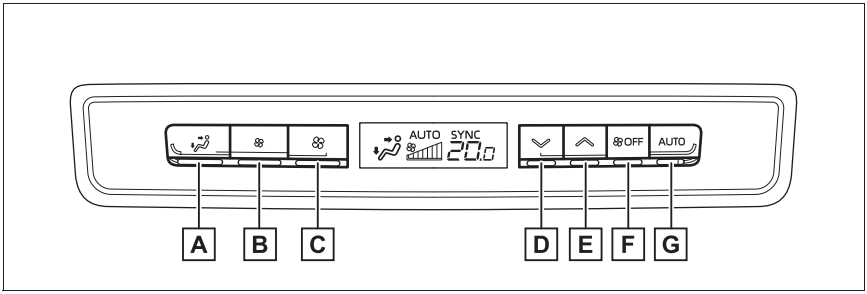


リヤオートエアコン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作スイッチについて



A 吹き出し口切りかえスイッチ

B 風量減スイッチ

C 風量増スイッチ

D 温度調整（下げる）スイッチ

E 温度調整（上げる）スイッチ

F OFF スイッチ

G AUTO スイッチ（オート設定）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは温度調整（下げる）スイッチを押す

■ 風量を切りかえる

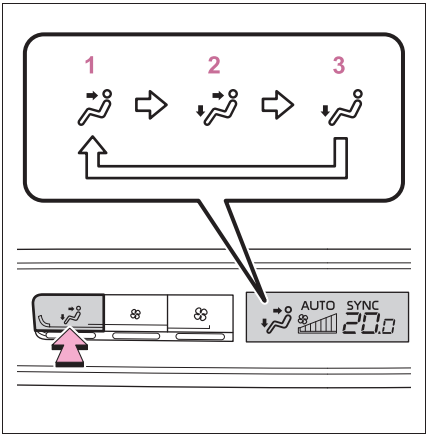
風量を増やすには風量増スイッチを、減らすには風量減スイッチを押す

送風を停止するときは、OFF スイッチを押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風

知識

■エアコンの臭いについて

●リヤエアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみになります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

2 温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の “AUTO” が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

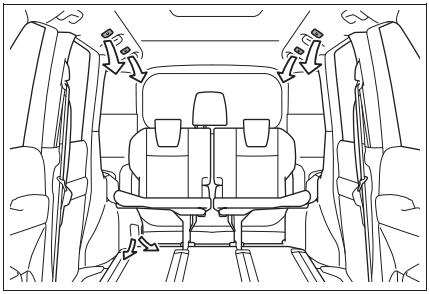
前席からリヤエアコンを操作する

→P.355

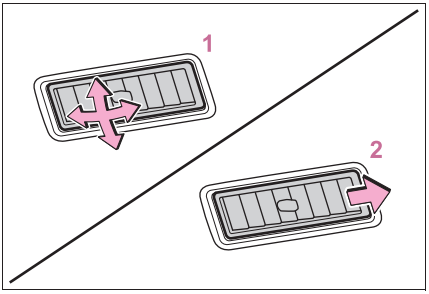
吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉（天井吹き出し口）



1 風向きの調整

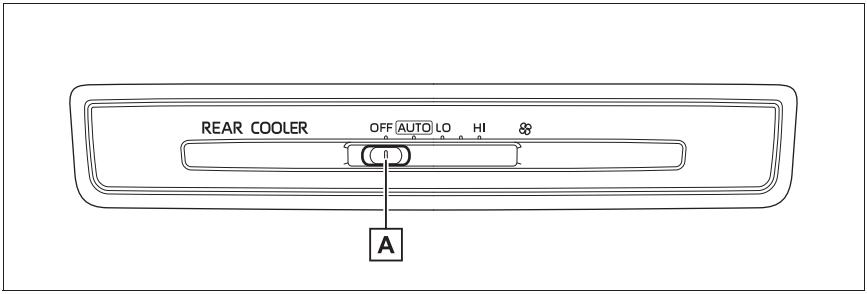
2 吹き出し口を閉じる

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

リヤクーラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤクーラー操作スイッチについて



A 風量切りかえツマミ

■ 風量を切りかえる

▶ 自動設定

1 フロントエアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON ／ OFF が切りかわります。

2 風量切りかえツマミを AUTO へ動かす

▶ 手動設定

1 フロントエアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON ／ OFF が切りかわります。

2 風量を増やすには風量切りかえツマミを右へ、風量を減らすには風量切りかえツマミを左へ動かす

風量は 3 段階に調整できます。

フロントエアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す、または風量切りかえツマミを OFF にすることでリヤクーラーの作動を停止できます。

知識

■クーラーの臭いについて

●リヤクーラー使用中に、車室内のさまざまな臭いがクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●クーラー始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはクーラー始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■AUTO 設定での風量について

AUTO でのリヤクーラーの風量は、フロントオートエアコンの設定温度によってかわります。

■リヤクーラーの作動条件について

フロントクーラーが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみになります。

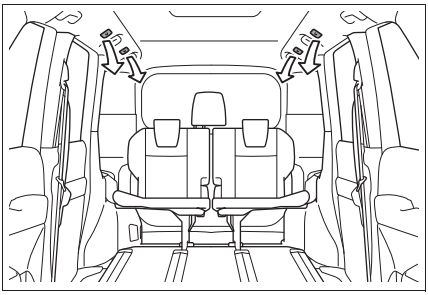
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

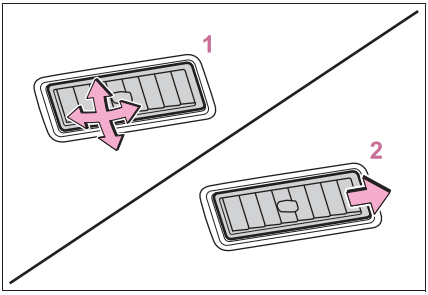
エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉（天井吹き出し口）



1 風向きの調整

2 吹き出し口を閉じる

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を温めることができます。

● フロントシートヒーター／リヤシートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■ステアリングヒーター／シートヒーターの損傷を防ぐために

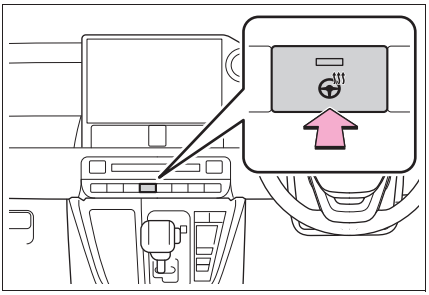
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切り替える



作動中は作動表示灯が点灯します。

知識

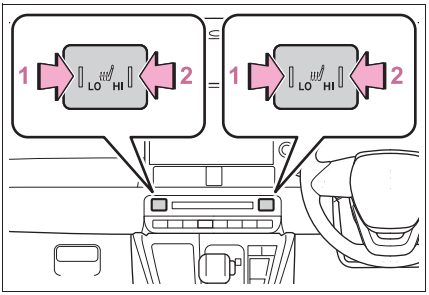
■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

シートヒーター

■ フロントシート

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 LO（弱）

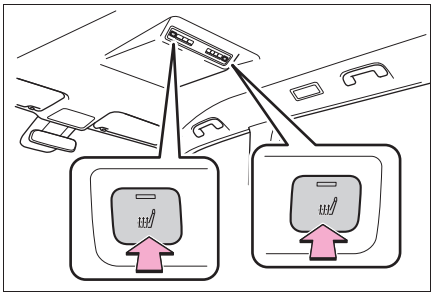
2 HI（強）

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

■ リヤシート（1 列目）

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、スイッチを軽く押してください。作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

警告

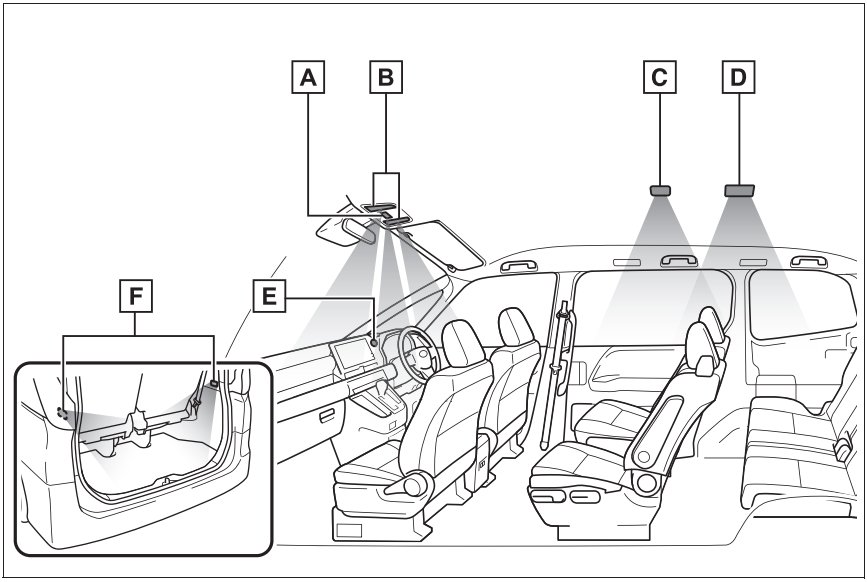
■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

室内灯一覧

室内灯の位置



A シフトレバー照明

B フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→P.364）

C シートテーブルダウンライト（7 人乗り車）

D リヤインテリアランプ

E エンジンスイッチ文字照明

F ラゲージルームランプ

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.470）

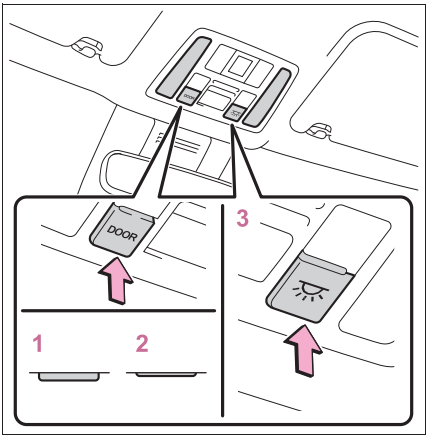
⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ



1 ドア連動を OFF にする

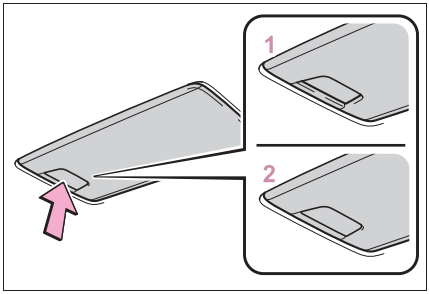
2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます

3 ランプを点灯／消灯する

リヤインテリアランプとラゲージルームランプが連動して点灯・消灯します。

■ リヤインテリアランプ



1 ランプを点灯する

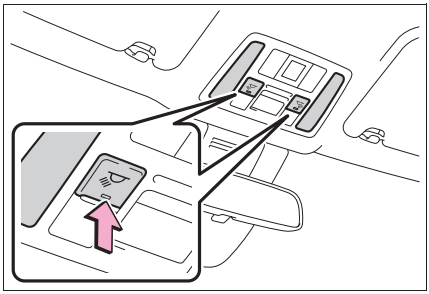
2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

フロントインテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。

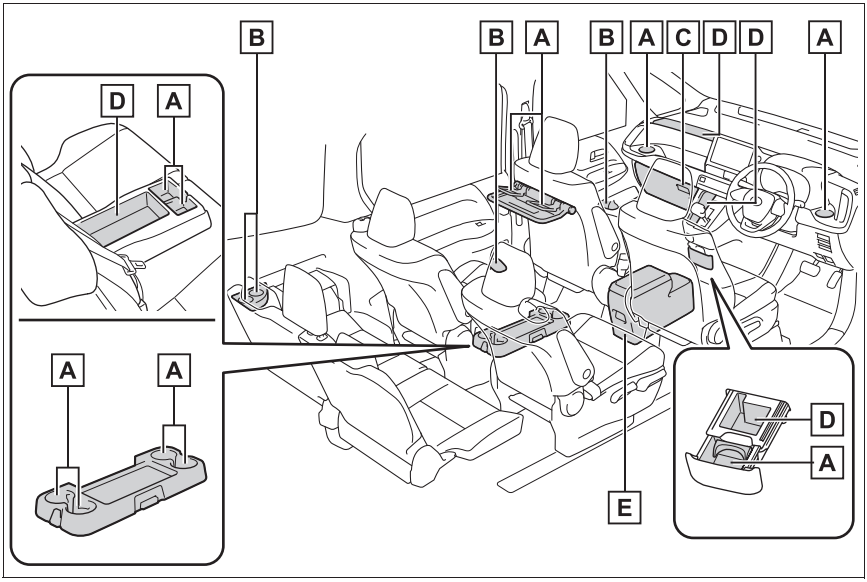
パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



収納装備一覧

収納装備の位置



A カップホルダー（→P.367）

B ボトルホルダー（→P.368）

C グローブボックス（→P.366）

D 小物入れ（→P.369）

E コンソールボックス（→P.366）

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

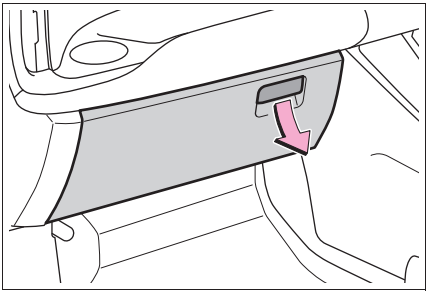
警告

■収納装備を使用しないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックス

レバーを引いて開ける



警告

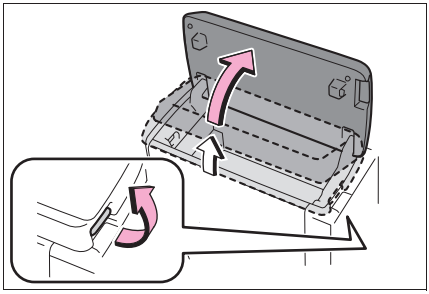
■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レバーを引いてロックを解除し、フタを持ち上げて開く



知識

■コンソールボックスを使用するときは

フタを開けるときは、上部のトレイに物がないことを確認して開けてください。

警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

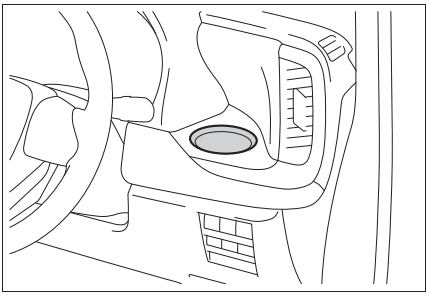
■コンソールボックスの損傷を防ぐために

過度の負荷をかけないでください

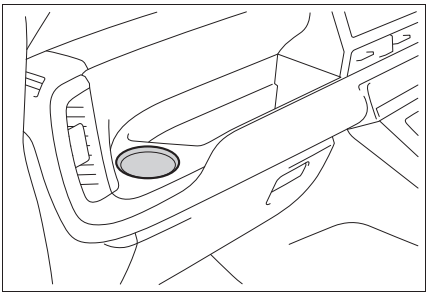
カップホルダー

■ フロントカップホルダー

▶ 運転席側



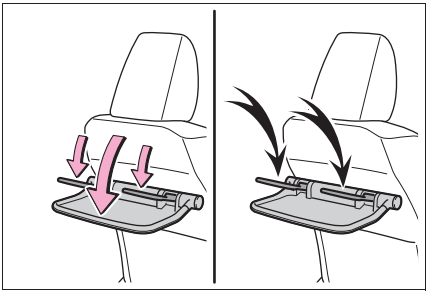
▶ 助手席側



■ セカンドカップホルダー

▶ シートバックテーブル★

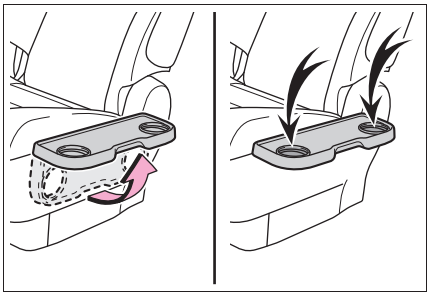
助手席の背面にあるシートバックテーブルを展開し（→P.376）カップホルダーを下ろす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ サイドテーブル★

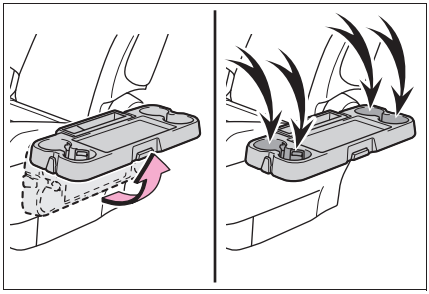
サイドテーブルを起こす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 大型サイドテーブル★

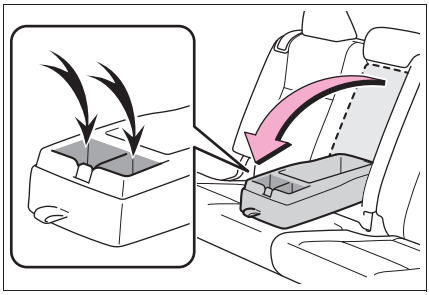
サイドテーブルを起こす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 格納式センターボックス★

ストラップを引いて格納式センターボックスを倒す



★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

警告

■収納してはいけないもの

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

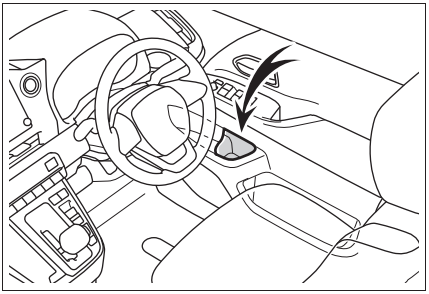
急ブレーキ※や事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

※走行中はシートバックテーブルのカップホルダーは使用しないでください。

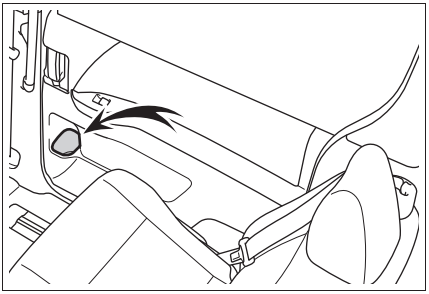
●シートバックテーブル・サイドテーブル・大型サイドテーブル（→P.376）の注意事項も併せてお読みください。

ボトルホルダー

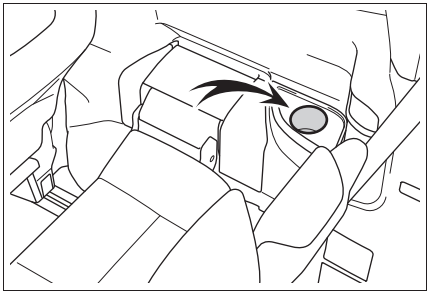
▶ フロントドア



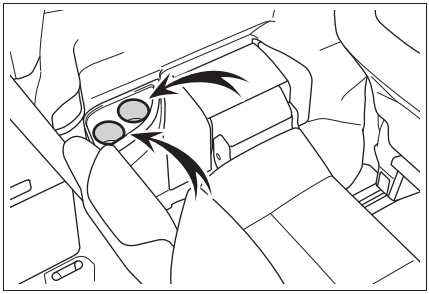
▶ スライドドア



▶ リヤクォータートリム右側



▶ リヤクォータートリム左側



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

注意

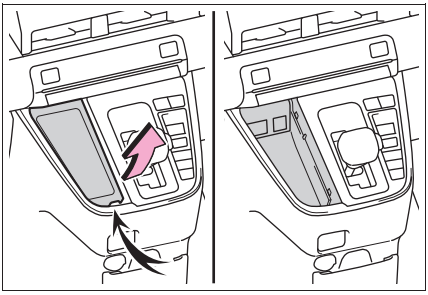
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

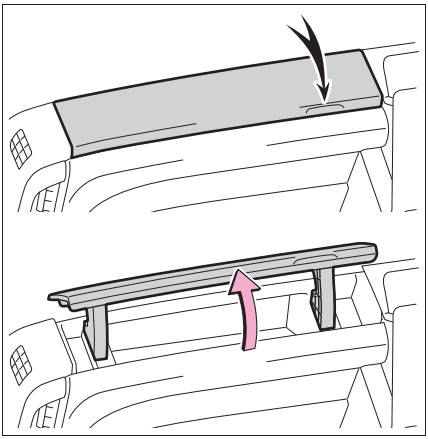
▶ センターパネル

切り欠き部をもってフタを持ち上げて開ける



▶ 助手席アッパーボックス

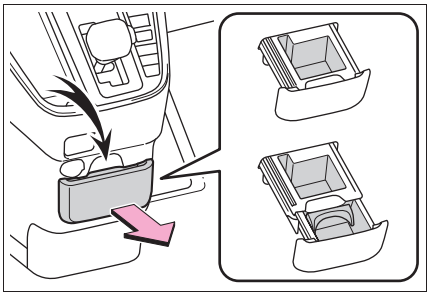
取っ手をもってフタを開ける



▶ センターマルチトレイ

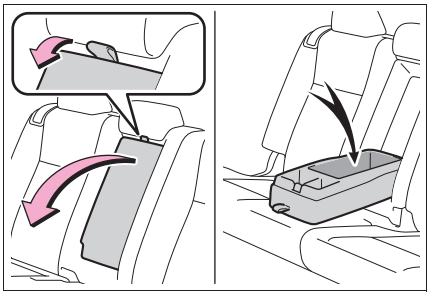
取っ手をもって小物入れを引き出す。

さらにカップホルダーを引き出す。



▶ 格納式センターボックス★

ストラップを引いて格納式センターボックスを倒す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■センターマルチトレイについて

カードをトレイの上部からはみ出さないようにしてください。

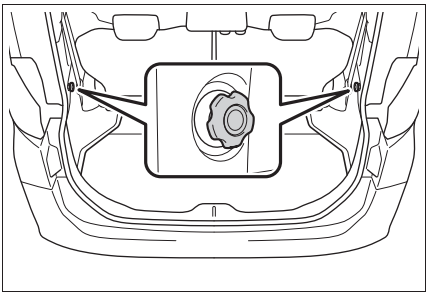
注意

■センターマルチトレイについて

小物入れに飲み物を入れないでください。

ラゲージルーム内装備

買い物フック

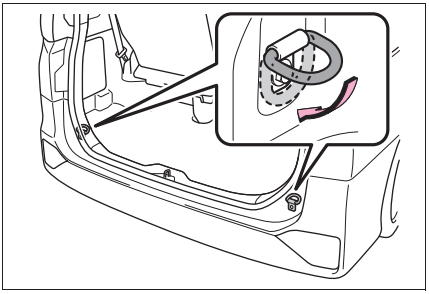


警告

■買い物フックの破損を防ぐために

2kg 以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

デッキフック



デッキフックを使って荷物を固定することができます。

警告

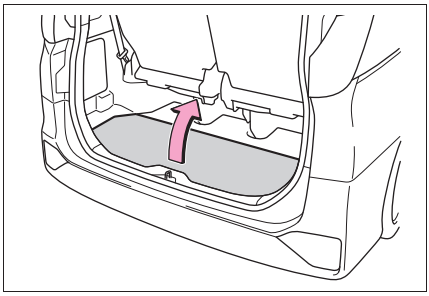
■デッキフックを使用しないときは

使用後は、デッキフックを必ずもとの位置に戻してください。

デッキボード

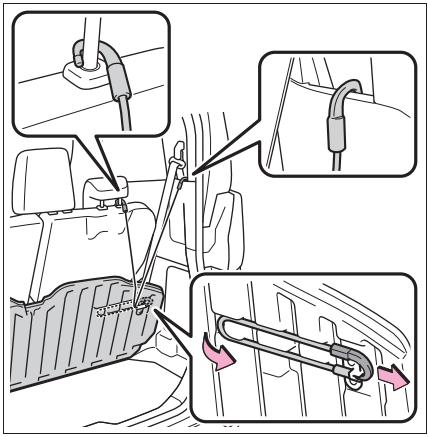
■ デッキボードの開け方

デッキボードを持ち上げる



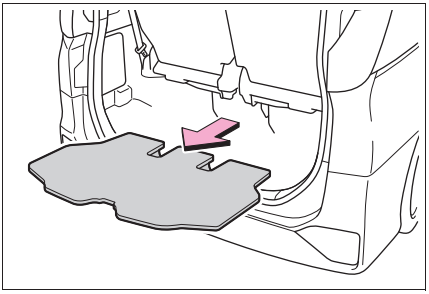
■ デッキボードを固定する

デッキボード裏からフックを取りはずし、図のようにデッキサイドまたはヘッドレストのステーにかける



■ デッキボードのはずし方

車両後方側を持ち上げて手前に引くことで、デッキボードを取りはずすことができます。



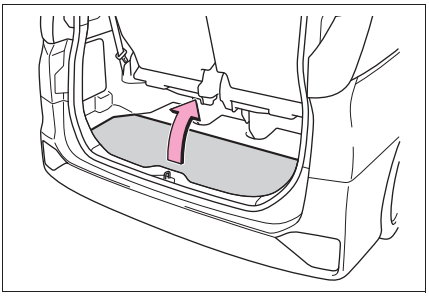
注意

■デッキボードの破損を防ぐために

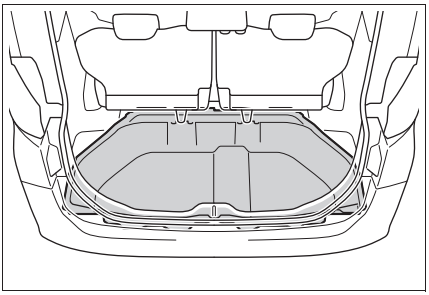
破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

ラゲージボックス

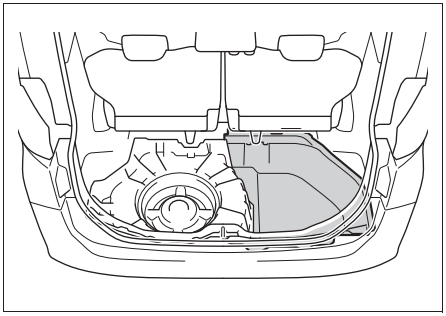
デッキボードを持ち上げる



▶ タイプ A



▶ タイプ B



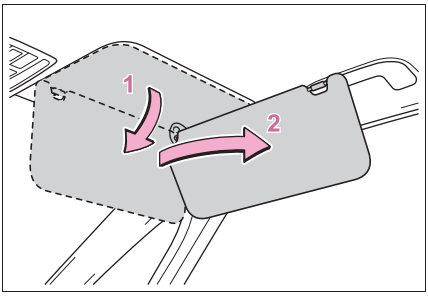
知識

■ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



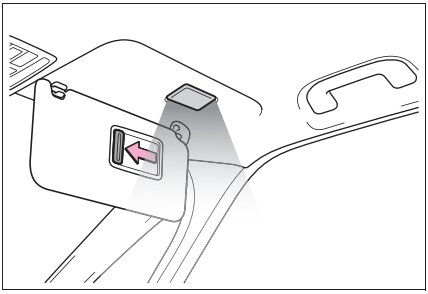
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

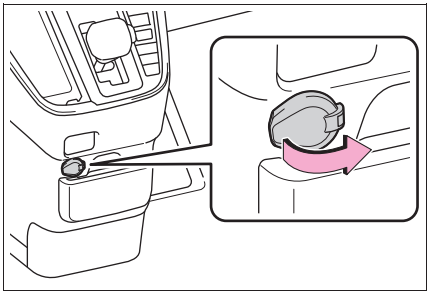
アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

■ インストルメントパネル

フタを開けて使用する



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

⚠注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

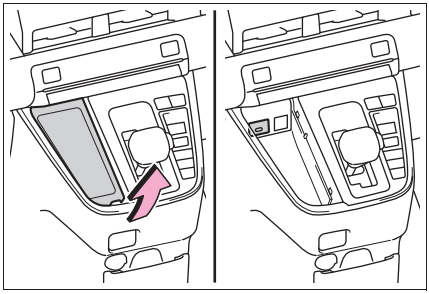
充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

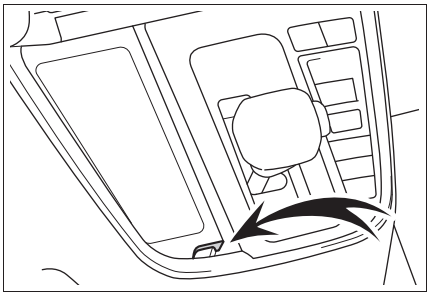
■ 充電用USB Type-C 端子を使用するには

▶ インストルメントパネル

フタを持ち上げて開ける

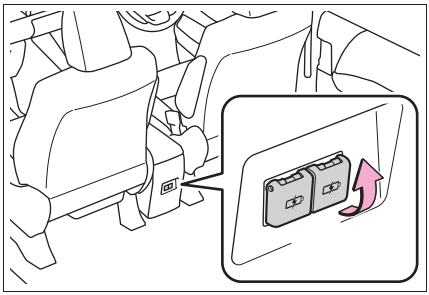


フタの溝に配線を通すことで、フタを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



▶ コンソールボックス後方★

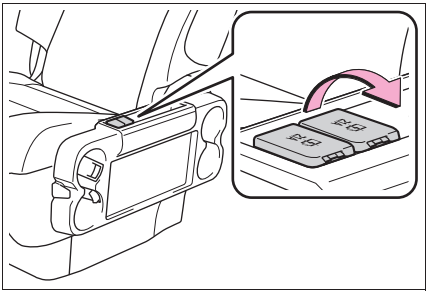
フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ サイドテーブル★

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

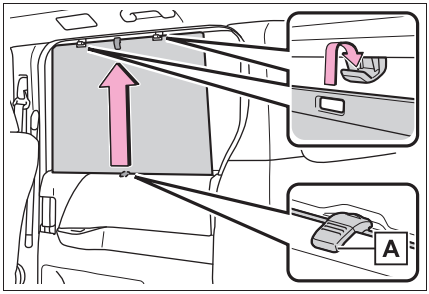
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

後席用サンシェードを使うには

ツマミ A をしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。



注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

●開閉のさまたげになる部分にものを置かない

●後席用サンシェードにものを貼らない

●後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない

●スライドドアが開閉しているときは、後席用サンシェードを操作しない

●収納するときに傾けた状態で収納しない
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■後席用サンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

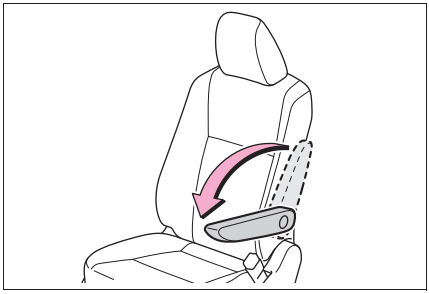
●フックが片方はずれた状態で使用しない
スライドドアを開閉するときに後席用サンシェードが破損するおそれがあります。

●フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
スクリーン部が破損するおそれがあります。

アームレストを使うには

■ フロントシート

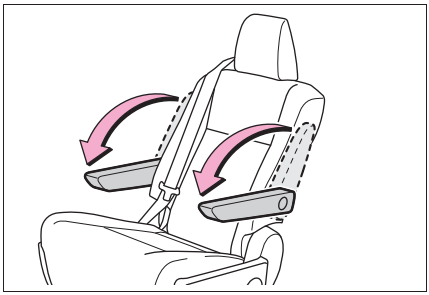
手前に倒して使用する



■ セカンドシート（キャプテン仕様車）

▶ 角度調整なし

手前に倒して使用する

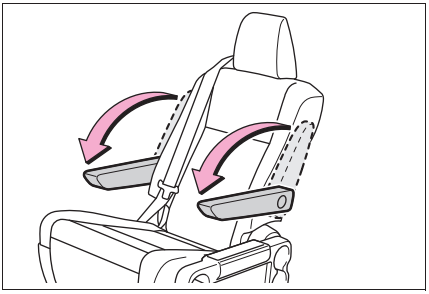


▶ 角度調整あり

アームレストの角度を調整するには、アームレストをいっぱいまで持ち上げてから、止まる位置まで下げます。その後、お好みの位置まで持ち上げると、その位置でアームレストが固定されます。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

下げたいときは、再度いっぱいまで持ち上げてください。



注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

折りたたみ式テーブル★を使うには

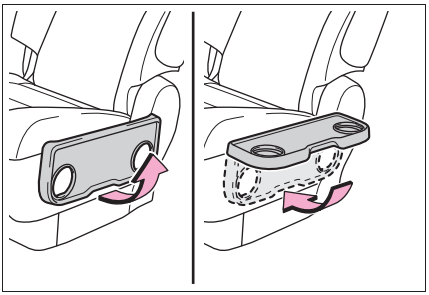
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ サイドテーブル

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルが固定されていることを確認してください。

格納するときは、テーブルが固定される位置まで確実に押し下げてください。（ロック解除ボタンはありません）

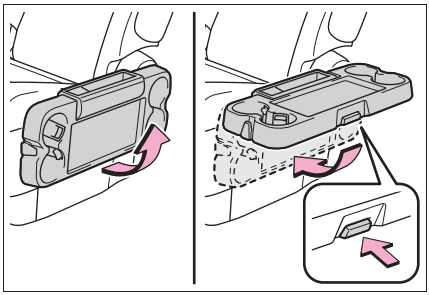


▶ 大型サイドテーブル

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルが固定されていることを確認してください。

格納するときは、ロック解除ボタンを押して、テーブルが固定される位置まで確実に押し下げてください。

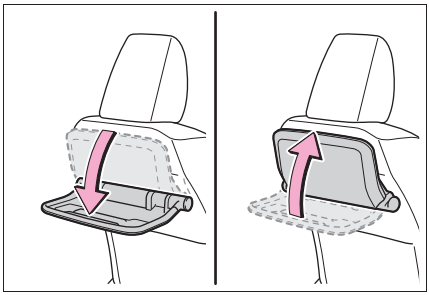


▶ シートバックテーブル

シートバックテーブルを手前に倒す

シートバックテーブルが固定されていることを確認してください。

格納するときは、カップホルダーをもとの位置にもどし、テーブルが固定される位置まで確実にもどしてください。（ロック解除ボタンはありません）



警告

■折りたたみ式テーブルについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●折りたたみ式テーブルを操作するときは、手を挟まないように注意してください。

警告

- 折りたたみ式テーブルにもたれかかったり、ひじや手をついたりしないでください。
- 折りたたみ式テーブルを使用または格納するときは、確実に固定されていることを確認してください。
- シートバックテーブル：走行中はテーブルを格納し、使用しないでください。
  急ブレーキや衝突時などに、テーブルに体があたったりして、けがをするおそれがあります。
- シートバックテーブル：テーブルを使用するときは、テーブル上・カップホルダーを含めて、合計 5kg 以上のものを置かないでください。
  テーブルが破損し、けがをするおそれがあります。
- シートバックテーブル：テーブルを使用中はフロントシートの調整をしないでください。
- シートバックテーブル：セカンドシートで子供専用シートを使用しているときは、テーブルを使用しないでください。
- サイドテーブル：サイドテーブルを使用するときは、テーブル上・カップホルダーを含めて、合計 3kg 以上のものを置かないでください。
  テーブルが急に格納されたり破損したりして、けがをするおそれがあります。

注意

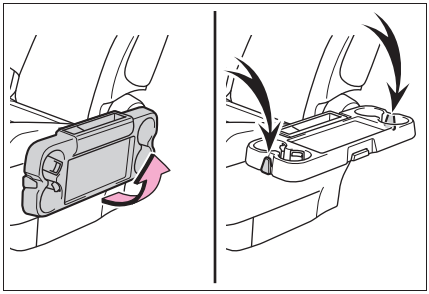
■折りたたみ式テーブルの損傷を防ぐために

重いものを載せないでください。

買い物フックを使うには

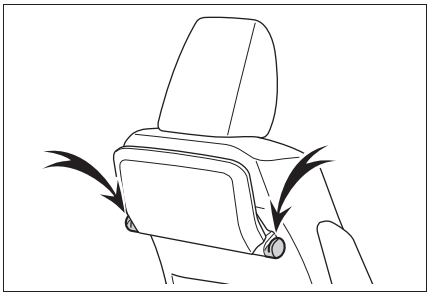
▶ タイプ A（大型サイドテーブル）★

サイドテーブルを引き起こす（→P.376）



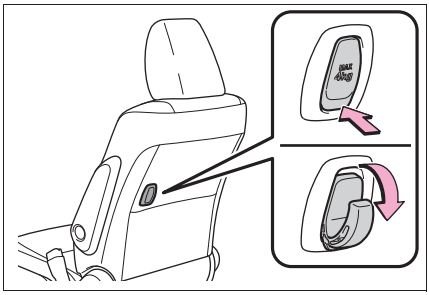
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ B（シートバックテーブル）★

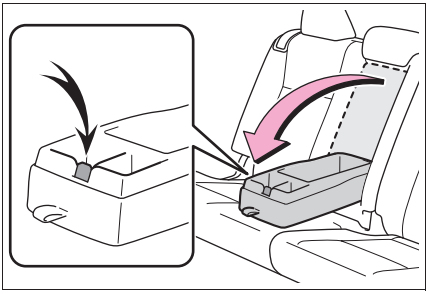


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ C（フロントシート後部）



▶ タイプ D（格納式センターボックス）



⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐために

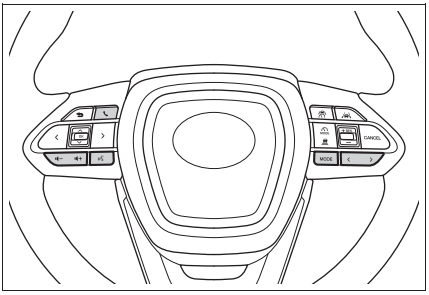
2kg（タイプ A）／ 4kg（タイプ B・タイプ C・タイプ D）以上のものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

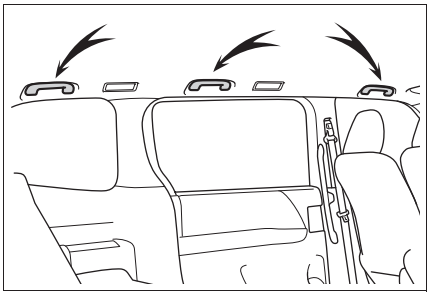
■運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アシストグリップを使うには

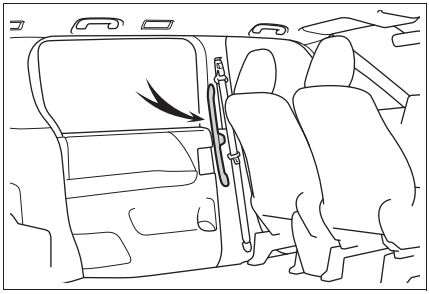
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式 タイプ A

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップをお使いください。

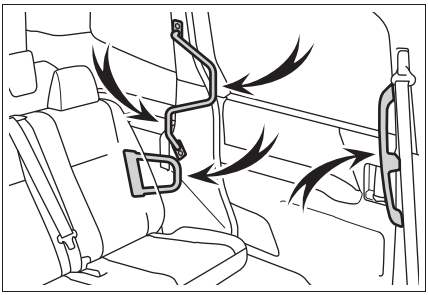


▶ 固定式 タイプ B★

乗降時などでは、ピラーやセカンドシートに取り付けられているアシストグリップをお使いください。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。



警告

■アシストグリップについて（回転式）

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 382
内装の手入れ 385

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 388
ガレージジャッキ 389
ウォッシャー液の補充..... 390
タイヤについて 391
タイヤ空気圧について..... 394
エアコンフィルターの交換..... 395
キーの電池交換 397
ヒューズの点検・交換 399
電球（バルブ）の交換..... 401

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
  - ・ドアミラーを格納する
  - ・パワースライドドアを停止する
  - ・パワーバックドア★を停止する

車両前側から洗車してください。走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗車機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意

してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.123）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパー上方の塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

⚠注意

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.36）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

注意

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.201）

■リヤウインドウガラス／クォーターウインドウの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパーUV カットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水

分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

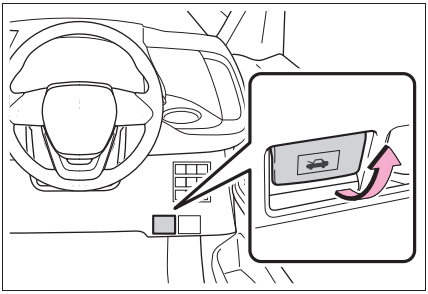
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

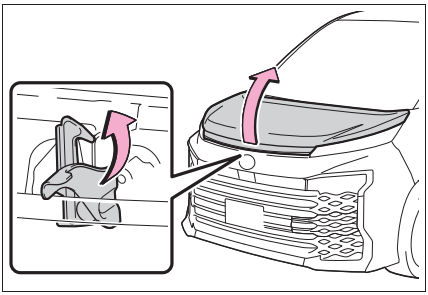
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

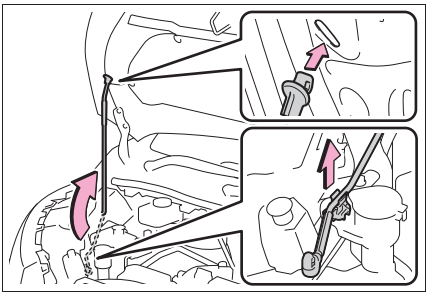
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

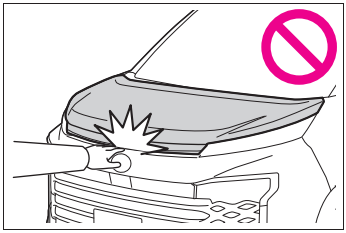
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

■ボンネットへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

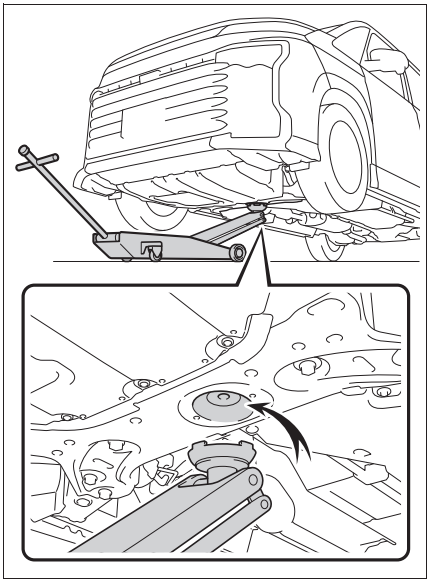
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

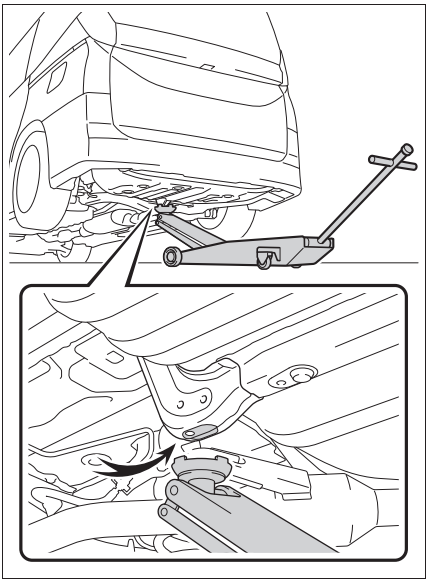
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）

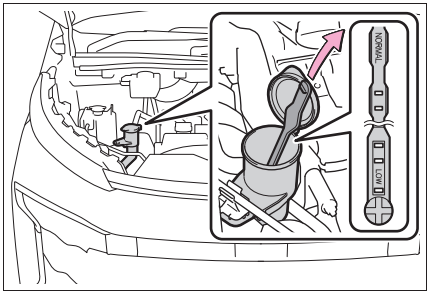


▶ 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充する

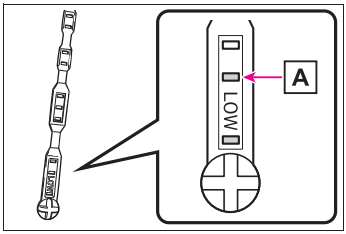


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

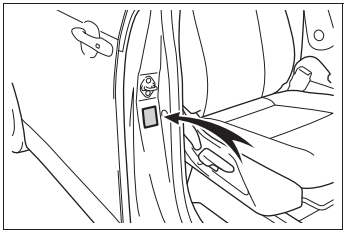
■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	前輪	後輪
205/60R16 92H	240kPa (2.4kg/cm^2)※	
205/55R17 91V		
応急用タイヤ★	420kPa (4.2kg/cm^2)※	

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレードオプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

●燃費の悪化

●乗り心地や操縦安定性の低下

●摩耗によるタイヤ寿命の低下

●安全性の低下

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

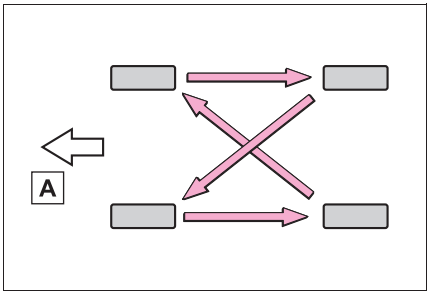
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

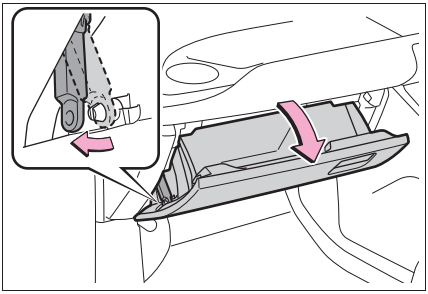
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

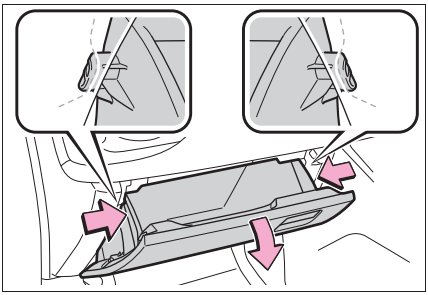
交換するには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

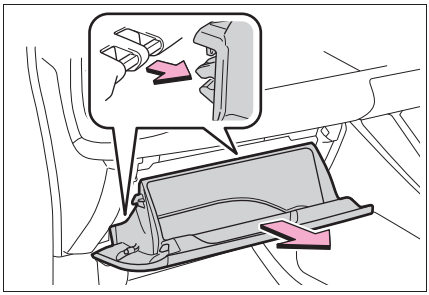


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる

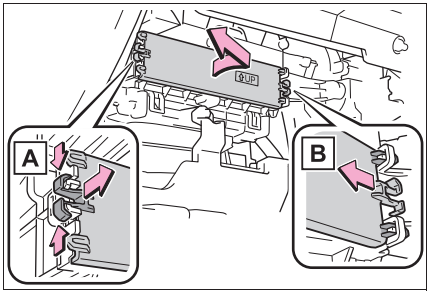


4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。

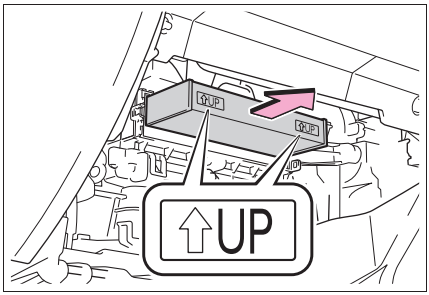


5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

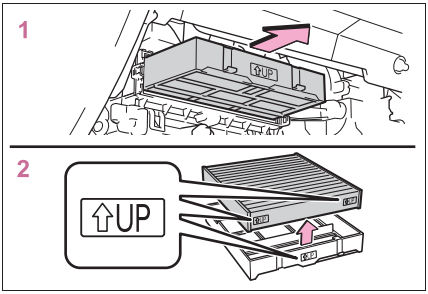
▶ 寒冷地仕様車を除く



フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧” マークの矢印が上を向くように取り付けます。

▶ 寒冷地仕様車



1 フィルターケースを取りはずす

2 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧” マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km※1] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

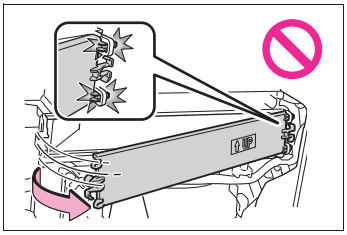
●フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすときに

必ず指定の手順（→P.395）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷すおそれがあります。



キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池

・CR2450

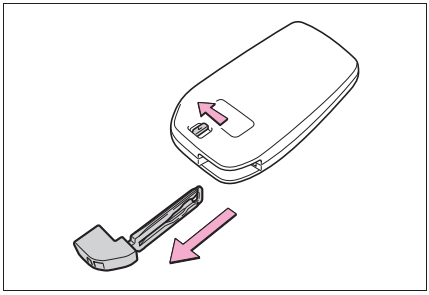
知識

■リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

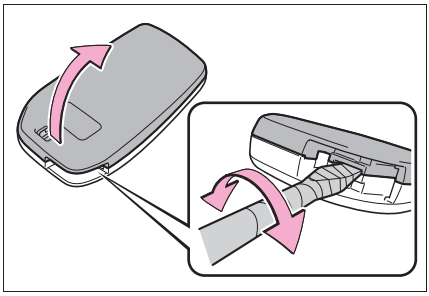
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



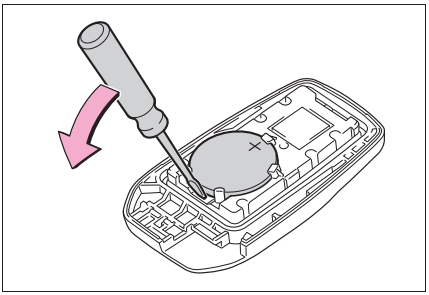
3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付け

ます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

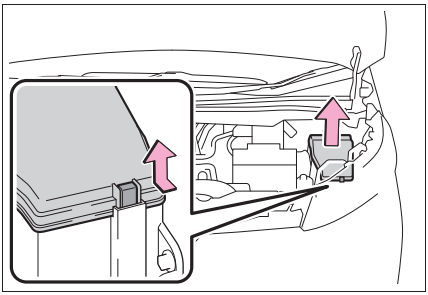
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを OFF にする

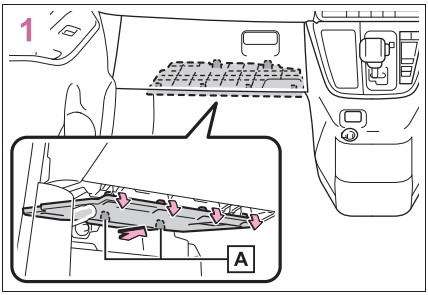
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

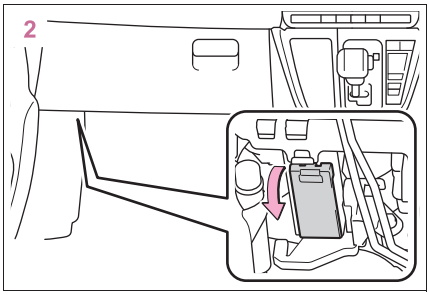


▶ 助手席足元



1 足元のカバーを取りはずす

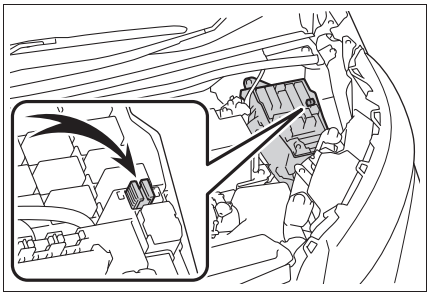
元に戻すときは 2 箇所のツメ（A）を しっかり取り付けてください。



2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

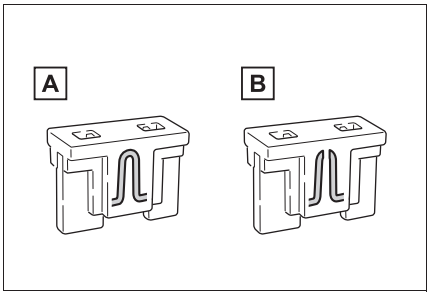
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P.401）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

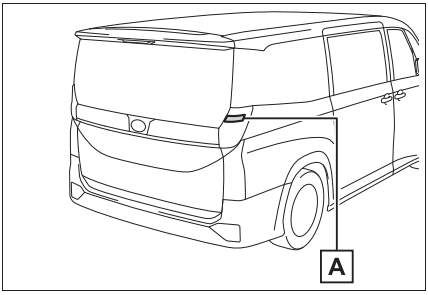
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.460）

電球の位置



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ **トヨタ販売店で交換が必要な電球**

次のランプが切れたときは、
トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- デイライト★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 薄暮灯★
- 制動灯
- 尾灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**LED ランプについて**

リヤ方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■**レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

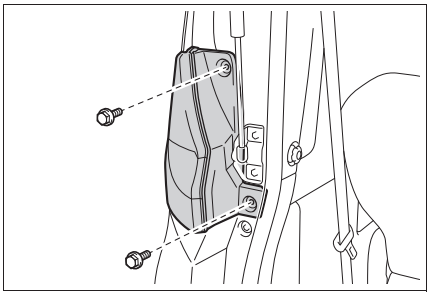
■**電球（バルブ）を交換するとき**

→P.400

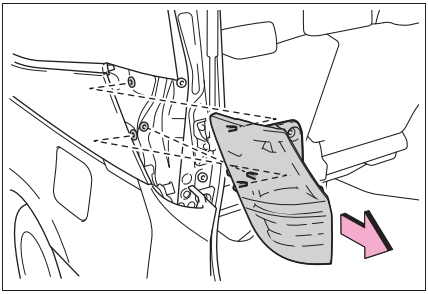
電球交換をするには

■ **リヤ方向指示灯／非常点滅灯**

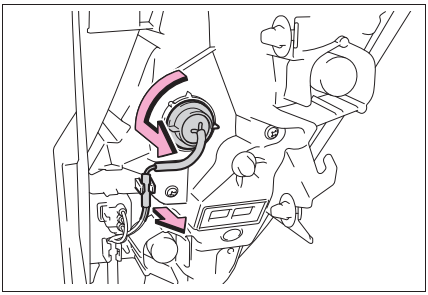
1 ネジを取りはずす



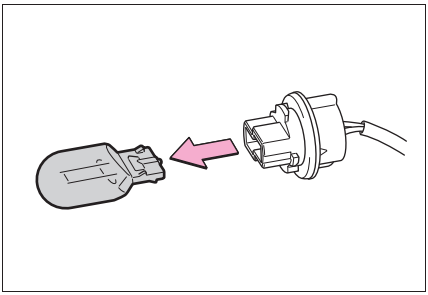
2 ランプ本体を取り外す



3 ハーネスを取りはずし、ソケットを左にまわして取りはずす



4 電球を取りはずす



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは 404
非常点滅灯（ハザードランプ）405
発炎筒..... 405
車両を緊急停止するには..... 406
水没・冠水したときは..... 407
車中泊が必要なときは..... 408

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 409
フューエルポンプシャットオフシステム 414
警告灯がついたときは..... 415
警告メッセージが表示されたときは 422
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 427
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 436
エンジンがかからないときは .. 443
キーをなくしたときは..... 445
電子キーが正常に働かないときは 445
バッテリーがあがったときは .. 448
オーバーヒートしたときは..... 451
スタックしたときは..... 453

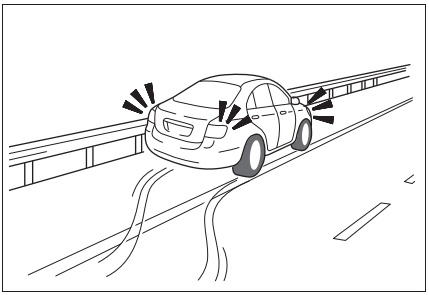
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.405）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

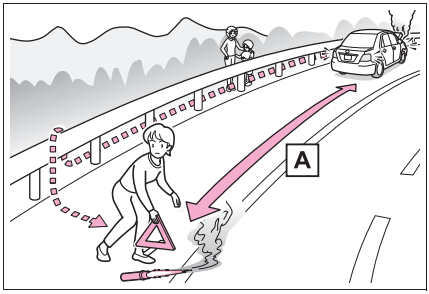
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.405）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

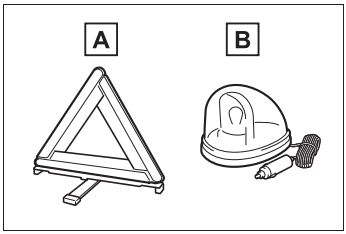
3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

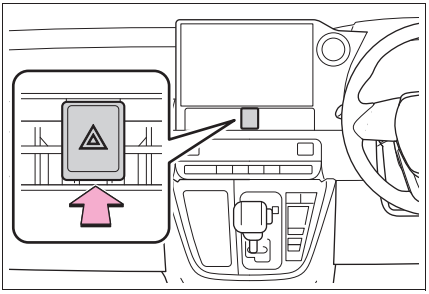
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

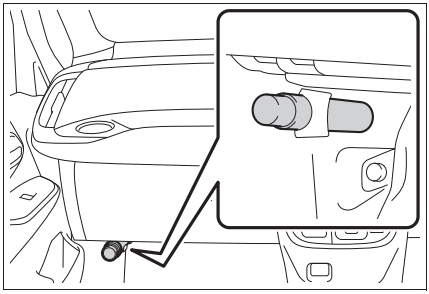
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

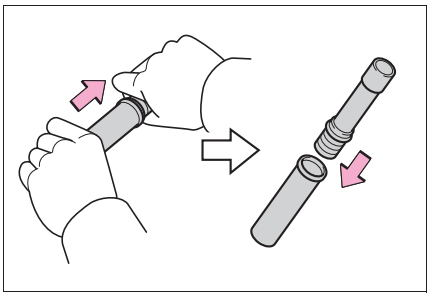
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



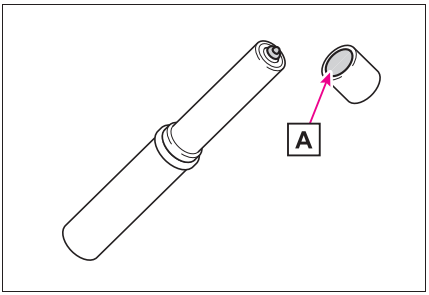
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

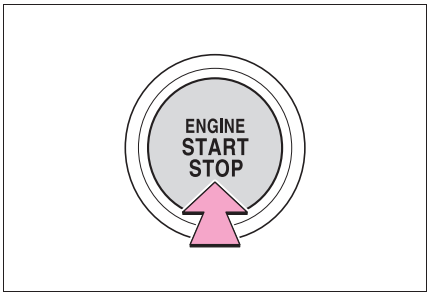
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■エンジンを再始動するには

走行時のエンジン緊急停止後にエンジンを再始動するには、シフトレバーをNにしてからエンジンスイッチを短く確実に押します。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。
https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

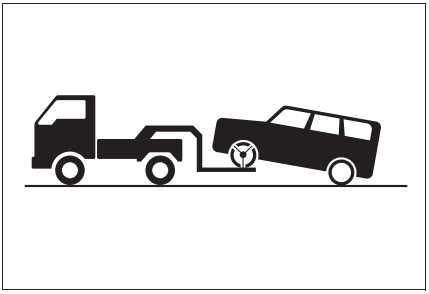
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するには

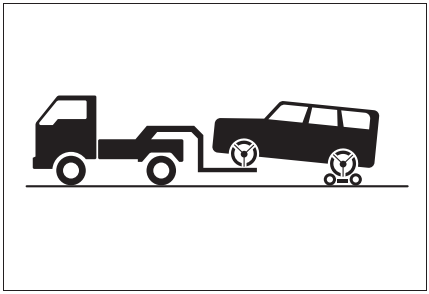
▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



パーキングブレーキを解除する

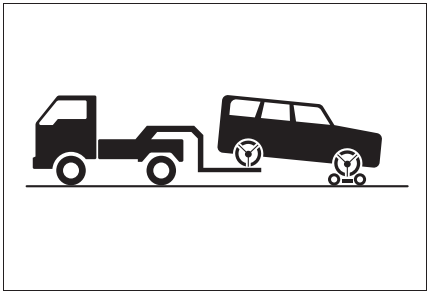
オートモードを OFF にしてください。（→P.178）

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

警告

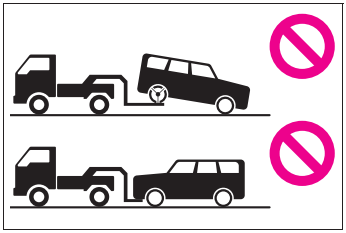
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■レッカー車でけん引するとき

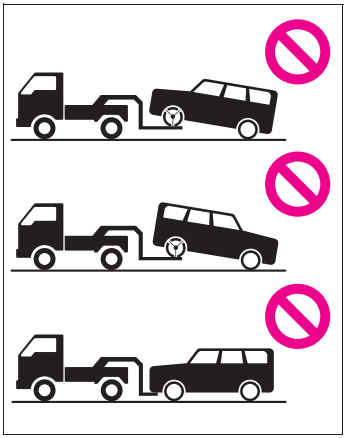
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶4WD 車

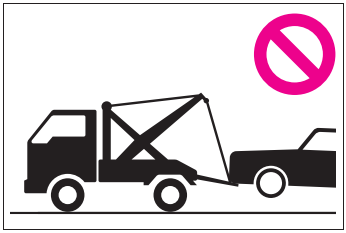
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



注意

■レッカー車でけん引するとき

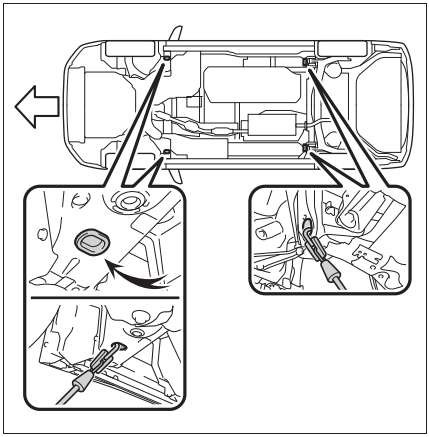
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



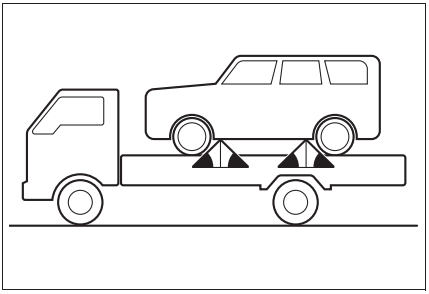
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

固縛用の穴にカバーが取り付けられている場合、輸送後はカバーをもとの位置に取り付けて、穴をふさいでください。



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する



⚠注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

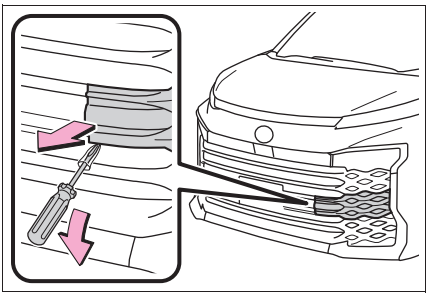
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

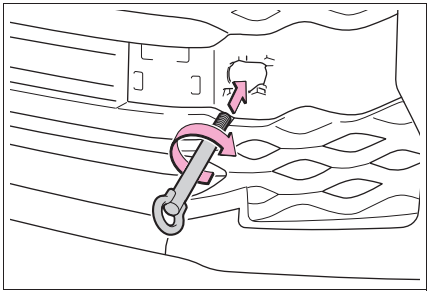
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.428, 437）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



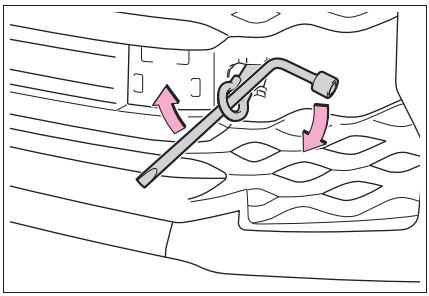
3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチ★※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができます。



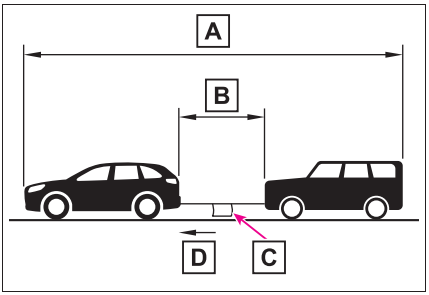
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.178）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→P.175

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチ★※について

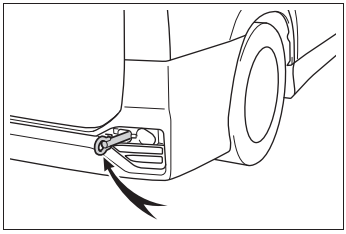
ラゲージルームに搭載されています。（→P.437）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



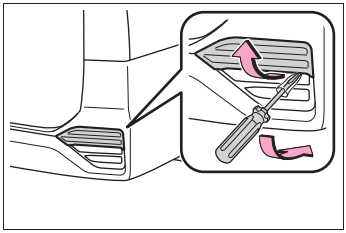
■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

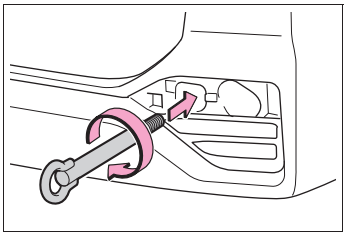
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.428, 437）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

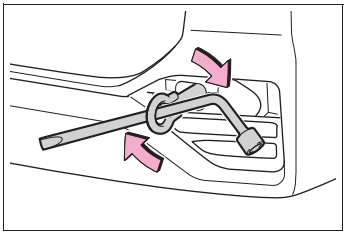
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.451）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

※ 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7.8 L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※2）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → **シートベルトを着用する**

※1マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ LDA 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LDA（レーンデパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ LTA 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ PDA 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	PDA(プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）★ ●BSM（ブラインドスポットモニター）★ ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ ●安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）★ **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.423）**

※ 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
P （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

●スライドドアを開閉すると約60秒間点灯します。

●いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、スライドドアを開閉すると約60秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■ABS警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABSまたはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.415）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ **“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは**

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ **“エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは**

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ **“バッテリー保護のため自動で電源をOFF しました” が表示されたときは**

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■ **“ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは**

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●オートマチックハイビーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能故障 販売店で点検” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）★
●AHS（アダプティブハイビームシステム）★
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知機能
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
●BSM（ブラインドスポットモニター）★
●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
●安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）★
●クリアランスソナー
●PKSB（パーキングサポートブレーキ）
●RCD（リヤカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止　取扱書を確認”が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）★
●AHS（アダプティブハイビームシステム）★
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知機能
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
●BSM（ブラインドスポットモニター）★
●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
●安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）★
●クリアランスソナー
●PKSB（パーキングサポートブレーキ）
●RCD（リヤカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。

・バッテリー電圧を確認する
・側方レーダの汚れや付着物を取り除く

センサーが正しく作動していないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方カメラ視界不良　取扱書を確認”が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）★
●AHS（アダプティブハイビームシステム）★
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知機能
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・ワイパー機能を使って、フロントウイ

ンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

・エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります

・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.203）

・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。

車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.203）

・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれのシステムが停止しています。

・RCD（リヤカメラディテクション）★

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” ★が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●ドライバーモニター

●アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

次の対処法に従ってください。

ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” ★が表示されたときは**

LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.224）

すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●レーダークルーズコントロール

●クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■“機能停止 ソナーに水滴，雪等が付着しています”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■“アクセルを戻してください”が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→P.166）

●プラスサポート★（→P.338）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●“エンジン冷却水高温”が表示されたときは、対処方法（→P.451）に従ってください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・“故障のためブレーキ力が低下します”

・“補機バッテリー充電システム異常”

・“エンジン油圧不足”

●“ドライバーモニター使用できません”★が表示されたときは、ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。レンズを傷つけないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.427）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

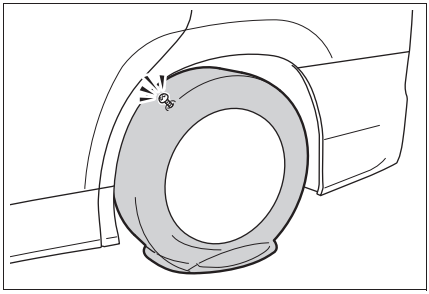
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.405）
- パワードアオフスイッチを ON にする（→P.108）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれ

ているとき

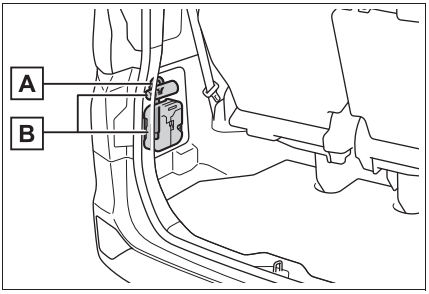
●タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしているとき

●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

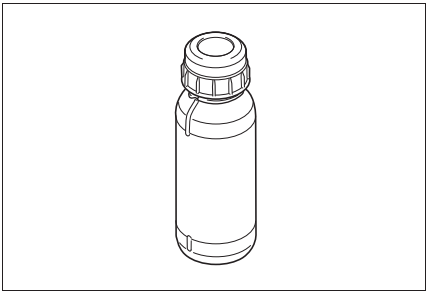


A けん引フック

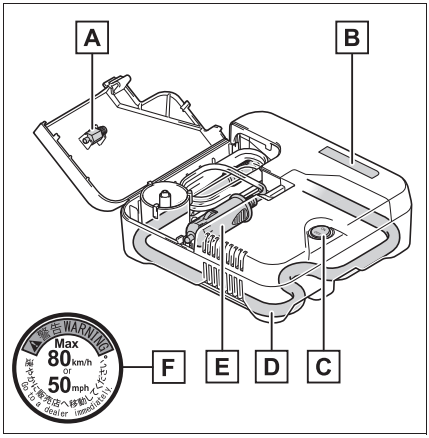
B タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



▶ コンプレッサー



A 空気逃がしキャップ

B 空気圧計

C 電源スイッチ

D ホース

E 電源プラグ

F 速度制限ラベル

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

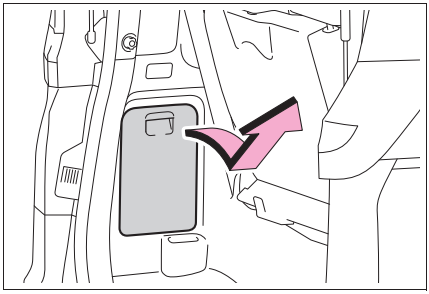
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

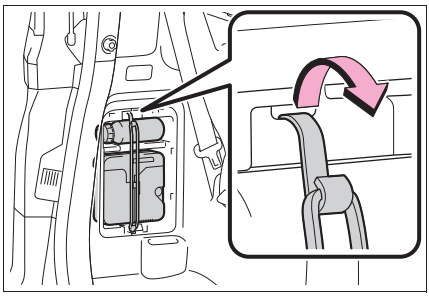
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 カバーを取りはずす

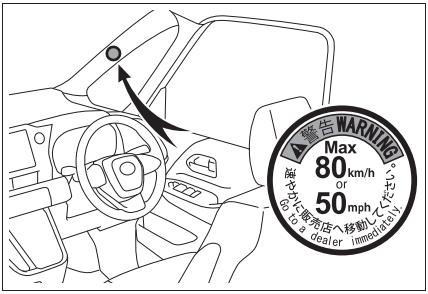


2 固定バンドのフックをはずし、応急修理キットを取り出す

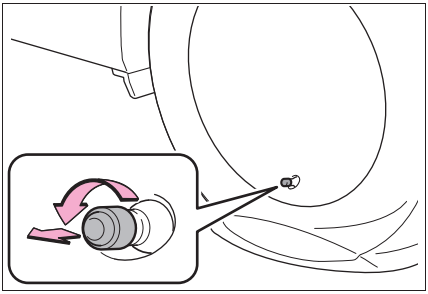


応急修理するときは

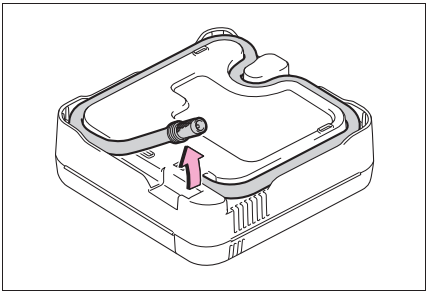
1 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

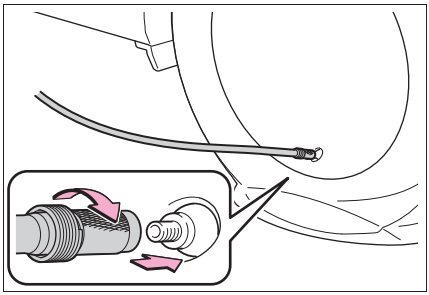


3 コンプレッサーからホースを取りはずす

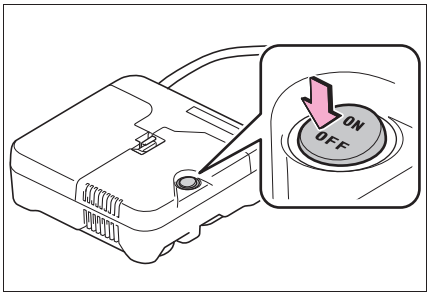


4 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

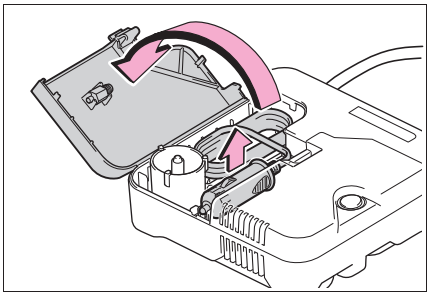
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



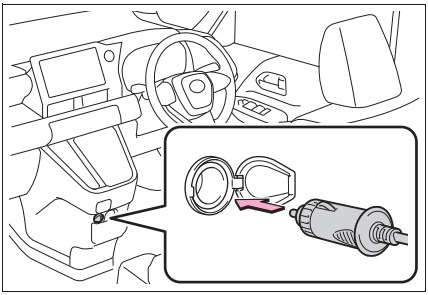
5 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



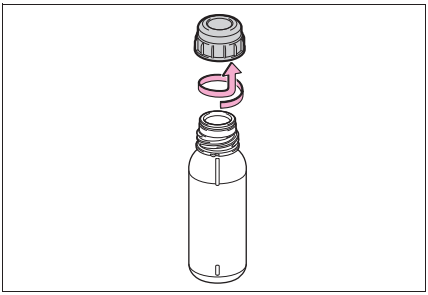
6 カバーを開けて、コンプレッサーから電源プラグを取りはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.372）

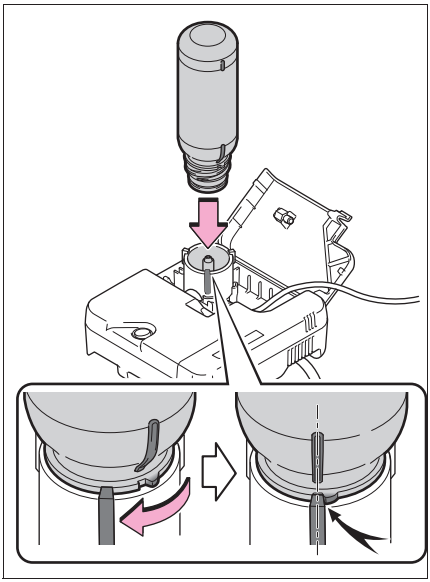


8 ボトルからキャップを取りはずす



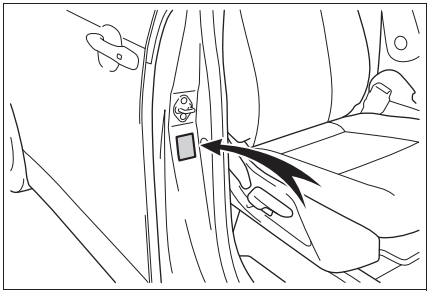
9 ボトルをコンプレッサーに接続する

時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



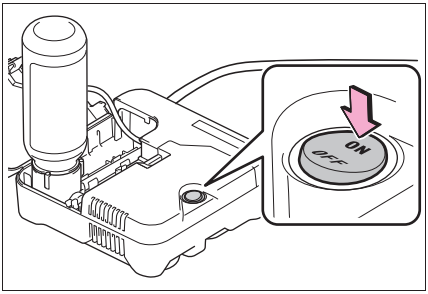
10タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.394）

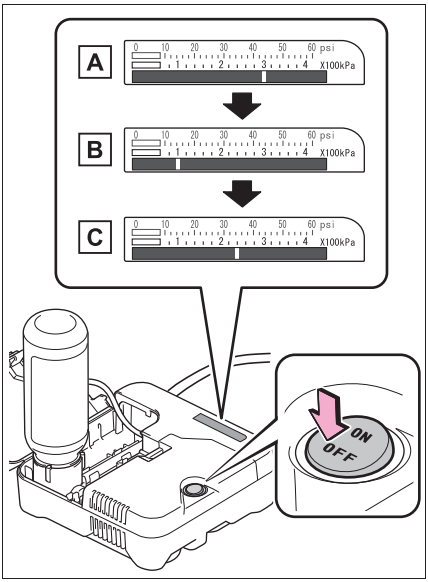


11エンジンを始動する（→P.169）

12 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



13 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチをONにしてから約1～5分程度で実際の空気圧になります。

C 指定空気圧になるまで充填する

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約5～20分です（外気温により異なります）。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P.434, 459）

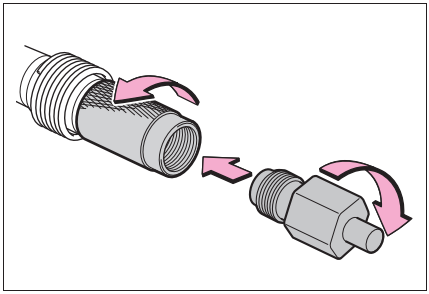
14 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

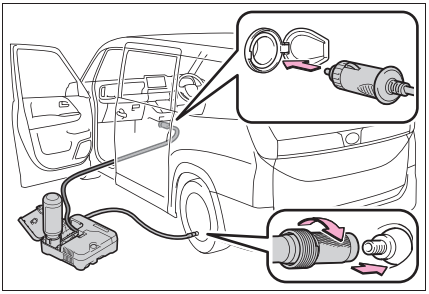


17いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

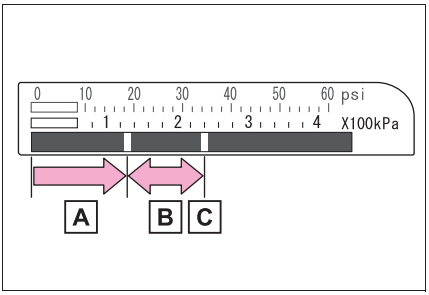
18タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

19走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



20コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

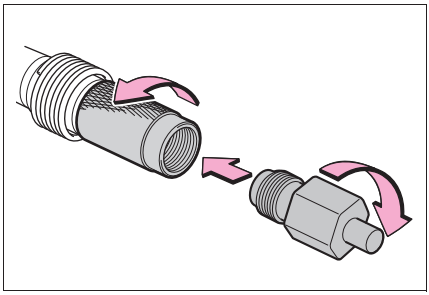
B 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**21**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.459）の場合：手順**22**へ

21コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**19**から実施する

22ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



23ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

24急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談く

ださい。

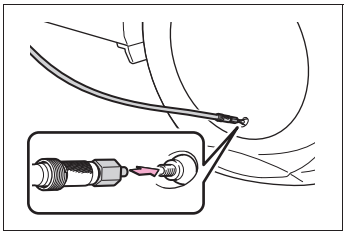
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.391 を参照してください）

警告

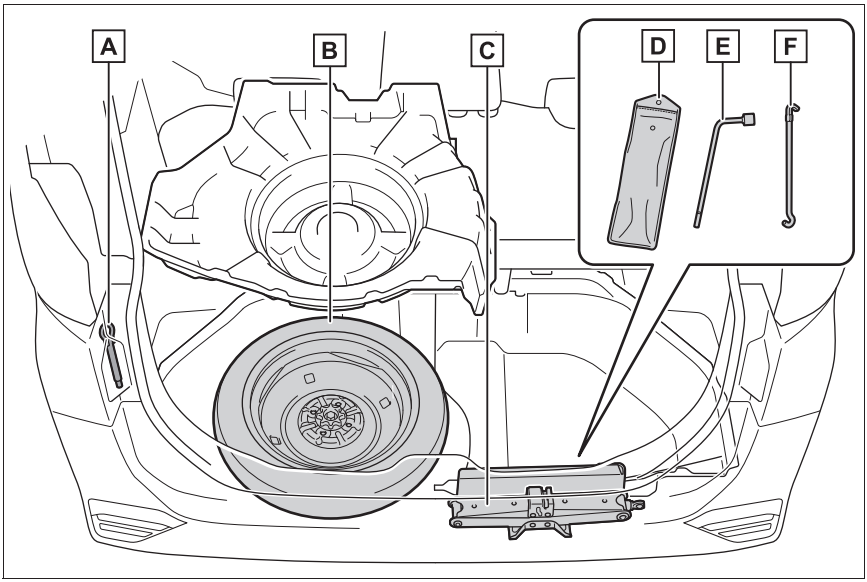
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.405）
- パワードアオフスイッチを ON にする（→P.108）

工具とジャッキの位置



A けん引フック

B 応急用タイヤ

C ジャッキ

D ツールバッグ

E ホイールナットレンチ

F ジャッキハンドル

警告

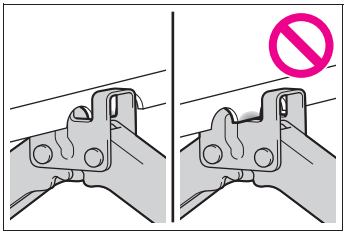
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキはお客様の車専用のため他の車に使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない

警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→P.439）

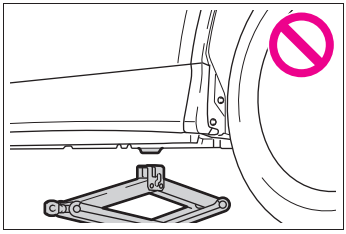


- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

注意

■ジャッキを使用するときに車体の損傷を防ぐために

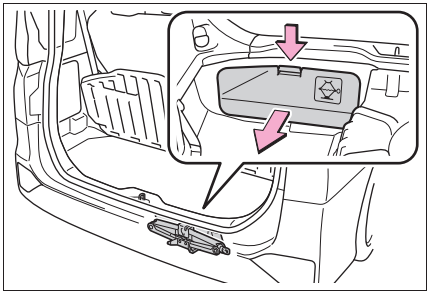
車両うしろ側のジャッキアップポイント付近にある金具（図で示す位置）にジャッキをかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。



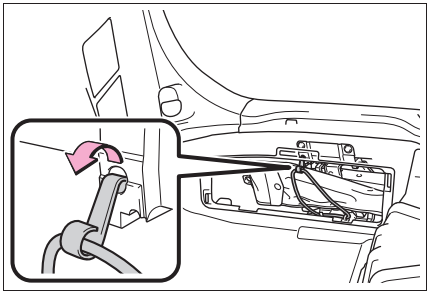
ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを持ち上げる（→P.370）

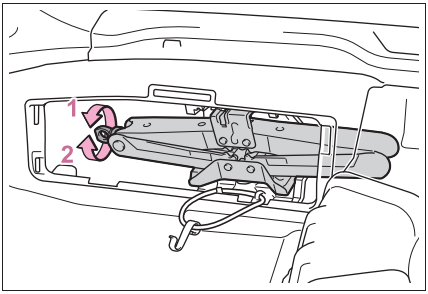
2 カバーをはずす



3 固定バンドのフックをはずし、ツールバッグを取り出す



4 ジャッキをゆるめて取りはずす

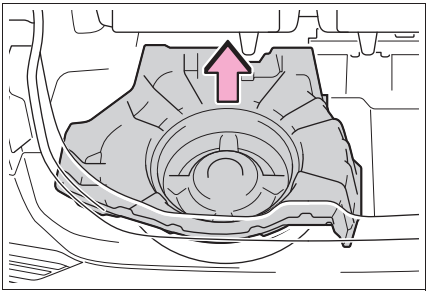


1 締まる
2 ゆるむ

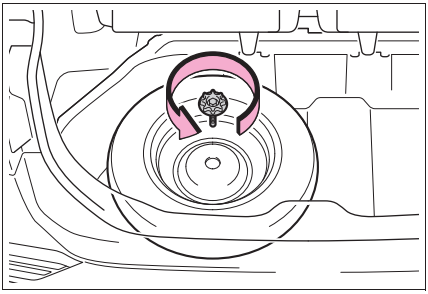
応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを持ち上げる（→P.370）

2 タイヤカバーを取りはずす



3 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



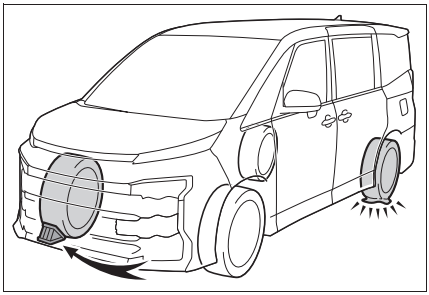
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

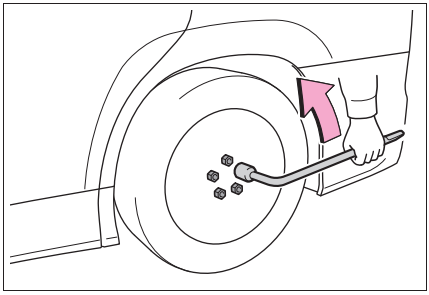
1 輪止め※をする



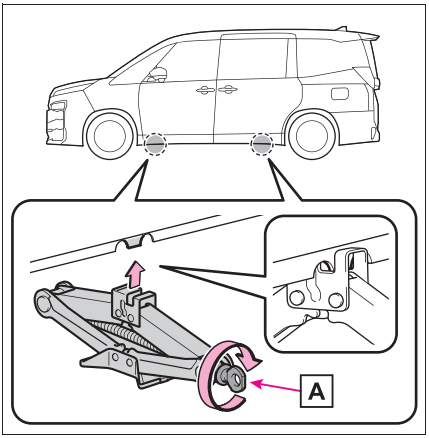
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

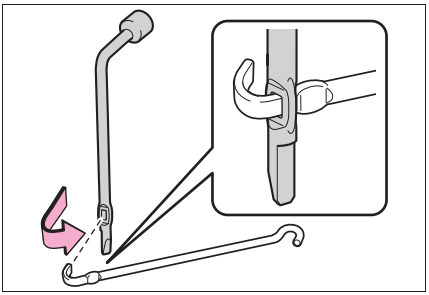
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



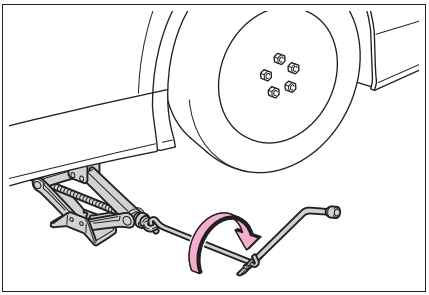
3 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキの A 部を手でまわす



4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

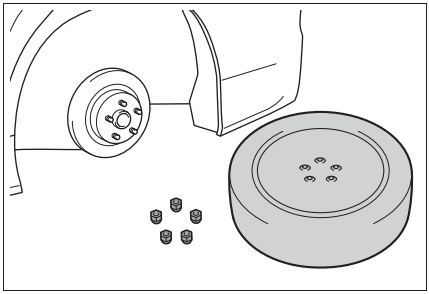


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

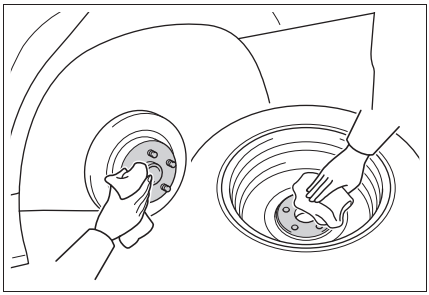
警告

- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。
- パワーバックドア非装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→P.108）を ON にしてください。ON にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- パワーバックドア装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→P.108）を ON にしてください。ON にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ／パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア／バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤの取り付け

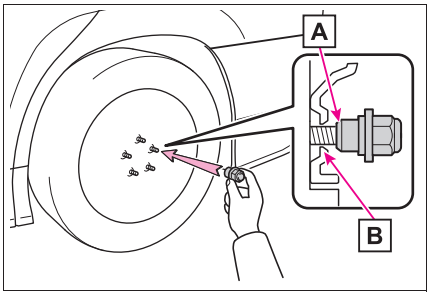
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

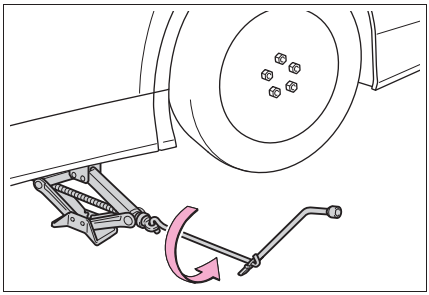


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部 A がホイールのシート部 B に軽くあたるまでまわす



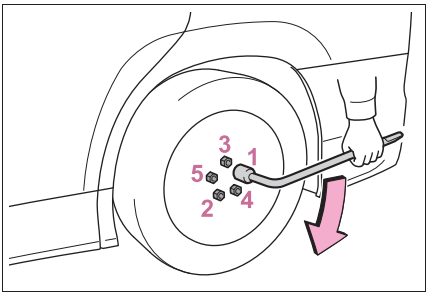
3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m

（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■**応急用タイヤについて**

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P.459）

■**応急用タイヤを装着しているとき**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■**雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき**

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■**応急用タイヤを使用するとき**

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・AHB（オートマチックハイビーム）★
・AHS（アダプティブハイビームシステム）★
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・クリアランスソナー

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.169）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P.169）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.60）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.448）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.444）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.448）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.177）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジンスイッチを ACC※1 にする※2

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。（マルチメディアシステム装着車）（→P.462）

※2 ACC がない場合は、エンジンスイッチを ON にしたあとにエンジンスイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.123）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.461）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.123）

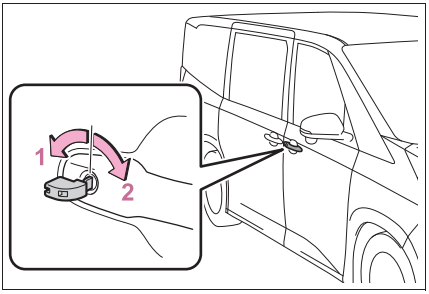
注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

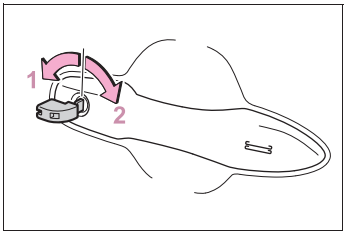
メカニカルキー（→P.90）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

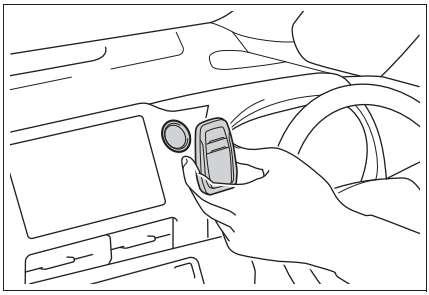
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを始動するには

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む
2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに と メッセージが表示されていることを確認する
4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.397）

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.171）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

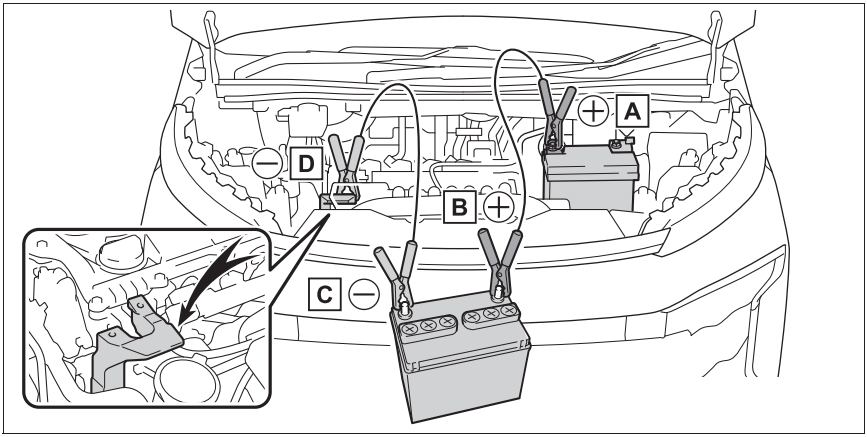
エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける（→P.388）

2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子Aにつなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子Bにつなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子Cにつなぎ、もう一方の端を金属部Dにつなぐ。

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

●ACC カスタマイズが OFF のときは、エンジンスイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源を OFF にしてください。詳しくは別冊「マルチメディアシステム取扱説明書」を参照してください。

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.472）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作でエンジンを始動できなかった場合は、電子キーが正常に働かないときの手順（→P.445）で、始動操作を行ってください。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等

（360A）以上のバッテリーを使用してください。
・ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーの－端子について

ボデーに接続されたバッテリーの－端子をはずさないでください。誤ってはずすと＋端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.66, 69）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

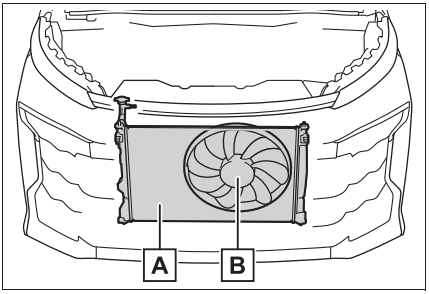
対処するには

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）

やホースなどからの冷却水もれを点検する

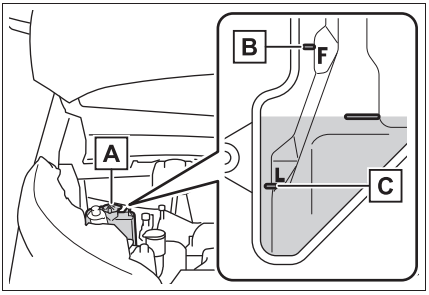


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



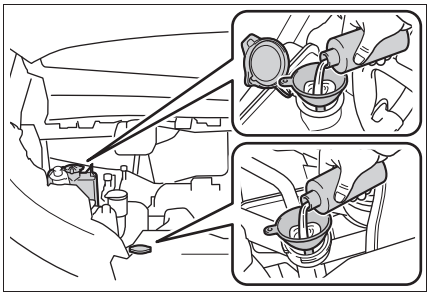
A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

● エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

警告

- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

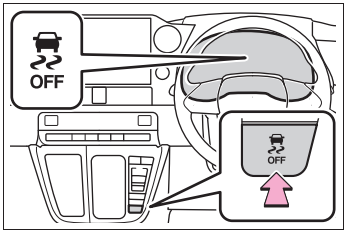
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF を押して TRC を OFF にしてください。



マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 456

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 461

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 472

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	52

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9	4.2

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

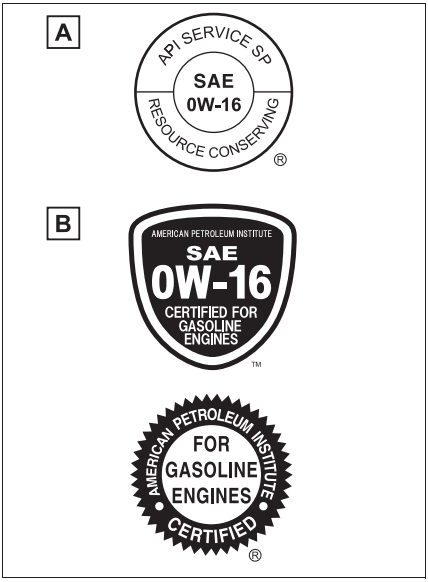
■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

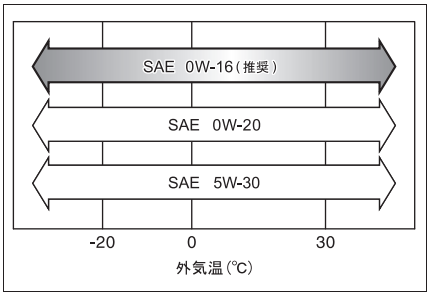


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	6.4※1 7.4※2

※1リヤオートエアコン非装着車

※2リヤオートエアコン装着車

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード FE	8.5

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■CVT フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE 75W-85）	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE 75W-85）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	113

※ エンジン回転時に、300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.63, 415 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92H	16 × 6 J	240 (2.4)	240 (2.4)
	205/55R17 91V	17 × 6 J	240 (2.4)	240 (2.4)
応急用タイヤ★	T135/80D16 101M	16 × 4 T	420 (4.2)	
	T125/70D17 98M	17 × 4 T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m（kgf・cm）]	
標準タイヤ	103N・m（1050kgf・cm）
応急用タイヤ	

電球（バルブ）※1

	電球	W（ワット）数
車外	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ※2）	21

※1表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
ヴォクシー	MZRA90W	M20A-FKS（2.0 L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	MZRA95W		4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ **マルチメディア画面で設定するには**

1 メインメニューの⚙をタッチし、“車両カスタマイズ”を選択する

2 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

3 機能の作動内容を選択する

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して変更する項目を選択する

3 ON／OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる

4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、⮌スイッチを押します。

知識

■**カスタマイズ設定を行うとき**

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■**カスタマイズ設定を行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**カスタマイズ設定を行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディア画面の画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.66, 69, 73）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
メーター表示 ※2	アナログ	デジタル	—	○	—
エコドライブインジケーターランプ	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
デジタル車速 ※3	ON	OFF	—	○	—
燃費グラフ	リセット後平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
		給油後平均燃費			
オーディオシステム連携表示	あり	なし	—	○	—
4WD（トルク配分表示）★	表示	非表示	—	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目（1 行目）	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目（2 行目）	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離			
割込表示	あり	なし	—	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	—	○
		なし			

※1 機能についての詳しい説明は P.78 を参照してください。

※2 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ

※3 4.2 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.80）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	—	○	—
タコメーター切りかえ	タコメーター	エコドライブインジケーター	—	○	—
		表示なし			
オーディオシステム表示	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示	あり	なし			
ナビゲーション表示★	あり	なし	—	○	—
目的地案内	あり	なし	—	○	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.121）、ワイヤレスドアロック共通（→P.89）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.121）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.89）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
ドアが施錠されている状態で を操作したときのドアロック解錠作動（パワーバックドア装着車）	なし	あり（全ドア解錠）	—	—	○
		あり（バックドアのみ解錠）			

■ ドアミラー（→P.152）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.155）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○
窓開警告制御	あり	なし	—	—	○

■ ランプ（→P.183）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ランプ消し忘れ防止ブザー	あり	なし	—	—	○

■ アダプティブハイビームシステム★（→P.187）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり／なし	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	15 km/h ／ 30 km/h ／ 40 km/h	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり／なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり／なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり／なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.183）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	より暗い	-2 ～ 2	○	—	○
ランプオートカット制御	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ リヤワイパー（→P.194）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	しない	する	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	—	○
リバース連動機能	1 回のみ作動	OFF 連続作動	—	—	○

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.210）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	ON/OFF	—	○	—
警報タイミング	早い／標準／遅い	—	○	—

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★（→P.237）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
フロントクロストラフィックアラート	ON/OFF	—	○	—
注意喚起タイミング	遅い／標準／早い	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.227）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート	ON/OFF	—	○	—
警報タイミング	早い／標準	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
低車速支援	ON/OFF	—	○	—

■ LCA（レーンチェンジアシスト）★（→P.224）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンチェンジアシスト	ON/OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.232）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト	ON/OFF	—	○	—
支援タイミング	遅い／標準／早い	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.240）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト	ON/OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法	無／表示／表示とブザー	—	○	—
その他の告知	無／表示／表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速	10 km/h ／ 5 km/h ／ 2 km/h	—	○	—

■ 休憩提案（→P.228）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	ON/OFF	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（→P.243）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
再発進可能時間延長	ON/OFF	—	○	—
加速度設定	強／中／弱	—	○	—
速度設定（短押し）	1 km/h ／ 5 km/h ／ 10 km/h	—	○	—
速度設定（長押し）	1 km/h ／ 5 km/h ／ 10 km/h	—	○	—
ガイド文言表示	ON/OFF	—	○	—
カーブ速度抑制	OFF ／強／中／弱	—	○	—

■ 発進遅れ告知機能（→P.239）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車	ON/OFF	—	○	—
信号	ON/OFF	—	○	—
告知タイミング	早い／標準／遅い	—	○	—

■ アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★（→P.257）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アドバンスト ドライブ	ON/OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライバーモニター★（→P.209）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
注意喚起	ON/OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ITS Connect★（→P.262）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
通知感度	低い／高い	—	○	—
信号情報	ON/OFF	—	○	—
道路環境情報	ON/OFF	—	○	—
緊急車両通知	ON/OFF	—	○	—
クルーズ（ITS）	ON/OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.296）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	ON	OFF	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.269）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	ON	OFF	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	標準	早い	—	○	—
		遅い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.288）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	ON	OFF	—	○	—
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量※	音量 2	音量 1	—	○	—
		音量 3	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ クリアランスソナーのブザー音量と連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.293）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCD 機能	ON	OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→P.280）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	ON	OFF	—	○	—
センサーの検知距離	遠い	近い	—	—	○
駐車支援システム音量 ※	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			
サラウンド通知	ON	OFF	—	○	—

※ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量と連動しています。

■ 安心降車アシスト（ドアオープン制御付き）★（→P.274）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
安心降車アシスト機能	ON	OFF	—	○	—
感度	中間	低い	—	○	—
		高い			
ミラー点灯	ON	OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.166）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	—	○	—

※「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ リヤシートリマインダー（→P.95）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後席置忘れ防止の表示	あり	なし	—	○	—

■ パワースライドドア★（→P.99）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
左側ハンズフリーパワースライドドア機能	あり	なし	—	○	○
右側ハンズフリーパワースライドドア機能	あり	なし	—	○	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	—	○	○
		レベル 2			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーバックドア★（→P.113）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア全開時の開度	お好みの位置	1 ～ 5	—	○	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	—	○	○
		レベル 2			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロントオートエアコン（→P.348）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	—	○

■ イルミネーション（→P.363）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○

■ エンジンスイッチ（→P.171）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ★ ACC の ON/OFF を切りかえる	ON/OFF	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パーキングサポートブレーキ	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P.300
パワースライドドア		P.103
パワーバックドア★		P.116
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P.155

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 474
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 477
アルファベット順さくいん..... 480
五十音順さくいん 482

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正のメカニカルキーを作ることができます。（→P.445）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.445）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.397）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.171）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.123）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.108）

スライドドアが全開にならない

- 給油扉が開いていませんか？
  給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.169）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.173）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.121）

● ステアリングロックされていませんか？（→P.170）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.446）

● バッテリーがあがっていませんか？（→P.448）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチは ON になっていますか？
エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.175）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.170）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、助手席のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.157）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.172）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.477）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.415, 422 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.427）

● 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.436）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を

試してください。（→P.453）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P.422
	窓が開いている（エンジン停止中のみ）	P.156
	後方から自動車・自転車が接近している	P.274
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.88
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.122
	電子キーを車内に置き忘れている	P.422

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.96
	パーキングブレーキが解除されていない	P.177
	運転席・助手席・リヤ席のシートベルトを着用していない※	P.417
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.176
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.164
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.210
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.219
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.227

状況	原因	詳細
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）★を使用している	P.224
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★が作動した	P.237
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.239
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.240
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.243
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.254

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect★が作動した	P.262
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.280
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.288
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P.293

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....348, 357
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....333
AHB
（オートマチックハイビーム）..190
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
.....187
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....269
EDR
（イベントデータレコーダー）.....9
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....333
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....44
ITS Connect
通信利用型レーダークルーズコントロール.....262
LDA
（レーンディパーチャ ― アラート）
.....219
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....401
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....296
RCD
（リヤカメラディテクション）..293
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....288
RSA
（ロードサインアシスト）.....224
SCB
（セカンダリーコリジョンブレーキ）
.....333
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....36
SYNC スイッチ
（シンクロスイッチ）.....354
Toyota Safety Sense
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....187
AHB（オートマチックハイビーム）
.....190
ドライバーモニター.....209
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....210
LTA（レーントレーシングアシスト）.....219
LCA（レーンチェンジアシスト）
.....224
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....227
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....232
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....237
発進遅れ告知機能.....239
RSA（ロードサインアシスト）240
レーダークルーズコントロール
.....243
クルーズコントロール.....251
ドライバー異常時対応システム
.....254
TRC
（トラクションコントロール）..333
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....333

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....448
アームレスト.....375
ITS Connect.....262
通信利用型レーダークルーズコントロール.....250
アウターミラー（ドアミラー）
安心降車アシスト.....274
格納のしかた.....153
操作.....152
ブラインドスポットモニター（BSM）269
ミラーヒーター.....352
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....288
アクセサリーソケット.....372
アクセサリーモード.....171
アシストグリップ.....378
アダプティブハイビームシステム...187
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）.....257
アラーム
音さくいん.....477
警告ブザー.....415
安心降車アシスト.....274
操作.....277
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....333
警告灯.....416
アンテナ
スマートエントリー＆スタートシステム.....121

い

イージークローザー
スライドドア.....101
バックドア.....115
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）.....169
エンジンのかけ方.....169
自動電源 OFF 機能.....172
車両を緊急停止する.....406
モード切りかえ.....171
位置交換（タイヤローテーション）.393
イベントデータレコーダー（EDR）.....9
イモビライザーシステム.....60
イルミネーテッドエントリーシステム.....363
インジケーター（表示灯）.....64
インテリアランプ.....363, 364
インナーミラー.....142, 143

う

ウインカー（方向指示灯）.....177
電球（バルブ）の交換.....401
方向指示レバー.....177
ウインドウ
ウォッシャー.....193, 194
パワーウインドウ.....155
リヤウインドウデフォッガー.....352
ウインドウロックスイッチ.....157
ウォッシャー.....193, 194
液の補充.....390
スイッチ.....193, 194
タンク容量.....459
冬の前の準備・点検.....343

動けなくなったときは（スタック）.453
運転 161
雨の日の運転.....161
運転を補助する装置.....333
寒冷時の運転.....343
正しい運転姿勢.....29
手順.....161
運転支援機能情報表示.....76
運転席シートベルト非着用警告灯 ...417

え

エアコン
オートエアコン.....348
曇り取り（フロントガラス）.....352
「ナノイー X」.....353
フィルターの清掃.....395
リヤオートエアコン.....357
リヤクーラー.....360
エアコン・デフォッガー.....352
エアバッグ.....36
SRS エアバッグ警告灯.....416
改造・廃棄.....41
警告ブザー.....416
作動条件.....37
正しい姿勢.....29
配置.....36
エコドライブインジケーター.....75, 84
エコモード.....175
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....333
警告灯.....417
エンジン
エンジンイモビライザーシステム.....60
エンジンが始動できない.....443
エンジンスイッチ（イグニッション）.169
エンジンの始動方法.....169
オーバーヒート.....451
タコメーター.....66, 69, 83
ボンネット.....388
エンジンイモビライザーシステム.....60
エンジンオイル.....456
警告灯.....416
冬の前の準備・点検.....343
メンテナンスデータ.....456
容量.....456
エンジン回転計（タコメーター）66, 69
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ）.....169
エンジンのかけ方.....169
自動電源 OFF 機能.....172
車両を緊急停止する.....406
モード切りかえ.....171
エンジンフード（ボンネット）.....388
エンジンルーム
エンジンルームから蒸気が出ている...451

お

オイル（エンジンオイル）.....456
応急用タイヤ.....436
空気圧.....459
交換方法.....436
オートエアコン.....348
オートマチックトランスミッション173
オートマチックハイビーム（AHB）190
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）.....185
オープナー
給油扉.....198
バックドア.....111
ボンネット.....388
お子さまを乗せるとき.....43
ウインドウロックスイッチ.....157
お子さまの安全のために.....43
キーの電池.....398
シートヒーターに関する警告.....362
シートベルトの着用.....31, 32
チャイルドシート.....44
チャイルドシートの取り付け.....44
発炎筒の取り扱いに関する警告.....406
バックドアに関する警告.....109
バッテリーに関する警告.....450
パワーウインドウに関する警告.....156
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....68, 72
表示切りかえボタン.....68, 72
表示項目.....68, 72

か

カーテンシールドエアバッグ.....36
カーペット.....385
洗浄.....385
フロアマットの取り付け方.....28
外気温度表示.....66, 69, 84
外装の電球（バルブ）.....401
交換要領.....401
ワット数.....460
買い物フック.....370, 377
カスタマイズ機能.....461
ガソリンスタンドでの情報.....500
型式.....460
カップホルダー.....367
カメラ
前方カメラ.....202
デジタルインナーミラー.....147
ドライバーモニターカメラ.....202
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....352
ガレージジャッキ.....389
冠水路走行.....166
寒冷時の運転.....343

き

キー 88
エンジンが始動できない 443
キーナンバープレート 88
キーの構成 89
キーレスエントリー 89, 121
キーをなくした.....445
正常に働かない.....445
施錠・解錠ができない 445
電子キー 88
電池が切れた.....397, 445
メカニカルキー.....90
ワイヤレスリモコン 89
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム
.....121
ワイヤレスドアロック 89
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）...164
給油
給油のしかた.....197
メンテナンスデータ 456
緊急時シートベルト固定機構 32
緊急始動機能 444
緊急時の対処
エンジンが始動できない 443
オーバーヒートした.....451
キーの電池が切れた.....397, 445
キーをなくした.....445
警告灯がついた.....415
警告メッセージが表示された 422
けん引 409
故障したときは.....404
車中泊が必要なときは 408
車両を緊急停止する 406
水没・冠水したときは 407
スタックした.....453
電子キーが正常に働かない.....445
発炎筒 405
バッテリーがあがった 448
パンクした.....427, 436
緊急ブレーキシグナル 333

く

空気圧（タイヤ）.....459
メンテナンスデータ 459
クーラー
リヤオートエアコン 357
リヤクーラー.....360
区間距離計（トリップメーター）68, 72
曇り取り
フロントガラス.....352
ミラーヒーター.....352
リヤウインドウデフォッガー.....352
クラクション（ホーン）.....141
クリアランスソナー 280
警告灯 419
操作 280
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 183
電球（バルブ）の交換 401
クリップ
フロアマット.....28
クルーズコントロール 251
警告灯 419
レーダークルーズコントロール243, 251
グローブボックス 366

け

警音器（ホーン）.....141
計器類（メーター）.....66, 69
警告灯.....415
運転支援情報表示灯.....419
ABS ＆ブレーキアシスト.....416
SRS エアバッグ.....416
LTA 表示灯.....418
LDA 表示灯.....418
エンジン.....416
クリアランスソナー OFF 表示灯.....419
クルーズコントロール表示灯.....419
高水温.....415
シートベルト非着用.....417, 418
充電.....415
スリップ表示灯.....420
ドライブスタートコントロール.....417
燃料残量.....417
パーキングブレーキ表示灯.....420
パワーステアリング.....417
PCS.....420
PDA 表示灯.....418
ブレーキ.....415
ブレーキオーバーライドシステム.....417
ブレーキホールド作動表示灯.....420
油圧.....416
レーダークルーズコントロール表示灯420
警告ブザー
SRS エアバッグ.....416
LTA（レーントレーシングアシスト）.418
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....418
エンジン.....416
休憩提案.....227
クリアランスソナー.....419
クルーズコントロール.....419
高水温.....415
シートベルト非着用.....417, 418
シフトダウン制限.....176
車線逸脱警報.....227
車線逸脱抑制.....227
衝突警報.....210
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....249
手放し運転警告（LCA）.....225
手放し運転警告（LTA）.....221
手放し運転警告（LDA）.....229
手放し運転警告（PDA）.....236
ドライブスタートコントロール.....417
パーキングブレーキ未解除走行時.....179
パワーステアリング.....417
半ドア.....95, 122
半ドア走行.....96
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....418
プリクラッシュセーフティ.....420
プリクラッシュブレーキ.....210
ブレーキ.....415
ブレーキオーバーライドシステム.....417
ブレーキホールド.....420
窓開.....156
油圧.....416
リバース.....173
レーダークルーズコントロール.....420
警告メッセージ.....422
化粧ミラー（バニティミラー）.....372
けん引
けん引のしかた.....409
フック.....411

こ

交換
キーの電池 397
タイヤ 436
電球（バルブ） 401
ヒューズ 399
工具（ツール） 428, 437
後席用サンシェード 374
航続可能距離 75
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 401
子供専用シート
取り付け方 45
小物入れ 369
コンソールボックス 366
コンライト（自動点灯・消灯装置） 183

さ

サードシート 132
サイドエアバッグ 36
サイドテーブル 376
サイド方向指示灯 177
電球（バルブ）の交換 401
方向指示レバー 177
サイドミラー（ドアミラー）
安心降車アシスト 274
格納のしかた 153
操作 152
ブラインドスポットモニター（BSM） 269
ミラーヒーター 352
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 288
サンシェード 374
サンバイザー 372

し

シート 126, 127, 132
サイドテーブル 376
シートアレンジ 136
シートバックテーブル 376
正しい運転姿勢 29
チャイルドシート 44
調整 126, 127, 132
手入れ 385
ヘッドレスト 133
シートアレンジ 136
シートテーブルダウンライト 363
シートヒーター 361
シートベルト 31
お子さまの着用 31, 32
緊急時シートベルト固定機構 32
高さ調節 34
正しく着用するには 32
着け方 33
着け方・はずし方 32
手入れ 385
妊娠中の方の着用 31
はずし方・格納のしかた 33
非着用警告灯 417, 418
シートベルト非着用警告灯 417, 418
シートベルトプリテンショナー 35
機能 35
プリテンショナー警告灯 416
室内灯 363
始動のしかた 169
シフトポジション 173
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ 173
シフトレンジの切りかえ 176
リバース警告ブザー 173

シフトレバー照明 363
シフトロックシステム 175
締め付けトルク（ホイール）..... 441
車中泊が必要なときは 408
ジャッキ
ガレージジャッキ 389
車載ジャッキ 437
ジャッキハンドル 437
車幅灯 183
電球（バルブ）の交換 401
ランプスイッチ 183
車両型式 460
車両仕様（スペック）..... 456
車両情報表示 77
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 406
充電用 USB Type-C 端子 373
収納装備 365
瞬間燃費 75
仕様（車両仕様）..... 460
初期化 472
パワーウインドウ 155
パワースライドドア 103
パワーバックドア 116
助手席シートベルト非着用警告灯 ... 417

す

水温計 66, 69
スイッチ
表示切りかえ 68
アダプティブハイビームシステム 187
イグニッション 169
ウインドウロック 157
ウォッシャー 193, 194
エコモード 175
LTA（レーントレーシングアシスト）. 221
エンジンスイッチ 169
オートマチックハイビームスイッチ ... 190
クルーズコントロール 251
シートヒーター 361, 362
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 243
車間距離切りかえ (レーダークルーズコントロール) 246
ステアリングヒーター 362
走行支援 (クルーズコントロール) 252
走行支援 (レーダークルーズコントロール) 246
走行支援モード選択 (クルーズコントロール) 252
走行支援モード選択 (レーダークルーズコントロール) 246
ドアミラー 152
ドアロック 96
トヨタチームメイト アドバンストパーク 314

パーキングブレーキ.....177
ハザードランプ.....405
バックドアオープン.....111, 113
パワーウインドウ.....155
パワースライドドア.....99
パワースライドドアオフ.....108
パワーバックドア.....113
非常点滅灯（ハザードランプ）.....405
表示切りかえ.....68, 72
VSC OFF.....334
ブレーキホールド.....180
方向指示レバー.....177
ホーン（警音器）.....141
メーター操作.....74
ランプ.....183
リヤウインドウデフォッガー.....352
レーダークルーズコントロール.....243
ワイパー.....193, 194
スーパー UV カット.....385
スターター
エンジンの始動.....169
スターターが回らない.....443
スタック.....453
ステアリング
ステアリングヒーター.....361
ステアリングスイッチ.....378
ステアリングヒーター.....361
ステアリングホイール（ハンドル）.141
位置調整.....141
メーター操作スイッチ.....74
ステアリングロック.....170
解除できないとき.....170
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル.....333
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....343
スピードメーター.....66, 69
スペアタイヤ（応急用タイヤ）.....436
空気圧.....391, 459
交換方法.....436
スペック（車両仕様）.....456
スマートエントリー＆スタートシステム
.....121
アンテナの位置.....121
エンジンの始動.....169
カスタマイズ設定.....461
緊急始動機能.....444
警告ブザー.....122
警告メッセージ.....122
作動範囲.....122
節電機能.....123
電波がおよぼす影響について.....125
ドアの解錠・施錠.....94, 111
バックドアの施錠・解錠.....111
スモールランプ（車幅灯）.....183
電球（バルブ）の交換.....401
ランプスイッチ.....183
スライドドア.....97
イージークローザー.....101
操作.....99
パワースライドドア.....99

せ

清掃 382, 385
アルミホイール.....383
外装.....382
シートベルト.....385
内装.....385
ホイールキャップ.....383
レーダー 203
制動灯
緊急ブレーキシグナル 333
セカンダリーコリジョンブレーキ（SCB）.....333
セカンドシート 127
積算距離計（オドメーター）.....68, 72
セキュリティインジケーター.....60
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....249
センサー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....270, 276
安心降車アシスト.....270, 276
後側方レーダー.....202
前側方レーダー.....202
前方レーダー.....202
デジタルインナーミラー 146
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....270, 276
BSM（ブラインドスポットモニター）.....270, 276
ライトセンサー.....185
レーダーセンサー.....202
洗車 382
前照灯（ヘッドランプ）.....183
オートレベリングシステム 185
電球（バルブ）の交換.....401
マニュアルレベリングシステム.....186
ライトセンサー.....185
ランプ消し忘れ防止機能 185
ランプスイッチ.....183

そ

走行距離.....77
走行時間.....77
走行情報表示.....75
速度計（スピードメーター）.....66, 69
ソフトウェアアップデート.....199

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）.....177
電球（バルブ）の交換 401
方向指示レバー.....177
ワット数 460
タイヤ 391
応急用タイヤ.....436
空気圧 394, 459
交換.....391, 436
締め付けトルク.....441
チェーン 343
点検.....391
パンク応急修理キット 427
パンクしたときは.....427, 436
冬用タイヤ.....343
ホイールサイズ.....459
ローテーション（位置交換）.....393
タイヤが空まわりする（スタックした）.....453
タイヤチェーン.....343
タコメーター.....66, 69

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....343
チャイルドシート.....44
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け56
シートベルトでの固定.....54
選択方法.....44
チャイルドプロテクター.....108
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
.....177
パーキングブレーキ表示灯.....420
ブレーキ警告灯.....415
未解除走行時警告ブザー.....179
メンテナンスデータ.....458

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール.....250
ツール（工具）.....437

て

提案サービス機能.....79
ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ.....80
マルチインフォメーションディスプレイ
.....73
ディファレンシャル.....458
手入れ.....382, 385
アルミホイール.....383
外装.....382
シートベルト.....385
デジタルインナーミラー.....147
内装.....385
ホイールキャップ.....383
レーダー.....203
テールランプ（尾灯）.....183
電球（バルブ）の交換.....401
ランプスイッチ.....183
デジタルインナーミラー.....143
デジタルキー.....91
デッキフック.....370
デッキボード.....370
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....352
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....401
ワット数.....460
点検基準値（メンテナンスデータ）.456
電子キー.....88
作動範囲.....122
正常に働かないとき.....445
節電機能.....123
電池が切れた.....445
電池交換.....397
電池交換（キー）.....397

と

ドア 94
スマートエントリー＆スタートシステム 121
スライドドア.....97
チャイルドプロテクター 108
ドアガラス 155
ドアロックスイッチ 96
バックドア 109
ロックレバー.....96
ワイヤレスリモコン 94
ドアミラー
安心降車アシスト.....274
格納のしかた.....153
操作 152
ブラインドスポットモニター（BSM）269
ミラーヒーター.....352
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....288
ドアミラー足元照明 363
盗難防止装置
イモビライザーシステム 60
時計 66, 69
トップテザーアンカレッジ.....57
Toyota Safety Sense.....201
RSA（ロードサインアシスト）.....240
オートマチックハイビーム.....190
クルーズコントロール 251
ソフトウェアアップデート.....199
ドライバーモニター 209
レーダークルーズコントロール.....243
トヨタチームメイト アドバンストパーク 309
縦列出庫機能.....323
縦列駐車機能.....320
並列前向き・バック出庫機能.....319
並列前向き・バック駐車機能.....316
メモリ機能.....325
ドライバー異常時対応システム（EDSS）.....254
ドライバーモニター 209
ドライブスタートコントロール.....166
急発進の抑制制御 166
後退速度の抑制制御 166
トラクションコントロール（TRC）333
トランスファー
メンテナンスデータ 458
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー.....176
操作 173
メンテナンスデータ 458
トリップメーター 68, 72

な

内装
収納装備 365
手入れ 385
「ナノイー X」..... 353

に

荷物
積むときの注意 167
ラゲージルーム内装備 370

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 453

ね

燃費
瞬間燃費 75
平均燃費 75
燃費画面 85
燃料 456
ガソリンスタンドでの情報 500
給油 197
種類 456
燃料計 66, 69
燃料残量警告灯 417
容量 456
燃料計 66, 69

は

パーキングサポートブレーキ 296
警告メッセージ 300
操作 297
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 303
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 304
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）..... 307
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 301
パーキングブレーキ 177
操作 177
冬季の注意 344
パーキングブレーキ表示灯 420
ブレーキ警告灯 415
未解除走行時警告ブザー 179
メンテナンスデータ 458
パーソナルランプ 363, 364
排気ガス 42
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 183
アダプティブハイビームシステム 187
オートマチックハイビーム 190
電球（バルブ）の交換 401
ランプスイッチ 183
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 401
薄暮灯 183
スイッチ 183
ハザードランプ（非常点滅灯）..... 405
スイッチ 405
電球（バルブ）の交換 401
ワット数 460

挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....155
パワースライドドア.....103
パワーバックドア.....115
発炎筒.....405
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....401
バックドア.....109
イージークローザー.....115
バックドアハンドル.....111
パワーバックドア.....113
フリーストップバックドア.....118
バックドアオープナー.....111, 113
発進遅れ告知機能.....239
バッテリー
警告灯.....415
サイズ.....449
バッテリーがあがった.....448
バニティ（化粧用）ミラー.....372
バニティミラーランプ
装備について.....372
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....401
ワット数.....460
パワーウインドウ.....155
ウインドウロックスイッチ.....157
閉めることができないときは.....155
操作.....155
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...156
挟み込み防止機能.....155
パワーステアリング
警告灯.....417
パワースライドドア
開け方.....99
挟み込み防止機能.....103
パワードアオフスイッチ.....108
ハンズフリーパワースライドドア.....99
パンク応急修理キット.....428
パンクした
応急用タイヤ装着車.....436
タイヤパンク応急修理キット装着車...427
番号灯（ライセンスプレートランプ）
.....183
ランプスイッチ.....183
ハンズフリーパワースライドドア.....99
ハンドル（ステアリングホイール）.141
位置調整.....141
メーター操作スイッチ.....74

ひ

ビークルスタビリティコントロール
（VSC）.....333
ヒーター
シートヒーター.....361
ステアリングヒーター.....361
フロントオートエアコン.....348
ミラーヒーター.....352
リヤオートエアコン.....357
プロアクティブドライビングアシスト
（PDA）
警告灯.....418
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ.....405
電球（バルブ）の交換.....401
ワット数.....460
尾灯（テールランプ）.....183
電球（バルブ）の交換.....401
ランプスイッチ.....183
ヒューズ.....399
表示切りかえボタン.....68, 72
表示灯.....64
日よけ（サンバイザー）.....372
ヒルスタートアシストコントロール333

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....448
ブザー
クリアランスソナー.....285
シフトダウン制限警告.....176
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....249
手放し運転警告（LCA）.....225
手放し運転警告（LTA）.....221
手放し運転警告（LDA）.....229
手放し運転警告（PDA）.....236
パーキングブレーキ未解除走行時警告179
半ドア警告.....95, 122
半ドア走行時警告.....96
ブレーキホールド.....420
窓開警告.....156
リバース警告.....173
フック
買い物フック.....370, 377
けん引フック.....411
デッキフック.....370
フロアマット固定フック.....28
フューエルメーター.....66, 69
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた.....197
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....343
冬用タイヤ.....343
ブラインドスポットモニター（BSM）.....269
操作.....271
プラスサポート（販売店装着オプション）.....338
フリーストップバックドア.....118
プリクラッシュセーフティシステム（PCS）
機能.....210
操作.....218
PCS 警告灯.....420
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル.....333
警告灯.....415
パーキングブレーキ.....177
ブレーキ警告灯.....415
ブレーキホールド.....180
メンテナンスデータ.....458
ブレーキアシスト.....333
機能.....333
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる.....164
ブレーキフルード.....458
ブレーキホールド.....180
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）
操作.....235
フロアマット.....28
フロントインテリアランプ.....364
フロントエアコン.....348
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）.....237
操作.....238
フロントシート.....126
シートヒーター.....361
正しい運転姿勢.....29
手入れ.....385
フロントドア.....94
フロント方向指示灯.....177
電球（バルブ）の交換.....401
方向指示レバー.....177
フロントワイパーデアイサー.....352

へ

平均車速.....77
平均燃費.....75
ヘッドアップディスプレイ.....80
運転支援システム表示.....82
エコドライブインジケーター.....84
外気温度表示.....84
設定.....81
割り込み表示.....83
ヘッドランプ.....183
電球（バルブ）の交換.....401
マニュアルレベリングシステム.....186
ライトセンサー.....185
ランプ消し忘れ防止機能.....185
ランプスイッチ.....183
ヘッドランプオートレベリングシステム.....185
ヘッドレスト.....133

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....436
メンテナンスデータ.....459
ホイールナットレンチ.....437
方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....401
方向指示レバー.....177
ワット数.....460
ホーン（警音器）.....141
保証.....10
補助確認装置.....153
ボトルホルダー.....368
ボンネット
開け方.....388
警告ブザー.....96

ま

マイセッティング.....158
マルチインフォメーションディスプレイ.....73
運転支援機能情報表示.....76
エコドライブインジケーター.....75
警告メッセージ.....422
航続可能距離.....75
車両情報表示.....77
設定.....78
走行情報表示.....75
提案サービス機能.....79
ドライブインフォメーション.....77
燃費グラフ.....75
メーター操作スイッチ.....74
メニューアイコン.....74
マルチインフォメーションディスプレイ 4WD 作動状態表示.....77

み

ミラー
インナーミラー.....142
デジタルインナーミラー.....143
ドアミラー.....152
バニティミラー.....372
補助確認装置.....153
ミラーヒーター.....352

め

メーター
計器類 66, 69
警告灯 415
警告メッセージ 422
設定 78
時計 66, 69
表示灯 64
マルチインフォメーションディスプレイ 73
メーター操作スイッチ 74
メカニカルキー 90
メニューアイコン 74
メンテナンスデータ 456

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 461
雪道ですべって動けない（スタックした） 453
油脂類 456
ユニバーサルステップ 108

よ

4WD 作動状態表示 77

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯） 183
ランプスイッチ 183
ラゲージボックス 371
ラゲージルーム 370
デッキボード 370
ラゲージボックス 371
ラゲージルーム内の装備 370
ラゲージルームランプ 363
ラジエーター
オーバーヒート 451
メンテナンスデータ 457
ランプ
アダプティブハイビームシステム 187
インテリアランプ 363
オートマチックハイビーム 190
室内灯 363
電球（バルブ）の交換 401
パーソナルランプ 364
非常点滅灯（ハザードランプ） 405
ヘッドランプ（前照灯） 183
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 177
ライトセンサー 185
ランプ消し忘れ防止機能 185
ワット数 460
ランプ消し忘れ防止機能 185

り

リバース連動機能 195
リヤアームレスト 375
リヤインテリアランプ..... 364
リヤウインドウデフォッガースイッチ
..... 352
リヤオートエアコン 357
リヤカメラディテクション..... 293
操作 293
リヤクーラー 360
リヤクロストラフィックアラート
（RCTA）..... 288
操作 289
リヤシート
リヤシートヒーター 361
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 418
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 401
方向指示レバー..... 177
ワット数 460

る

ルームミラー（インナーミラー）... 142,
143

れ

冷却水
冬の前の準備..... 343
メンテナンスデータ 457
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート..... 451
メンテナンスデータ 457
レーダークルーズコントロール..... 243
警告灯 420
警告メッセージ..... 248
接近警報 249
レーダー 202
レーンチェンジアシスト（LCA）.... 224
操作 226
レーンディパーチャーアラート（LDA）
..... 227
警告灯 418
操作 229
レーントレーシングアシスト（LTA）
..... 219
警告灯 418
操作 221
レバー
シフト 173
方向指示 177
ボンネット解除..... 388
ロック（ドア）..... 96

ろ

ロードサインアシスト (RSA).....240
ロック
ウインドウロック.....157
スマートエントリー&スタートシステム
.....121
スライドドア.....97
チャイルドプロテクター.....108
バックドア.....109
フロントドア.....94, 96
ワイヤレスリモコン.....89

わ

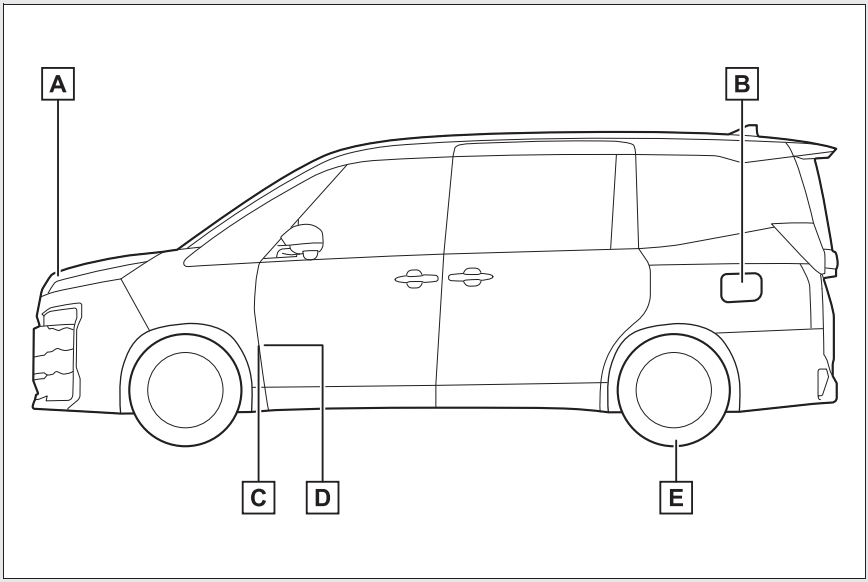
ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....390
フロント.....193
リヤ.....194
ワイパブレード（寒冷地用）.....344
ワイヤレスリモコン.....89
作動の合図.....94
操作.....89
電池の交換.....397
半ドア警告ブザー.....95
ワックス.....382
ワット数.....460

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ·オーディオ
- ·パノラミックビューモニター
- ·ハンズフリー
- · T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.388）

B 給油口（→P.197）

C ボンネット解除レバー（→P.388）

D 給油口オープナー（→P.197）

E タイヤ空気圧（→P.459）

燃料の容量（参考値）	52L
燃料の種類	P.456
タイヤが冷えているときの空気圧	P.459
エンジンオイル容量（参考値）	P.456
エンジンオイルの種類	P.456

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォームによるお問い合わせ

チャットによるお問い合わせ

手話通訳サービスによるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ラ-70

TOYOTA

M 28A59
01999-28A59
IS-2024年 8 月 2 日
2024年 4 月 4 日 初版
2024年 8 月 9 日 2 版
ヴォクシー（ガソリン車）